HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治一一年
Citation	北大百年史, 史料(一), 327-425
Issue Date	1981-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30097
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo1_p327-425.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

明治一一年

二八〇　演武場仕様説明

千八百七十八年一月二日札幌ニテ

札幌農学校長開拓権大書記官調所広丈台下

君ノ請ニ応シ更ニ一階ヲ加ヘタル演武場ノ図ヲ呈ス〔注〕

操練場ニハ柱ノ演芸ヲ妨クルモノヲ避ケンカ為ニ之ヲ二階ニ置キ階梯ヲ備フ

今般附加セシ楼下ノ諸講室ハ四級ノ全数ヲ教授スルヲ得ヘシ

如此スルトキハ英学講堂ノ二階ハ図画及土木術ノ室トシテ用ユルコトヲ得ヘシ之モ亦欠クヘカラサルモノタリ

農学校教頭代理ホヰラー

〔別紙〕

概説

一　各階床ヨリ梁下マテ高サ十二英尺トス

二　組方ハ甚タ堅強ナルモノタルヘシ

三　屋脊ハ総テ組ミ材木ニシテ柱ヲ用ヒス

四　操練室ハ天井無シニシテ屋脊ノ諸材木ハ皆ナ平滑ナラシメ蒼天（スカイブ）色（レウ）ニ塗ルヘシ

五　楼下ノ内壁ハ壁土ニテ塗リ木造ノ部ハ油漆ニテ塗ルヘシ

六　二階ノ内壁ハ松板ニテ掩ヒ蒼天色ニ塗ルヘシ

七　窓戸ハ米国風ニ上下スルモノヲ用ユヘシ

八　煙突及黒板ハ図ニ載スル如スヘシ

九　武庫ノ銃架小室ノ匣函講室ノ腰架及体操諸具ハ他日ノ指示ニ随テ備ヘラルヘシ

ホヰラー

〔注〕　図は英文書簡にあり。

〔農〇五六（ホイーラー三一―一）〕

二八一　生理学比較解剖学英文学教師兼開拓使病院医師顧問としてエムソンまたはカッター推挙の件

第四号

生理学比較的解剖学英文学教師兼開拓使病院医師顧問トシテ御雇入ニ相成ベキ人名ヲ吹挙

第一　在米国合衆国マサキセツ州コンコルト府

医学博士イドウード、ダブリユ、エムソン

第二　（右代人

在米国合衆国マサキユセツ州ボストン

マサキユセツ、ゼネラル、ホスピタル

医学博士ジョン、クラレンス、カター

千八百七十八年一月十六日於札幌　ウイルリヤム、ホヰラー

〔道〇二四五四〕

二八二　解剖学教師雇入に付米国在留公使へ依頼申入

（一月一九日検印済）

一ノ三十五号

東京書記官　　札幌書記官

当地札幌農学校解剖学教師壱名米国より雇入之儀天第三十七号ヲ以伺出候処客歳十二月中電信ヲ以御照会之趣了承如来意壱名ニテ該校教授且当地病院医員質問ノ為メ給料壱ケ年三千円ニテ雇入候様致度仍テ同校教頭代理ホヰラー氏より推挙人名書幷ニ条約書共回付候条米国駐在我公使へ可然御照会至急赴任候様御取計有之度此段回答申進候也

十一年一月

追伸客歳調所権大書記官出京ノ折携帯其地安田権大書記官へ御打合及置候農鬘化学教員以下数名雇入之儀学力充分ナル者文部省ニ而保証致候人物御採用本年八月中旬迄当地へ来着候様御取計有之度候也

〔農〇六〇〕

二八三　第二期授業時間割提出の件

第一号

千八百七十八年一月二十一日於札幌

札幌農鬘長開拓権大書記官調所広丈貴下

余ハ玆ニ謹テ本月二十四日ヨリ起業スヘキ別紙第二期日課表ヲ呈ス

敬具

札幌農校教頭代理ウイルリヤム、ホヰラー

〔別紙〕

札幌農学校第二期（即千八百七十七年同八年ニ渉ル日課表

第二級

一　測量術　午前九時三十分ヨリ同十時三十分マテ　教師ホヰラー

追テ実地野業ヲ定メントス

一　実地的化学　午前十時三十分ヨリ同十二時三十分マテ　同　ペンハロー

但月火木金曜日

一　農学　午前十時三十分ヨリ同十一時三十分ニ至ル　同　ブルークス

但水土曜日

一　和漢学　午前十一時三十分ヨリ同十二時三十分マテ　長尾氏

但水土曜日

一　算術的図学及図画学　午後二時廿分ヨリ同四時マテ　同　ホヰラー

但火金曜日

一　手作　時宜　教師ブルークス

是ハ其時宜ニ従ヒ指示セントス

初級生

一	幾何学	自八時三十分至九時三十分	同　ホキーラ
一	化学	自午前九時三十分至十時三十分	同　ペンハロー
一	農学	自午前十時三十分至十一時三十分	同　ブルークス
	但月火木金曜日		
一	作文及流談	午前十一時三十分ヨリ午前十二時三十分マテ	同　ブルークス
	但土曜日〔注一〕		
一	流弁及幾何的図学	午後二時三十分ヨリ同四時ニ至ル	同　ホキーラ
	但月木曜日		
一	手作	午後二時ヨリ五時ニ至ル	同　ブルークス
	但火金曜日		

但該生徒学力進捗ニ因テハ此ノ期限中ト雖右課業表ヲ改正スルコトアルベシ

予課

一級

一	開化史	午前八時三十分ヨリ同九時三十分マテ	教師ペンハロー
一	作文及流談	同九時三十分ヨリ同十時三十分マテ	同　ブルークス
一	代数学	同十時三十分ヨリ同十一時三十分マテ	同　ホキーラ
一	和漢学	同十一時三十分ヨリ同十二時三十分マテ	長尾氏

但月火木金曜日

二級

一	算術	午前八時三十分ヨリ同九時三十分マテ	井川氏
一	和漢学	午前九時三十分ヨリ同十時三十分マテ	長尾氏
一	英語学〔注二〕習字学	午前十時三十分ヨリ同十一時三十分マテ	井川氏
一	地理誌但月水曜日	午前十一時三十分ヨリ同十二時三十分マテ	井川氏

三級

一	和漢学	午前八時三十分ヨリ同九時三十分マテ	長尾氏
一	算術	同九時三十分ヨリ同十時三十分マテ	井川氏
一	習字〔注二〕	同十時三十分ヨリ同十一時三十分マテ	井川氏
一	英語	同十一時三十分ヨリ同十二時三十分マテ	井川氏

札幌農校教頭代理ウイルリヤム、ホキラー

〔注一〕英文書簡には、水曜日土曜日と記載されている。

〔注二〕英文書簡によれば、英習字である。

〔道〇二四五四（ホイーラー三四・三五）〕

二八四　農学校のキリスト教信仰新聞掲載に付問合

番外

札幌書記官　　東京書記官㊞（安）㊞（小牧）

別紙其地農学校一件新聞紙へ掲載差支有無定則知合ノ日報社員ヨリ

内々尋出候ニ付該社ノ都合ニ依リ何レニテモ差支無之候得共前件ハ全ク虚説ニシテ顕跡無之義ニ候旨申聞置候然ルニ万一別紙ニ書載セル如ク官立ノ学校ニ於テ公然生徒ヘ教授候様ノ義有之候テハ御国体上ニモ関係シ以ノ外ノ事ニ候間篤ト御注意右等ノ所行決シテ無之様御取締可有之旨長官殿御内達之趣モ有之候条御了承有之度此段申進候也

十一年一月廿二日

追テ別紙ノ事件当地友人ヘ報知致候者ノ姓名篤ト御探偵若シ相分リ候ハヽ、御通報相成候様致度此段申添候也

〔別紙〕

再拝シテ編輯長机下ニ呈ス抑モ左ノ一書ハ生ガ一友現今北海札幌農学校ニ在ルモノヨリ該校中ノ景況ヲ報シ来リシ書中少シク奇異ニ渡ルモノアレバ抄出シテ以貴社ニ投ズ余白アレバ乞フ記載シ給ヘ

当校ノ権ハ勿論校長ノ手ニ在リト雖モ外国教師ノ威アルコト動モスレバ校長ノ右ニ出ツルコトアリ

校中耶蘇教大ニ流行シ生徒概ネ該宗ニ帰依ス蓋シ威（ヲツト）異人教師サンハ耶宗ノ無二信者ナレバナリ、余（通信者）曾テ信仰生ノ不信者ヲ歓導セントスルモノヽ、語ヲ聞クニ曰ク耶蘇教ハ最好シ可信且教師ハ最モ信心者ナレバ我々ガ洗礼ヲ行フヲ聞カバ必ス悦ブヘシ然ラバ試験ノ期其学力ノ不足ナルモ決シテ落第ノ憂ヒアルマジト亦一日余ハ耶蘇教会席ニ至リ経文ノ講義ヲ聞ク終テ生徒不残祈禱ヲ為ス其祈言ヲ聞クニ曰ク日本睦仁親王ヲ始メ高貴ノ縉紳ニモ悉ク聖主ノ教ヲ辨知セシメ次テ本邦ノ諸民ニ及サンコトヲ日夜真神ニ祈ル伏而願クハ速ニ我日本国ニ其道ヲ広メ玉ヘアーメン云云

抑モ該校生徒ハ親王ト天皇陛下トノ区別ヲ未タ知ラザル如キ小児輩ナルカ曰ク否彼輩ハ堂々タル官貴ノ「スチユーデントニシテ決シテスクールボーイニ非ザルヲ信ス然ルニ何故ニ右ノ如キ奇々怪々ノ語ヲ為スヤ生其意ヲ解セズ敢テ之ヲ諸先生ニ質ス

附言就眠前孤燈暗処ニ筆記ス乱文乱筆乞フ御判シアレ

一月十四日夜

〔農〇六五〕

二八五　ホイーラーを教頭に任命の儀上申

札幌農学校

上局　　外事課

教頭クラク氏離任之際一時ウヰラル氏ヘ教頭代理被命置候処クラク氏儀本国ニ於テ復職相成候旨報知有之ニ付ウヰラル氏教頭ニ被命候様致度此段上申候也

明治十一年一月廿三日

〔農〇六四〕

二八六　農学校ヘ維持資金付与の儀伺（一月二三日検印済）

天第四号

札幌農学校ヘ資本金被附度儀伺

札幌農学校ヘ資本金附与永続保存之義ニ付調所権大書記官ヨリ別紙之通申出右ハ実地適当之儀ニ相聞且農鬻ハ拓地殖民ノ基礎ニシテ一日モ不可忽漸次之レヲ拡充シテ益盛大ナラシメ人才ヲ輩出シ開拓之実績ヲ奏シ度候ニ付出格之御詮議ヲ以同官建議之金額若クハ鰊絞粕ニ限ラス当管内収税品払下代金之内ヲ以御下付之儀御允裁相成候様致度別紙相副此段相伺候也

明治十一年一月　日　　札幌在勤開拓大書記官堀基

開拓長官黒田清隆殿

〔朱書〕「伺之趣難聞届候事

明治十一年十一月五日」

〔別紙〕

札幌農学校ヘ資本金被附度儀伺

抑農学校ノ設立タルヤ人民ヲ教育シテ博識多才ノ子弟ヲ得之ヲ北海全道ニ施シ拓地殖民ノ事業ヲ盛大ニスルニ在リ彼ノ牧畜樹芸等ノ如ク近利ヲ見ル可キニ非スト雖モ之ヲ要スルニ千緒万般ノ事業皆ナ人才ニ胚胎セスンハ非ス是レ則学校ノ万々以テ止ム可カラサル者也然而テ之ヲ永続保護スルノ策ニ至テハ之カ資金ヲ備ヘスンハ有ルヘカラサルナリ従来農学校ノ経費ハ年々金壱万六千円内外ノ予算ヲ以金員下付相成来候処客歳十月第十二号本使諭達ノ趣旨モ有之本校永年連続ノ方法篤ト勘考ニ渉候処当道他日府県ノ制度トナリタル後年々国県税ノ内幾分カ経費トシテ本校ヘ附与相成候トモ是レ則チ官立学校ノ体裁ニシテ到底文部省或ハ内務省ノ直管ヲ免レズ爰ニ於テヤ廃置ノ論又如何ナルモ識ルヘカラス然ラハ則チ今日ニシテ之カ資本ヲ結合シ之ヲ北海全道ノ公立農大学校トスルニシカス聞ク米利堅合衆国マサチユセツク州ノ農学校ハ同州ノ地ヲ人民ニ売渡シタル代価ノ内二拾五万円ヲ附与シ此利朱金ヲ以テ資本ト為ト今此良法ニ模倣シ本校ヘモ資本金トシテ金拾五万円附与相成度右附与ノ方法ハ鰊絞粕収税品ノ内ヨリ五万円（百石ニ付三百円ノ割）之ヲ三ケ年ニ割リ当十一年ヨリ来ル十三年迄年々壱万六千六百六拾六石余ヲ五万円ト見做下附相成候ハヽ、右ヲ以テ当道漁民ノ内身本正ナル者ヘ抵当ヲ取リ年々貸渡シ置キ右ノ利子ヲ以テ本校ノ経費ニ充テ本使設置ノ学校ヲ永年ニ連続シテ大ヒニ人才ヲ輩出セシメ拓地殖民ヨリ物産ノ万緒ニ至ルマテ各其隆興ヲ極メ本使開拓卓絶ノ偉功巍然トシテ相顕レ候様致度存候ニ付右資本金附与ノ義御允裁相成候様致度此段相伺候也

明治十一年一月　札幌農学校長開拓権大書記官調所広丈印

開拓大書記官堀基殿

諸費		月給	
器械修繕費	年金 千円	校長	壱人
化学薬品費	年金 千円	教頭 外国人	壱人 年給 三千円
修繕費	年金千五百円		
需用費	年金 五百円	英語学教師 内国人	一人 同 六百円
	合計四千円	農学兼獣医学 同	一人 同
		化学 同	一人 同
		物理学兼土木学図学 同	一人 同
		本草学 同	一人 同
		数学兼測量学星学 同	一人 同
		兵学 同	一人 同
		事務係 同	一人 同
		外使役人	三人 小以七千八百円 年給百九拾八円

以上総計壱万千九百九拾八円

札幌へ留学ノ生徒入費概算

費目	金員 壱ヶ月	一ヶ年
授業料	三円	三拾六円
稽古用品	壱円弐拾五銭	拾五円
食料 和料理	三円六拾五銭	四拾三円八拾銭
舎料	拾銭	壱円弐拾銭
被服 和服	壱円	拾弐円
雑費 湯油薪其他	壱円	拾弐円
	合計 拾円	合計 百弐拾円

札幌居住ノ子弟通学入費

費目	金員 一ヶ月	一ヶ年
授業料	三円	三拾六円
稽古用品	壱円弐拾五銭	拾五円
	合計 四円弐拾五銭	合計 五拾壱円

〔道〇二四二四〕

二八七　温室を勧業課より譲受または新設に付伺

上局㊞（内海）　㊞（調所）札幌農学校㊞（森）㊞（下山）㊞（加藤）

勧業課

温室培養法之義者農学上不可欠之要業ニ有之候処方今御設置之温室者勧業課所属ニ而教師ホーマン氏指揮ニ有之ニ付学校ト兼用ニ而者到底不都合ヲ来シ可申ニ付右ヲ本校所管ニ属シ候歟又者別ニ御新設相成候歟両様之間御決定相成度旨教頭代理より申出ニ付何分之御指令相成候様致度此段相伺候也

明治十一年一月廿三日

二伸右温室学校所属ニ相成候トモ従前之取扱人被附置候ハヽ諸人縦観者勿論草花培養及払下等之手続従前之仕来ニ相変候廉無之旨教頭代理より申副候也

＊　当分ノ内従前ノ通リ被据置度候也

㊞（内海）　㊞（佐藤）㊞（細川）㊞（高畑）

〔農〇五六〕

二八八　明治一一年度農学校営繕費予算内訳

明治十一年七月ヨリ経費予算内訳
明治十二年六月マテ

札幌農学校

一　金七千弐百五拾四円拾八銭五厘　営繕費

内訳

金千百八拾九円拾八銭五厘　講堂狭少ニ付模様換費
金四千五百円　演武場新築費
金百三拾五円　生徒舎ズック敷換入費
金百三拾円　講堂幷ニ生徒舎カットン掛替入費
金千円　生徒増員舎不足ニ付補理営繕費
金三百円　本草園出来費

明治十一年七月ヨリ同十二年六月迄予算営繕費内訳書面之通候也

明治十一年一月　理事課一等属森源三

開拓大書記官堀基殿

＊　四千七百四十八円五十銭

〔農九二一〕

二八九　私費生、予科生月謝に付達

記

私費生入校スル者
毎月必ス金拾弐円ヲ納メシムベシ
但時宜ニ依リ増減スルコトアルベシ

予科生月謝ハ
毎月金五十銭ヲ納メシムベシ

但予習科ハ舎室之設ケ茂無之ニ付当分入校ヲ許サズ

明治十一年一月　　農学校

〔農〇六八〕

二九〇　校園定額残金の資金化に関する意見

弐十六号

千八百七十八年二月五日於札幌

開拓権大書記官調所広丈貴下

貴下ノ需メニ従ヒ委ニ校園年々ノ定額残金ヲ生息セシムヘキノ方法ヲ以テ放銀シ以テ校園ノ資金トセサル可ラサルノ理由ヲ開陳スルノ光栄ヲ有ス余カ聞ク所ニ拠レハ該園モ千八百八十年ノ後ハ全ク自立経営セサル可ラス是レ此法ノ施行セサル可ラサル所以ナリ蓋シ該園ノ向後数年間尚其得ル所失フ所ヲ償フニ足サル所以ノ理数条アリ請フ委ニ其二三ヲ詳明セン

爾来年々必要ノ家作家畜器械及ヒ小道具購求並ニ恒久ノ修整等ノ為メ尚巨額ノ金ヲ支消セサル可ラス然モ幸ヒニ其定額ハ頗ル寛大ノ宛行ナレハ家作築路及ヒ諸種ノ工業モ最モ堅牢ニ之ヲ建設スルヲ得一度ヒ之ヲ建築セハ多年間是カ修繕ヲ要スルコトナカル可ナリ惟ニ該園ヲシテ諸物整頓シ諸事完全スルニ至ラシメント欲セハ其予算金現今ノ儘ナラハ千八百八十年ノ末ニ至ルマテハ必ス其全額ヲ支消セサル可ラサルナリ然モ整頓及ヒ必要ノ諸修整ニ欠ク可ラサルノ器械並ニ諸般ノ物件ハ悉ク之ヲ目下ニ求メ置カサル可ラサルニ非ス故ニ年々必需ノ物ノミヲ購ヒ置キ定額ノ残金ハ之ヲ放銀トシ生息セシメンコト現今急ニ入用ト云フニ非サルノ物品ヲ買フテ其額金ヲ悉ク消燼スルヨリハ巧計ナルヘシ若シ必要ノ場ニ至ラサルノ今日ニ於テ之ヲ買置トキハ之ヲ実用ニ供スル迄代金ニ係ルノ利息ヲ失フノ道理ナリ左スレハ真ニ必要ノ時ニ至リシトキ之ヲ購ヒ夫レ迄ハ残金ヲ放銀シ置キテ若千金ヲ儲ケンコトノ利タルハ如何ソヤ斯ノ如クセハ機械及ヒ小道具等入用ノ節ニハ自然其放銀ヨリ生スルノ利息モ我有トナルヘキカ故一層多数ノ物ヲモ求メ得ヘキニ至ルナリ尤モ建築修整器械及ヒ小道具買入等ノ費途ハ年一年ヨリ減スヘキニ付千八百八十年ノ末迄ニ貯畜スル丈ケノ金ハ悉皆遣ヒ払ハサル可ラサルモ其後ハ該園ノ収入金ヲ以テ常費ハ勿論前条陳スルカ如キ非常ノ費途ヲモ必ス自ラ償フコトヲ得ヘキハ余ノ信スル所ナリ然レトモ若シ該園ヲシテ同年末ニ至テ毫モ定額外ニ得ル所（利子ヲ云フ）ナカラシメハ其能自立シテ以テ生徒ヲ至当ニ馴練シ輓近改良ノ農業法ノ規範タルニ負カス以テ該園設立ノ本旨ニ適フニ至ンコト蓋シ甚タ覚束ナシトス尤モ此近傍ノ市場ヲシテ該園ノ産物如何程許多ナルニ至ルトモ悉ク之ヲ現今ノ通価ヲ以テ購ヒ得ヘキカ如キノ繁昌ヲ致サシメハ千八百八十年ニ至ラサルモ得失ヲ償フヘキハ容易ナリト雖モ其市場ノ斯ノ如キノ繁昌ニ

至ラサルハ蓋シ数年ノ後ヲ期スル可ラサルナリ然モ人口ト殷富トハ時ト共ニ増進シ運貨ノ便モ亦進歩スヘキニ付一層広大ニシテ且ツ新奇ナル市場モ必ス我カ為メニ開ケ我産物ヲ売却シテ利益アルニ至ランコト亦遠キニ非サルヘシ」美鮮ナル鹿肉ノ供求極メテ多クシテ二三銭ヲ費サハ既ニ一斤ヲ贖ヒ得ルコト今日ノ如キニ於テハ牛ヲ牧シテ其肉ヲ販カンコト決シテ得策ニ非ルハ衆人ノ詳悉スル所トス然モ往々人口ノ増殖ニ従ヒ肉食ノ需用モ自ラ増加セサルヲ得ス遂ニ鹿肉ノ供給モ之ニ応スル能ハサルニ至リ牛羊豚肉ヲ産スルモ亦タ之ヲ売テ利アルヘキナリ殊ニ肉ヲ管詰メト成スノ業ノ如キハ遠カラスシテ我産物ノ贏余ヲ消流スルニ最モ有益ノ方便タルニ至ルヘシ牛乳牛酪及ヒ乾酪ノ求需モ此近傍ニ於テハ目下甚タ僅少ナリト雖モ漸次増進ノ勢アリ且ツ人一度ヒ其美味ヲ知レハ其産物ノ消耗シテ一大収入ノ原因タランコト亦疑ヲ容レサルナリ将タ其牛肉牛乳及ヒ乾酪ノ如キハ輸出シテ以テ東京横浜及ヒ其他南方ノ都会ニ供スルモ利アルヘシ我北海道ハ地価及ヒ労力下廉ニシ且ツ欧米ノ競争者ニ比スレハ輸送ノ距離モ近ケレハ此等ノ都会ヲシテ彼等ノ産物ヲ駆除センコト亦タ甚タ安キノミ然モ如何セン家畜ノ産物ノ消流ハ当今尚未タ大ナリトセス且ツ必要ノ種畜ヲ購ヒ其業ヲ整頓シ一大市場ヲ発見セントスルニハ必ス数年間ノ能力ヲ費サヽル可ラサル故ニ該園ハ何カ利益アル一業ヲ以テ其根拠全ク定マルノ時ニ至ラサレハ決テ之ヲ其自立ニ任ス可ラサルナリ況ヤ単ニ其定額ノ残金ヲ放銀トシ入用ノ度毎ニ之ヲ使用スル権ヲ得ルコト前条陳スル所ノ如クナラハ復タ顧慮ヲ要セサル丈ケ充分ノ宛行ヒアルニ於テヲヤ

貴下或ハ謂ン該園ニシテ若シ其費途ヲ自辨シ得ズンハ該園決テ北海農家ノ規範タルニ足ラサルナリト然モ該園ノ景況ノ奇異ナルコト蓋シ僅少ニ非ルナリ該園ノ本分ハ生徒ヲ教授スルニ在リ之ヲ成ント欲セハ経済ニ適ハサルコトヲモ種々施行セサル可ラス其事業ハ素ヨリ普通農家ノ企ヨリハ広大ナラサルヲ得ス将又タ此緯度ニ相当スヘキ農業ハ其事ノ何タルニ論ナク都テ之ヲ行フヲ要シ其業ノ多端ナルニ就テハ尋常ノ園圃ニ於テハ実ニ無用トスル所ノ事モ亦タ之ヲ爰ニ行ハサル可ラスシテ随テ余計ノ費途ヲモ要スルニ至リ殊ニ又タ該園ノ宏闊ナル其産スル所ハ遙ニ当地ノ需要ニ超越スルモ目下之ヲ緊縮ス可ラス其収穫物ニ消流ノ道ナキモ産スヘキ丈ケハ必ス之ヲ産セシメサル可ラサルナリ此等ノ困難ハ一商農家ノ絶テ逢ハサル所ニシテ其産スル所ハ彼レヨク悉ク之ヲ売却スルヲ得ヘシトス然モ我カ叢園ニ産スル所ノ物ト雖モ其ヨク悉ク之ヲ販売シ得ルノ日モ亦タ必ス近キニアルヘシ惟ニ時ヲ待ツヘキノミ

各種ノ種子ノ純良ナル者ヲ産シ次テ其輸入ノ費途ヲ省クコトハ該園必適ノ一事業ニシテ余カ説ク所ニ拠レハ他所ニ於テ之ヲナスコト決テ該園ニ及ハサルヘシ是レ其事業ノ植物学ノ深理ニ通スルヲ要スレ

ハナリ然モ此等ノ事ハ第一ニ必要ノ器具ヲ購求シ常ニ其種子ノ純良透逸ニ注意スル等余計ノ費途ヲ要スルコト亦タ多シ然レトモ一度其功ヲ奏スルニ至ラハ之ニ過ルノ利益ナキハ余カ信シテ疑ハサル所ナリ

此近傍ニ産スル所ノ肥料ノ実価ト其各種ノ植物及ヒ土質ニ関スルノ得失トヲ実験シ且ツ種々ノ植物ノ培養法ヲ極メ又タ菓樹幷ニ白桑ヲシテ強健ナラシムルノ法ヲ講スル等モ生徒ノ教授及ヒ北海農業将来ノ利益ニ対シ該園ノ必ス従事スヘキ事ナリトス

此等ノ目的ヲ成就セント欲セハ素ヨリ其事業ヲ尋常普通ノ農事ニ限ルヨリハ費途ヲ余計ノ歳月ニ要スルコトナレト其費途ト雖モ必ス計算ニ適フヘキナリ

故ニ前陳放銀ノ方法ハ其金ヲ必要ノ時ニ使用シ常ニ其息ヲ加フルコトナレハ経済中ノ緩大経済ナルヘク我産物ノ達シ得ヘキ市場ニテモ目下甚タ狭小ニシテ新ニ市場ヲ得ントスルニハ必ス時日ヲ要スルコトナレハ千八百八十年ノ末ヨリモ尚或ハ若干ノ月日ヲ費サヽレハ該園ノ全ク自立シ得サルコトアランモ計リ難ク生徒ヲシテ至当ノ教授ヲ得セシメントスルニハ種々ノ工業ヲモ起スヲ要シ為メニ余分ノ経費ヲモ支出スルコトアルヘク純良ノ種子ヲ採集シ各種ノ試験ヲ成スカ如キノ目的ヲ達スルニハ其支出必ス大ナル可キコト夫レ既ニ此ノ如シ希クハ該園年々ノ定額金ハ必ス其儘ニ据置カレ各会計年度ノ終リ毎ニ贏余アラハ必ス之ヲ該園ノ名ヲ以テ加息スヘキノ位置ニ之ヲ放銀セラレンコトヲ誠ニ企望ニ堪サルナリ

尤モ其金ヲ放銀スルニ高利ヨリハ必ス其堅牢安全ヲ主脳トスヘシ然モ安全ニサヘ之ヲ預クルヲ得ハ利息ハ高ケレハ高キ丈ケヲ良トスルコト固ヨリナリ左スレハ入用ノ度毎ニ之ヲ収用シ支消シ尽スニ至ルノ別ニ於テハ我歳出大ニ減シ其収入増加シテ該園ハ会計上ニ於テモ本使ニ歳入ヲ来スノ一原因トナル程ニ至ランコト亦タ疑フヘクモアラサルナリ

伏テ冀クハ鄙策亦タ取ル所アランコトヲ敬具

札幌農学校鑑督ウヰリヤム、ピ、ブルークス

〔農〇六四(ブルックス二〇)〕

二九一　川口宗時奥田直張退学処分についての通知

番外

安田定則殿

小牧昌業殿

調所広丈

客歳十月中其出張所ヘ願之上私費入校致候川口宗時奥田直張去ル歳末専門科初年第一期試験落第ニ付規則之通退学申付候処更ニ予科入学願出右者遠路より私費入校候者之儀ニ付願意之通聞届候末ヘ尚教師より篤ト試業致度旨申立ニ付試験候処全ク予科第二級ノ学力ニ可

有之旨申出候本人共最前入校願出御照会ノ節其地大学予備門教師スコツト氏ノ試験ヲ経同氏保証状持参候様申進置候処旧御用掛堀誠太郎より昨七月中招集生徒同様之学力ナル趣ヲ以テ御差回シ相成全ク試験ニ係ラサル者ニ而右様浅学致方無之候然ル処同人共予科二級ニテハ入学ニ堪兼候様子ニ而又候退学願出候ニ付其意ニ任セ退校帰京為致候処該校ニ於テハ飲酒煙草等不相用事ニ教師ト生徒中兼テ盟約有之候処去十二月休暇中川口奥田等篠路駅ヘ罷越飲酒致シ候儀顕出夫カ為メ約定上ニ障碍ヲ醸シ各生徒トモ隔意ヲ生シ其件変シテ宗教云々抔トニ托シ両人出立ニ望ミ拙官ヘ壱通ヲ差出シ追テ帰京之上ヘ長官殿ヘも宗教之儀開申スル趣茂相見ヘ候ニ付其旨御含置相成度尤も先般電信ヲ以御来意之趣邪蘇教云々ノ件も右等より事故相起リ候儀尓も無之哉ト想像致候素より宗教之儀無之事ニも無之候ヘ共夫是ハ前以教師幷ニ生徒一同へも厳重相達注意致置候条前文御了承有之度此段御含ノ為内状ヲ以申進置候也

十一年二月「朱書」「六日付　但シ八日発ス」

〔農〇六六〕

二九二　勧業課温室を農学校に移管の旨達

丙第六号

札幌農学校

札幌温室自今其校所轄ト相定候条勧業課ヨリ可受取此旨相達候事

明治十一年二月七日　　開拓大書記官堀基

〔農〇五六〕

二九三　ホイーラー雇継辞退及び後任者雇入に付申入

（二月一〇日検印済）

二ノ三十五号

東京書記官　　札幌書記官

札幌農黌教頭代理ウキリヤム、ホヰーラ氏儀雇満期ニ付予テ御允裁之通雇続之儀相達候処別紙之通解任之儀申出更ニ米国マサツセク州在「サアーレム」セームスヘンリー、モヲース氏該校専門科数学兼土木学博士トシテ年給金三千円ニテ雇入之儀申立ニ付三ケ年間雇入候様致度候条長官殿ヘ御開申之上ヘ同国ヘ御照会至急当地ヘ赴任候様御取計有之度別紙相副ヘ此段申入候也

十一年二月

〔別紙一〕

明治十一年二月四日於日本札幌

札幌農黌長権大書記官調所広丈貴下

札幌農学校教頭兼土木教師ノ任ヲ以テ余ノ職務ヲ延ハシ度旨閣下ヨリ政府ノ命ヲ伝ラレタリ乍去余ハ遺憾ナカラモ此栄命ヲ辞セサルヲ

得サル旨ヲ玆ニ回報ス

余ハ此答ヲ呈スルモ素ヨリ此命ノ公正ニシテ理由ノアル処飽マテモ詳悉シ農校繁盛ト当使現今及将来ノ良事業ノ好結菓ヲ得ンコトヲ希望ス然モ余ノ壮年ノ日ニ於テ余カ本職タル実地ノ練習ニ従事セント欲スルニヨリ貴命ノ如キ条約ニ循ヒ教師ノ任ヲ以テ再ヒ条約ヲ交換スルハ其道ヲ得ルモノトナサス故ニ是迄完全ニ成立シタル該黌事業ヲ尚至当ニ維持セン為ニ余ハ玆ニ数学兼機械土木学教師一名ヲ可成丈速ニ米国ヨリ聘セラレンコトヲ謹テ勧奨ス現今既ニ上級生ハ土木科現術ニ就業セシニ因リ其教師ハ当校ニ於テ教授スヘキ課程ニ要スル事業ニ於テ既ニ実地経験ヲ有スル者ヲ雇入ヘキコト殊ニ須要ナリ去月指出タル注文品目録中機械法子（ヒナカタ）ノ如キハ特別ノ指揮ヲ以テ製造スルヲ要スルカ故ニ此注文書ハ其雇入ント定メタル人ニ送致スルカ或ハ余ニ命セラルヽモ帰国後斯ル用弁ヲ為スヘキコトハ唯政府ノ命ニ惟レ従ハントス

農校ノ学業上ニ重大ナル中止ヲ防ン為ニ余ノ後任ヲ得ルノ緊要ナルヲ政府ニ於テ通暁セラレンコト余ノ信スル所ナリ

札幌農校教頭代理　維廉　ホヰーラ

〔別紙二〕

推挙人名案

札幌農校数学兼土木教師ニ雇入相成ヘキ人名ヲ左ニ録上ス

合衆国マサキユセツ洲「サアーレム」ニアル

土木師ゼームス、ヘンリー、モヲース

但年給金貨三千円ヲ以テ雇入相成度候

同氏ハ其学党ノ第一等ニ位シ千八百七十一年「マサキユセツ」農校ニ於テ級第ン爾来測量術及土木術実地練習有之候敬具

明治十一年二月六日於札幌　維廉（ウヰルリヤム）　ホヰーラ

〔農〇六六（ホイーラー四一）〕

二九四　教頭任命の申入

明治十一年二月十四日

札幌農校教頭代理ウヰルリヤム、ホヰラー貴下

元札幌農校教頭ウヰルリヤム、エス、クラーク氏帰国再任不致由ニ付貴下札幌農校教頭ト相定候条御承諾ニ於テハ受書御差出ニ相成度黒田長官ノ指令ニ因リ此段申達候也敬具

開拓大書記官堀基

〔農〇六四〕

二九五　ホイーラー教頭承諾の件

十七号

明治十一年二月十四日於日本札幌

開拓大書記官堀基閣下

余ヲ札幌農校教頭ニ任セラルヽ旨御通知ノ本日附ノ貴翰ヲ拝誦シ急キ茲ニ其蒙ムリシ光栄ヲ拝受スルノ答書ヲ呈ス其光栄ノ如キハ余輩不能不経験ノ敢テ当ル所ニ非スト雖モ希クハ熱心以テ其職ニ従事シ余カ本嚢ニ関係スル間ハ微力ノ及ハン限リ其命ニ応スル所アランヲ欲ス此東洋第一ノ農学校ノ永ク幸福昌栄ヲ全フセンコト実ニ余ノ冀望ニ堪サル処ナリ敬具

維廉　ホキーラ

〔道〇二四五四（ホイーラー四四）〕

二九六　農学校教師キリスト教誘導の投書に付回答

東京書記官　　札幌書記官

番外一月廿二日附ヲ以当地農嚢教師頻ニ耶蘇教ヘ誘導候儀当地ノ者より友人ヘ報知候旨ヲ以日報社ヘ投書候段云々写添ヘ長官殿よりも御内達之趣詳細御申越了承致候則校中人員不残遂吟味候得共毛頭覚ヘ無之旨別紙[注]之通申出候条尚此上ヘ捜索相分リ次第可申進候右云々巨細之儀ハ客月調所権大書記官より安田小牧両書記官ヘ内状ヲ以申進置候通予テ教師始メ生徒へも厳重相達置候得共尚取締方注意可致候尤も該校生徒学業上都合ニ仍リ照準ノ為メ右等書籍繙閲候様之儀ハ有之候得共御来意之通官立ノ学校ニ於テ公然教授候様ノ義ハ不為致候条右之段長官殿へも可然御申雪有之度此段回答申入候也

十一年二月十四日

〔注〕　別紙を欠く。

〔農〇六六〕

二九七　養樹園整備の意見

千八百七十八年二月十八日於札幌

開拓権大書記官調所広丈貴下

温室ヲ直接ニ囲繞セル養樹園及ヒ土地ニ関シテ陳述シタル図面[注]ヲ貴下ノ承諾ヲ得ン為メニ茲ニ呈ス

本校ノ家屋ヲ周繆スル地モ本草園ノ一部トシテ養樹園ニナシ爰ニ北海道土産ノ樹木及ヒ灌木植付ニ充ントス

温室ニ直接シタル地ハ教育目的ニ須用ナル物ノ如キ斯ル果木蔬菜或ハ若干草花等ノ植付ニ供スヘキナリ

目下本校囲地ニアル古木及ヒ土塁ヲ除去シ其生垣ニ供スヘキ樹木ノ移植ニ適スヘキ様充分成長スルトキ之ニ代ルニ生垣ヲ以テシ又タ運河ニ接シタル温室ノ前後側面ノ道路ヲ一直線ニ為セシモ該図中ニ包裹スヘキナリ　敬具

本草園芸教師デ、ビ、ヘンハロー

余ハ之ヲ承諾ス

農校教頭ウヰルリヤム、ホヰーラ

〔注〕 図面を欠く。

付　右に付回答

返詞ノ略意

温室之儀ニ付御申出之趣委細了承候古木伐除ノ義ハ兼而長官ヨリ達シノ趣モ有之御来意ニ難応又道路改線之儀ハ温室ノ北方ニ当ル突出ノケ所ハ御請求通ニ而差支無之候得共南之方張出シ候儀者方今都合有之当分之儘据置候右之外御申出之件ハ過日堀大書記官へ御申出相成候温室予算決定之上御着手ニ相成差支無之候此段御回答云々

〔農〇六八(ベンハロー四一)〕

二九八　本草及び園芸科用費額予算書提出の件

十八号

千八百七十八年二月十八日於札幌

開拓大書記官堀基閣下

千八百七十八年七月一日以後一ケ年間本草及園芸課ニ用ウヘキ費額予算書ヲ余ハ玆ニ進呈ス左ニ各別ノ事項ニ要スル費額ヲ逐一精細ニ爰ニ示スヘキコト甚タ難シトス乍去其概算ハ左ノ如クナルヘシ即チ

一　金弐百円　　十名ノ給料

一　同百円　　菓木等ノ買入

一　同百五拾円　　薪

一　同三百円　　米国ヨリ購入スヘキ小道具種子

一　金六百円　　臨時及普通需用費

一　同千三百五拾円　土地均ラシ樹木ノ植付肥料或ハ垣建設等共計弐千六百円

樹木植付ノ如キ斯ル渾テ永久ノ事業ハ「一度ニ之ヲ施行スルトキハ」唯至当ノ景況ニ之ヲ維持ナスニ要スル少許ノ費額ノ外更ニ其他ノ支出ヲ要スルコトナカルヘシ故ニ明年ノ(当七月以後)費額ハ更ニ土地ヲ地均ラシスル歟或ハ不料臨時事業ノ提起スルニ非スンハ恐クハ大ニ其費ヲ減少スベキナリ明年(当七月以後)ノ予算ヲ直ニ使用ニ供シ得ヘキ様速ニ之ヲ確定セラレンコトヲ余ハ謹テ勧奨ス何トナレハ現今有スル予算ニテハ迚モ本年六月迄此事業ヲ施行シナスニ不充分ナレハナリ且其年ノ結尾ニ至リ此予算ニ贏余ノ金額アルトキハ該課ノ維持ニ供セン為メ之ヲ永久ノ資本トシ以テ附存セラルヘキ様裁許アランコトヲ又勧奨スル処ナリ敬具

札幌農校本草園芸教師デ、ピ、ヘンハロー

余ハ之ヲ承諾ス

農校教頭ウイルリヤム、ホヰーラ

〔道〇二四五四(ベンハロー四二)〕

二九九　生徒間の宗旨問題に関する葛藤に付申入

二十四号

明治十一年二月廿一日於札幌

教頭ウヰルヤム、ホイラル貴下

客歳ヨリ農学校生徒ノ学業外ナル宗旨ノ信不信ヨリ葛藤ヲ生セシ義ニ付是迄縷々御談示ヲ遂ケ穏和ヲ宗トシ和解致セシ処其詮ナク今日ニ至ル迄信不信徒之間不親校内ニ於テ罵詈不止実ニ慨歎之至ニ候今ニシテ是ノ所分ヲ尽サヽレハ終ニ救フヘカラサルニ至ルモ亦識ルヘカラス依而本日より双方ヲ取調理非曲直ノ有ル所ヲ以本校ノ廃置ニ不拘至当ノ所分ニ可及存候条此段予メ御通知申上置候敬具

開拓権大書記官調所広丈

〔道〇二四五四〕

三〇〇　温室の管理権に付申入

三十六号

千八百七十八年三月八日於札幌

開拓大書記官堀基閣下

札幌温室及ヒ其属地ヲ農校ノ管理ニ帰セラレシ後速ニ該校ノ為メニ之ヲ管理スヘキ権ヲ教師ペンハローニ附与セシ旨ハ余カ曾テ閣下ニ報セシ所ニシテ閣下モ之ヲ記憶セラルヘキナリ当時余ハ亦校園ト比シキ方法ヲ以テ之ヲ管理セシムルノ良ナルヲ閣下ニ勧メ交附ノ際閣下ノ発セラレタル命令ノ限内ト其定額ヲ超エサル以上ハ通常ノ事業請負条約及ヒ売買等ノ権ノ如キハ都テ之ヲ同氏ニ委セラレ器械及ヒ種子ノ購入幷土地ノ変形等非常ノ事ニ至テハ閣下ノ認諾ヲ得テ後チ施行セシメンコトヲ口頭以テ閣下ニ建言シ閣下亦タ口頭以テ之ヲ許諾セラレシ旨ヲ伸ラレ且ツ教師ペンハロー」ニ其旨ヲ通スヘキノ権ヲ余ニ委セラレ余ハ之ヲ同氏ニ告ケタリキ

教師ペンハロー」ハ熱心直チニ其事業ニ着手セリ然リト雖モ余ノ実ニ遺憾トスル所ハ同氏ノ温室補助手ニ同氏ヨリ指揮セシ事件及ヒ同氏管理ノ事業ヲ施行スルニ須要ナル品物ノ同氏ノ注文等属吏（該吏ノ如キハ園芸実業ノ管理ニ全ク関係ス可キ者ニ非ス）ノ為メニ稍ヤ変換或ハ軽忽視サレ亦ハ干渉セラルヽコトアリ遂ニ補助手ノ駕御ヲ損シ大妨害ヲ生セントスルニ在リ是レ余カ遺憾ナカラモ閣下ニ告ケサルヲ得サル所ナリ

同氏モシ補助人ヲ直轄督促シテ其責任ヲ尽サシメ毫モ関係ノ権ナキ官吏ノ干渉ヲ蒙ラスシテ通常ノ事務仮令ハ需要品物購求等ノ注文ノ如キハ人ヲシテ其命ヲ遵奉セシムルニ足ル丈ケノ権ヲ同氏ニ与フルニ非レハ其労力ト注意トハ徒ラニ煩劇ヲ加ヘ随テ其事業ノ功力ヲ妨碍スルコト大ナルナリ故ニ仰キ希クハ曾テ閣下ノ既ニ口頭余ヲ経テ

同氏ニ委セラレタル権力ヲ更ニ書面ヲ以テ余ヲ経テ同氏ヘ付与セラレ将又タ同氏ノ補助手ノ鴛御法及ヒ命令ノ成就ヲ顚倒スヘキカ如キ不当ノ干渉ヲ為サヽル様農校属吏ニ告知セラレンコトヲ誡ニ冀望ニ堪エサルナリ

閣下ニ斯ノ如キノ事ヲ請フハ余ノ甚タ好マサル所ト雖モ校園ノ馬車ヲ使用シ及ヒ化学所ニ於テ施行シタル分析費償還等ニ関シ曾テ夫ノ無権官吏ノ命令ヲ発セシ類ノ如キ前例モナキニ非サルヲ以テ斯ル不当ノ干渉ノ猶他日ニ止マサルヲ保シ難キ乎ノ不快ナル感覚ヲ余ニ興サシムルヲ如何セン閣下幸ヒニ一言ヲ下スアラハ之ヲ改正スルニ至ランコト余ノ疑ヒヲ容レサル所ナリ

伏テ希クハ前条ノ件々ニ関シ閣下ノ速ニ当然ノ注意ヲ賜ランコトヲ敬具

札幌農校教頭ウヰリヤム、ホヰーラ

〔道〇二四五四（ホイーラー四六）〕

三〇一　明治一一年七月以降一ヵ年の本草及び園芸費用確定に付申入

三十七号

明治十一年西暦千八百七拾八年三月十二日

デ、ピ、ヘンパロー貴下

明治十一年七月以後壱ヶ年農費用本草及園芸費用御申立之趣了承候得共本使定額節減之折柄御請求ニ難応仍テ金弐千六百円之内減少シ千五百円ヲ該費予算ト確定候条此段申進候也

開拓大書記官堀基

〔道〇二四五四〕

三〇二　温室管理権に付回答

四十三号

明治十一年三月十九日於札幌

ウヰリヤムホヰラー貴下

本月八日付ヲ以テ温室ノ儀ニ付御来意ノ趣左ニ

温室定額金ニ超過セザル以上ハ園芸実業等ノ儀曩ニ温室ヲ農学校ニ帰セシトキ貴下之ヲ管理スヘキ権ヲ教師ヘンハローニ附与セラレタル旨ハ曾テ貴下ノ口述ニ因リ余ノ信認スル所ニシテ敢テ間然ナシトス然モ其遣払勘定ハ本使会計ノ成規ニ随ヒ結算ヲ要スルニヨリ該精算書ハ其都度学務局理事課ヘ御差出有之度

温室須要ノ物品等購求ノ節農学校官吏ノ為メ変換夫レカ為妨害ヲ醸シタル等ノ件ハ素ヨリ無之筈凡ソ各課ニ於テ権内ノ事業ヲ施行スルモ其都度余ニ報知シ余ノ許可ヲ経タル上ニ非サレハ施行スルヲ得ザルハ一般ノ順序タリ故ニ農学校官吏該件ニ関シ商議稟請等ノ為メ日

時ヲ費シタル事モ可有之候得共貴下ノ事業ヲ妨得スヘキ事由ナキハ不待言自今猶注意スヘキ旨諭達ノ筈ニ有之候

分析費償還等ニ関シ曾テ無権ノ官吏発令及フヘキ筈ハ素ヨリ無之互ニ利害得失ヲ討論シ其宜キヲ計ルハ各課皆是レナリ是故ニ分析費ノ如キモ亦直チニ照会セシ事アリシモ後更ニ該費ハ生徒科業ノ為備タ薬品ナレハ右ヲ支消スルモ償還ニ不及旨校長ノ令ヲ得農学校係ヨリヘンハローヘ通知セシメタル筈ニ有之候乍併其後ヘンハロー氏より校長ヘ科業外ノ支出ナル段申出ニヨリ更ニ分析費償還可致旨相達候由ニ有之候将タ又校園馬車使用等ノ件ハ已ニ客歳中其筋ヘ相達シ注意セシメ置候条左様御諒得有之度回答旁此段申進候也

開拓大書記官堀基

〔道〇二四五四〕

三〇三　ホイーラー雇継承諾の回答

四十一号

千八百七十八年三月二十日於日本札幌

開拓権大書記調（ママ）所広丈貴下

開拓長官黒田清隆閣下ノ命ニツキ左ノ眼目ニテ来ル五月二十日ヨリ向十五ヶ月間札幌農学校教頭兼数学及ヒ土木学教師トシテ余ノ職務ヲ更継セン為メニ昨日貴下口頭ヲ以テ余ニ述ベラレタル旨ヲ玆ニ拝受スルノ栄ヲ有ス

第一　壱ヶ年金貨三千六百円ノ給料給与ノコト

第二　私事并ニ農校事務弁理ノ為メニ月給半額給与セラレ横浜発程ノ日ヨリ四ヶ月ノ離任許可ヲ以テ直ニ当地発程ノコト

第三　旅費償還トシテ金貨七百円給与ノコト

第四　職務満期ノトキハ第一ノ条約面ニ基キ米国迄帰程旅費及ヒ其他ノ件ハ従前ノ如クナルベキコト

余ハ之レヲ承諾セシニツキ書面ヲ以テ御請致スベキ旨貴下ノ需ニ従ヒ曾テ余ノ口頭承諾セシ意ヲ包括センカ為メニ之レヲ呈ス

札幌農校教頭ウヰルリヤム、ホヰラー

〔道〇二四五四（ホイーラー五〇）〕

三〇四　米国より化学薬品等購入の申入

乙四十六号

千八百七十八年三月廿日於札幌

開拓大書記官調所広丈貴下

爾後二期間使用ノ為メ尚亦精密薬品ヲ米国ヨリ購入センコトヲ要ス依テ別紙ニ記載セル物品ヲ購求シ且ツ之ヲ至当ニ札幌ニ送達スヘキ様教頭ホヰーレル」ヘ委托セラレンコトヲ冀望ス其薬品及ヒ器械ノ代価ハ大約三百三十弗トス其他本草学及ヒ顕微鏡学教授ノ用ニ供セ

ン為メ調成其宜キヲ得タル顕微鏡附属ノ物品見本ニ植物及ヒ植物ヨリ生スル諸物ノ分体ノ全備セルモノヲ購求シ其代価トシテ五十弗ヲ支出スル権ヲ同氏ニ附与セラレンコトヲ希フ敬具

デ、ビ、ペンハルロー

〔別紙〕

千八百七十八年三月二十日於日本札幌

ローベツキ
グロベラー両君貴下

貴下可成速ニ別紙目録ニ従ヒ此注文品ヲ揃ヘ且ツ別紙ノ名宛ニ従ヒ該品ヲ送致セラレンコトヲ懇願ス

九十五番	アルコール、メータ	一個	
百〇七	アルコール、メータ円筒	同	
二百九十三	ユリモ、メータ	一組	後
千五十四	ラクト、メータ	一個	前
三百六十	ビーケルス、ボヘミアン	八重	十二組
千八百二十番	鞴	一対	
千八百六十四	篩 但最上品	一個	
四百八十四	コーチ、ホンク、チウビング		
	但直経一英寸十六分ノ三及ヒ四分ノ一各二十四英尺及ヒ一英寸二分ノ一四分ノ三各十二英尺		
千九百二十四	クラツシブル火箸	二対	
千九〔ママ〕十七十四並ニ千九百七十七	鉄鎚 但一個ツヽ	二個	
八百六十三	フルタルス 三英寸四英寸及ヒ六英寸ノ分各二十束		
千九百九十一	インゴツトモールド	一個	
千九百九十二	鉄杓子 但直経十センチ	一個	
千九百九十六	ラーベル	十二対	
千九百九十四	ラーベルプランク	同	
二千六十八	マアフルス、ドクトル、ヒツブス、竈	十個	
二千七十五	白金針金	一英尺	
二千七十八	プレイルス	二対	
二千八十七	秤量 但三番形	一対	
二千百十三	比重瓶		
二千百二十四	試験管 但七センチ」及ヒ十分ノ六	二十四個	
二千百二十六	試験管用ノ毛刷	十二個	
二千百五十六	分量衡	二組	
百十五	アルケリメータ	一個	
百二十	同	同	
百四十九	ベル盃 但度分ヲ刻シタル分二コーツ入	同	
二百三十一	ライトス瓶	二個	
二百八十六	オレヲ、メータ	一個	

二百九十六	ベーリング験湿器		同	
三百〇二番	験湿器		一個	
三百三	アーコ、メータ		同	
三百七十八	ベール盃(ストペルト)	一コーツ半及ヒ二コーツ	各一個	
五百七十六	炭挟箸		二対	
六百四十六	擽子	一英寸二分ノ一五英寸四分ノ三	八分ノ一	各百四十四個
デクラグレーテング球一個		一ガルロン	番号	七一八
漏斗	経三英寸	二ダース	〃	八八八
〃	四英寸	三ダース	〃	八八七
〃	三英寸	三ダース	〃	八八七
〃	六英寸	一ダース	〃	八八七
〃	油試験ニ用ウルカラン付ノモノ	二個		
長キ管		八ダース	〃	九〇一
レダクシヨン管		一球付十二個	〃	一三〇一
日耳曼形軟製チウビング	エッチ	六斤十斤	〃	一四七一
陶皿		十束	〃	八二五
フラスコ	六オンス入四オンス入	各三ダース	〃	八六九
酸類				
アセチツク、グラシオル、ピ、			十斤	
アルセニク			一斤	
硫酸アルミナ	シ、ピ、		一斤	
炭酸アンモニア	シ、ピ、		四斤	
アンモニア水	シ、ピ、		二十五斤	
炭酸アンモニア	コム		八斤	
水化硫酸アンモニア	シ、ピ、		十斤	
蓚酸アンモニア、ピ、クリスト			四斤	
アンモニア燐酸及ヒソーダ、クリスト			五斤	
アンチモニー、メツトル			四オンス	
バリウム、クロリツト	シ、ピ、		五斤	
ビスマス、メツトル			四オンス	
カルシアム、コロライド、クイスド、シ、ピ、			五斤	
重硫酸炭素			二斤	
コルロダイヲン			八オンス	
金紙			二冊	
硫酸マグネシア	シ、ピ、		五斤	
硝酸ポツトアシユム	シ、ピ、		三斤	
ポツターシユム、クロライド			四斤	
ポツターシユム イヲダイド			五オンス	
ソージユム、フヲスフエート	シ、ピ、		四斤	後
ソージユム、ハイドレート	コム		十斤	

ソージユム、シリケート（リグニツト）　五斤

札幌農学校化学教師デ、ピ、ペンハルロー

〔道〇二四五四（ペンハロー四六）〕

三〇五　校園家畜等購入目録提出の件

甲四十六号

千八百七十八年三月廿一日於札幌

開拓大書記官堀基閣下

閣下ノ許諾ヲ得テ余ハ校園ノ為メニ農校教頭ホヰーラ氏ニ依頼シ米国ニテ購求セント欲スル物件ノ注文目録書ヲ爰ニ呈ス」該園地ニ排水ヲ設クルニハ瓦ヲ製造スヘキニ付必ス製瓦器械ヲ需要セサルヲ得サルナリ且ツ此器械ハ該園ニ在テ使用スルヨリハ多数ノ瓦ヲ製シ得ルニ適スヘシ故ニ此器械ハ当道ニテ官民ノ為メ大イニ用ヲナスヘキナリ余カ購求セラレンコトヲ欲スル所ノ器械ヲ用ヰ製作セラレタル瓦ハ欧米ノ諸国ニ於テモ久シク排水器ニ使用セラレ且ツ之ヲ試用シ製作セラレタル所ノ瓦ハ孰レモ皆好品物ナリト信用ス尚余カ購入スヘク勧告スル其他ノ器械小道具等ハ常用ノ物件ニシテ且ツ該園ニ欠ク可ラサル者トス故ニ余カ縷々ノ明解ヲ待タスシテ閣下ハ此等ノ物品ヲ購入スルノ緊要ナルヲ洞知セラルヘシト思想ス

此目録中ニ六羽ノ吐綬鶏（シルメンガロン）ト其外十二羽ノ鳥類ヲ記セリ米国ニテハ此吐綬鶏ヲ以テ甚タ美味トシ殊ニ貴重スルノ鳥ナルニ付平生高価ヲ占ムルナリ」当地ノ気候ハ此鳥ヲ畜フニハ少ク湿気ノ過多ナルヲ以テ最大ノ功ヲ期スルコト覚束ナカルヘシト雖モ之ヲ実験ニ徴スルヲ然リトス且ツ適度ノ功ヲ得ンコトハ余カ多疑ヲ懐カサル所ナリ爰ニ引薦スル鳥類ハ最上種ニシ何レモ其種類ヲ異ニシ且ツ余カ日本ニ在テ親シク目撃セシ種類ニ異ナル者ナリ」一種ノ（ブレマックス）ト称スル者ハ甚タ肥大ノ鳥ニシテ卵子ヲ繁殖セシムルニ宜シク加之重ニ食用ニ供スル者トス他種（レヲルン）ハ特ニ卵子繁殖ニ適スルノ鳥ナリ此地畜禽ノ利益増殖セハ其功モ亦大ナルヘシ而シテ余ハ此等ノ鳥ノ畜養ニ注意シテ飼育其法ヲ得ハ其功ヲ奏センコト敢テ難キニ非サルヲ信スルナリ

合州国ニ在テ毎年蜂蜜ヲ産スル大約三百万弗ノ価格ナリ而シテ其巨金ヲ得ルニモ其労力ハ他事ニ比スレハ実ニ僅少トス当道ニ於テ蜂蜜ヲ産物トセハ好利益トナルヘク確信ス故ニ蜜蜂飼育試験ノ為メ少々蜜蜂ヲ購入センコトヲ希望ス」我生徒ヲ的宜ニ教導スル為メニハ校園ニ於テ諸種ノ牲口ヲ飼育セサル可ラサルヲ以テ余ハ此機会ニ乗シ良種ノ牝馬ヲ購求センコトヲ欲ス之ヲ購求スルノ要ハ余ノ贅弁ヲ待タスシテ閣下ハ既ニ之ヲ了知セラルヘシト確信ス

裸麦ハ世人通常小麦ノ如ク之ヲ好マサレトモ是レ亦タ一種ノ穀物ニシテ抜群ノ用ヰ多シ若シ之ヲ当地ニ購入セハ其益必ス大ナルヘシ故

ニ余ハ又タ小量ノ裸麦種ヲ購求センコトヲ願フナリ都テ此等ノ物件ヲ購入スルニハ該園ノ定額ヲ以テ之ヲ弁シ別途支出ヲ要スルニハ非ルナリ

札幌校園監督ウキリヤム、ピ、ブルークス

注文品目録

一　牛鏈（シメツケル）（緊固スル用ニ供ス）　六条　〃　六弗
一　深キ管（牛乳ヲ沈澱スルノ器）　六個　〃　十弗
一　ペルレー氏ノ三番形肉切　一挺　〃　五弗
一　臘腸漏斗（デローノメ）　一個　〃　二弗
一　裸麦　五ブツセル（一ブツセルニハ一斗九升余）　〃　十弗

預価共計千八百二十二弗

札幌校園監督ウキリヤム、ピ、ブルークス

〔道〇二四五四（ブルックス二三）〕

三〇六　ホイーラー離任中ペンハロー教頭代理任命の儀達

教頭ホキラル氏離任中代理之義ヘンハロー氏ヘ相達候条此段及御達候也

明治十一年三月廿七日　　調所権大書記官㊞

農学校

〔農〇六八〕

三〇七　米国よりの農具種子書籍等発送の旨通知

札幌農学校　　東京勧業課外事係

一　農具　廿五個
一　同　七個

預価三十六弗
〃　十弗
〃　二弗
〃　一弗
〃　七十五弗
〃　二百弗

一　胤馬　一頭　預価　八百弗
一　青銅色吐綬鶏　六羽　〃　五十弗
一　ブレマツクス　六羽　レゴムス　六羽　合シテ十二羽　〃　四十弗
一　蜜蜂巣　二個　〃　五十弗
一　デール氏再墾鋤（ブロー）　一個　〃　一百弗
一　ケルピン氏ノ新墾鋤　一個　〃　七十五弗
一　製瓦器械　一個　〃　三百弗
一　畝作リ器械　一個　〃　五十弗
一　ヂヨンソン氏ノ強圧卿筒　四個　預価三十六弗
一　カホーン氏ノ播種器　二個　〃　十弗
一　輪状ノ除草（ホー）器　二個　〃　二弗
一　園鍬　一個　〃　一弗
一　農園磨　一個　〃　七十五弗
一　鉄道用馬力機　一個　〃　二百弗

一　種物書籍　　五個

右ハ米国ヨリ別紙之通到達候ニ付今住ノ江丸便以函館民事課ヘ宛差立候条其地着之上ハ御査領有之度此段申進候也

十一年三月三十日

柳谷領事ヨリ公信抜萃[注]

第一号写

札幌農校用農具同所御雇ブルツクス氏ヨリ注文致候由之処当地マークス、ホレー社ヨリ購入同所ヘ逓送候様マサツチユセツト州ニ在ルクラルク氏ヨリ依頼越候間今便別記乙号之通購入例之通神奈川県庁迄逓送候間御受取之上同所ヘ御継送相成度右代金等ハクラルク氏ヨリ返弁相成候趣ニ候云々

第二号写

先便札幌農校用農具逓送之儀ニ付云々申進置候処猶残之分別紙乙号之通今便ニテ逓送候間是亦神奈川県庁ヨリ御受取之上可然御取計有之度候云々

乙二十四号

マクハウレー社中

記号

札幌農学校

箱幷梱モノ入記

#1箱四号ナシヨナルイ、コツトル（秣切リ）　一

パルムス、馬用ヘイ、フオルク　一

キーストーン、コルン、プラトル　一

ホールス、ホー（秣刈　一

フルラル、コルン、セルラル玉蜀黍実ヲ取ル器械

但シ鉄製　一

ラウンモーウル、ハンドル、フオル、フイウトルフキア　一

グラス、サイツ（秣刈リ）　一ドゼーン

砥石、木框　一

#2箱

鉄製風車ポンプ、シリンードル共　一

ミチガン、プロー（鋤）用、ボツトムス、エント

ホウヒール　一

ホース（馬）レーキ松葉掻キノ形馬具　一式

イメリ、シート（種子）トリル　一

砥石　一

木芽剪刀　拾八

二筋滑車　二

砥石ノ棒　一揃

測量用鋼鎖幷釘	一揃	キヤツトル、カルド	六
鍛冶職ノ槌	一揃	#5箱 411号天秤	一
同　鋏	二	#6 柄付斧	十二
同　鑢幷ラスプス	二	#7 フイラ、レーキ、モーウル（刈具	一
デ、ハンドルスペード鍬	十二	8 草木根切器械	壱式
#3箱 長柄ノスペート鍬	六	#9 種蒔木框	一
角尖鉄杓子ショウル	六	#10二箱 ピ形ボツキー、モーウル	一
各種ノ秣掻キ	三拾六	#11四箱 風車ノーヅ幷管	壱式
肥料掻キ	二十四	125 118二梱 秣用ハンドレーキ	二十四本
#4箱 ポタ、フーリ	六	14壱梱 ポクー、フーリ	十二
鋸	一	ドツブルトリー、フオル、ハルロー鍬	一
鑢	一	15 同 ドラグ、ホース、レーキ	二
八インチ圓鑢	二十四	16 同 スナチウ	十二
油入レ鑵	一	18 同 三ツ股ハルロー鍬	一
牛乳用サコメートル	六	19 一包 俏酸ボツタース	三百
キヤツトル、カルト	十八	20 同 ソーダ	三百
鉄用砥石	二十四	価八百四拾七弗五拾六セント	
#171 牛酪製法器械	三	運賃百拾壱弗弐拾セント	
ヲイレル	乙		
油入鑵	一	贈荷ノ覚	

札幌農学校行

シードルス　二箱
テツドルエキストラス　一箱
デツトル幷木其外　四梱

代価百三拾八弗四拾五セント

〔注〕第三号写を略す。

〔農〇三九〕

三〇八　物理学天文学測量学等開始に付諸器械購入の儀伺

天第十五号

札幌農学校専門科業用器械其他購求之儀伺

当地農黌十一年度予算四万円内外ニ及ヒ前年ヨリ超過本使定額減省之際何分難支候ニ付専ラ節減ヲ旨トシ更ニ為取調候然ルニ該校専門科本年七月第三期ヨリ物理天文測量学等起業候ニ付右器械等購入整備セサレハ大ヒニ就業之目途ヲ失シ候趣申出何分人才教育ノ道無余儀次第ニ候得ハ別〔注〕紙窮理器械外七廉費額概算金九千八百円ハ何分常費中ヨリ支弁致兼不得止儀ニ有之候条当庁十一年度税外収入金ノ内一旦送納シ直チニ該費ニ向ケ支出相成候様致度本年三ノ六十五号公文ヲ以テ在京書記官ニ通牒致置候儀ニ有之候条此段相伺候也

明治十一年四月一日　札幌本庁　開拓大書記官堀基

開拓長官黒田清隆殿

〔朱書〕「書面伺ノ通開届十一年度増額トシテ十年度定額予算中取消候製革所新築費壱万円ノ内ヨリ交附可及候条納受ノ順序更ニ可申出事

明治十一年六月廿五日」印（開拓長官黒田清隆印）

〔注〕別紙を欠くが、他の史料によって以下に補う。

〔道〇二四二三〕

〔参考〕

十一〔ママ〕度予算外御出方調

合金九千八百円也

内訳

金三千六百七拾五円　窮理及器械学等器械買上ケ費
金千五百円　測量器械費
金九百弐拾五円　天文学器械費
金五百円　演武所諸品買上ケ費
金五百円　洋書買上ケ費
金八百円　舎密器械幷ニ薬品買上ケ費
金四百円　博物品買上ケ費
金千五百円　本草〔園脱カ〕及芸等入費

〆

〔農〇六六〕

三〇九　兵学教員など採用の依頼（四月一五日検印済）

四ノ四十二号

東京書記官　　札幌書記官

一ノ三拾五号追伸ヲ以申入置候客歳調所権大書記官出京之際農鬱教頭代理ホヰラー氏より申立ノ件々訳書携帯安田権大書記官へ照会及候武芸兵学兼任壱名外弐名教員本年七月以後第三期学科起業迄ニ着札之儀追々差迫リ候条差閊無之様尚此旨可然御取計有之度為念訳書相添ヘ此段再度及御掛合候也

十一年四月

追伸去歳十二ノ四拾三号ヲ以照会及候英語教員ノ儀モ当今予科生徒追々増員教授上差閊候条至急採用赴任候様致度尤も教員ノ儀ハ総テ御用掛ニ申付候条右御含ミ御取計有之度此段及督促候也

〔注〕訳書は省略した。なお二六八を参照。

〔農〇六六〕

三一〇　解剖学教師雇入見合せ方申入

札第弐百廿八号

札幌書記官　　東京書記官㊞（代）印（小牧）

其地農学校へ解剖学教師雇入之義一ノ三十五号ヲ以御申越之趣長官殿へ開申候処右解剖学及ヒ生理学ハ該校課程中ニ列シ欠クヘカラサルモノニハ候得共他ノ科目ニ比スレハ自ラ軽重有之随テ教習上用力厚薄ノ別モ可有之義ナレハ之カ為メ単ニ教師ヲ聘シ候ニハ及間敷ニ付先ツ「ホイーレル」「ペンハロー」両氏ニテ兼務出来可申間尚評議之上可申出旨被相達候且又前号追伸ニ御申越ノ化学教員以下数名雇入之義云々ノ件ハ別段書類等無之不分明之廉有之候ニ付種々推考候処客年九月十九日付天第三拾九号御伺書ニ属候ホイーレル氏申立書中第一ヨリ第三迄ノ教師ヲ指シ候義ニモ可有之哉判然致兼候間否御申越有之度其他語学教員之義ハ御国人ニテ文部省大学卒業之者採用之事ニ決定方今同省ヘ協議中ニ有之候条御了承有之度御協議旁此段申進候也

十一年四月十六日

〔道〇二四〇四〕

三一一　校内外掃除に懲役人借用の儀掛合

懲役係　　農鬱印

明三十日より校内外掃除トシテ其懲役人拾人ツヽ三日間御差廻シ有之度此段及御掛合候也

十一年四月二十九日

〔朱書〕「即今葡萄園新墾ニ付而ハ使役頗ル多端ニ而御請求ニ応シ難ク候間不悪御承引相成度此段御答申進候也」 印（懲役事務）

〔農〇六四〕

三一二　優良種子収穫のため人民に種子分配の儀申入

七十五号

千八百七十八年四月三十日於札幌

開拓大書記官堀基閣下

余ハ本使ノ官園ノ用ニ供シ人民ノ自用ニ分配セン為メノ種子類ヲ閣下ニ於テモ要用ナリトセラルレハ之ヲ収穫スルノ一事ニ関シ聊カ卑見ヲ述ヘ閣下ノ参考ニ呈スルノ自由ヲ有ス

如今比年種子類ヲ購求スルニ要スル金額ハ決シテ少々ニ非ザルハ閣下モ夙知セラル、所ナレハ若シ其支消ヲ避クルノ方法アリトセハ素ヨリ甚タ望マシキコトト云フヘシ良種子ハ惟ニ本草学ノ干係、撰種ノ理及ヒ正則ノ耕種法ヲ解スル人ノ監督ニ依テノミ之ヲ収穫スルヲ得ヘク而シテ同種族ノ種子ハ接近ノ地ニ生セシメハ混交スヘキ者ユヘ全ク隔絶ノ地ニ之ヲ置カサレハ其産ハ全ク無用ノ物トナルヘキナリ而シテ余ハ此緯度ニ生長スヘキ諸種ノ貴重ナル耕産種子ハ多クハ之ヲ校園用ノ為メニ取寄セ其数許多ニシテ該園内ニ於テ悉ク之ヲ純良ニ保存センコト難キ程ノ高ニ至レリ依テ余ハ近村ノ農家ノ余ノ監督ヲ受ケテ種子ヲ収穫スヘキニ適スル丈ケ土地ヲ有スル者ヲ撰用シ校園ヨリ種子ヲ給与シ其収穫ハ相当ノ代価ヲ以テ之ヲ買上クヘキノ権ヲ得ンコトヲ欲ス此法ヲ施行セハ為メニ二個ノ目的ヲ成就シ得ヘシ良好ノ種子ヲ得ルコトト有益ノ職業ヲ人民ニ与フルコトト是レナリ素ヨリ其種子ハ優等ノ物ニ非レハ買上ケス其価ノ雑品ニハ一銭ヲモ払ハサルコトニ有之故ニ校園ニ於テハ縦令農家ノ良種子ヲ得ルコト能ハサルアルモ毫モ損失ヲ生スルコトナカルヘシ然モ余自ラ其事業ヲ監督スルノ権ヲ得ハ農家ト雖モ其成功ヲ誤ルノ桂念〔ママ〕ハナカルヘキナリ尤モ余カ取寄セタル種子ノ内ニハ越年草ノ種子モアリ右ハ本年同所ニ植エルモ安全ナルモノユヘ本年入用ノ田地ノ数ハ格別許多ニハ非サルナリ希クハ閣下ノ此事件ヲ御許容アランコトヲ敬具

ウキリヤム、ピ、ブルークス

〔道〇二四五四（ブルックス一六六）〕

三一三　東京大学予備門生徒譲受に付依頼

第九百拾四号

東京大学予備門生徒譲受ノ義文部省御照会案

昨十年中東京大学予備門生徒弐拾名御譲受ノ上当使官費生徒トシテ札幌農学校ヘ入校為致候処本年尚又右ノ振合ニ拠リ拾四名御譲受致度尤当使官費生徒召募ノ義ハ本年迄ニ而相止候積ニ付別シテ学業等

相応ノ者所望ニ候条可成御繰合可然御都合相成候様致度毎々乍御手数此段及御依頼候也

十一年五月一日　開拓大書記官西村貞陽

文部権大書記官辻新次殿

〔農〇六五〕

三一四　人民に種子分配に付回答

七十七号

明治十一年五月六日於札幌

教師ウイルリヤム、ピ、ブルークス貴下

本使官園ノ用ニ供シ且人民ノ自用ニ分配セン為メ種子類ヲ当地接近ノ農家ニ産生セシムベキ旨ニ関シ去ル三十日附ノ御意見書領収ス右者御申立ノ通リ御施行相成差閊無之候条此段及回答候敬具

開拓大書記官堀基

代開拓権大書記官調所広丈

〔道〇二四五四〕

三一五　医学解剖学教師雇入に付再度申入（五月六日検印済）

五ノ十六号

東京書記官

札幌書記官

客歳九ノ三拾三号ヲ以申進候農学校ヘ医学解剖教師雇入ノ件長官殿ヘ開申相成候処右解剖及ヒ性理学ハ他ノ科目ニ比スレハ自ラ軽重有之功用ニ至リ厚薄ノ差モ可有之義ナレハ単ニ教師ヲ聘シ候ニハ及フ間敷ニ付先ホヰラーレル氏ペンパロー氏ニテ兼務出来可申間尚評議之上ヘ可申出旨被相達候趣了承致候前条教師ヘ熟議候処同学科ハ農学上枢要不可欠ノ科目ニシテ素より本人共ニ兼務出来不申儀ニ有之期節差迫ルノ今日ニ至リ是等ノ歩ヒニ於テハ都合甚タ難渋ニモ存候ニ付此段尚御裏議之上ヘ至急雇入相成候様御取計有之度此段及御再答候也

十一年五月

追伸客歳中より農業教師数名採用之儀屢御掛合ニ及不分明之廉も有之趣ニ付則チ左ニ採用惣員学科区別記載差進候尤も医学教師ヲ除クノ外兼務ノ学力有之者ニ候ヘハ弐名ニ而差閊無之候条右御含御取計有之度候也

米国人	医学解剖学教師　壱名
御国人ニ而毎学科卒業之者	兵学教師　壱名
同	化学教師　壱名
同	英語学教師　壱名
同	数学教師　壱名

〔農〇六六〕

三一六　大阪英語学校生徒譲受に付依頼

第九百五拾六号

農学校生徒召募ノ義ニ付文部省御答案

東京大学予備門生徒御譲受之義及御依頼候処予備門ハ大学ニ入ルヘキ生徒ヲ教養シ生徒も又其目的ニテ入学候ニ付需ニ難被応大坂英語学校生徒中ニ者当使ノ召募ニ可応者可有之ニ付右ニ而不苦ハ相募候運ニ御取計可相成旨学第七百二十二号御回答ノ趣了承致候右予備門生徒御譲渡難相成ニ付テハ於当地更ニ召募ノ手続ニ取計度候処若応募ノ者少クシテ人員不足ノ節ハ自然御来諭ノ通及御依頼度候条大坂英語学校生徒中当使ヘ転学ノ志望有之当使ノ需求ニ相当セル者何名程可有之哉御取調ノ上予メ御報答相成候様致度再応乍御手数回答旁此段尚又及御依頼候也

十一年五月十三日　　開拓大書記官西村貞陽

文部権大書記官辻新次殿

〔農〇六五〕

三一七　校園管理方法に関する意見

八十六号

千八百七十八年五月十六日於札幌

開拓権大書記官調所広丈閣下

閣下ノ御所望ニ従ヒ将来校園管理ノ方法ニ関シ愚ニ卑見ヲ陳スルノ栄ヲ有セントスルニ際シ向後施行スヘキ適当ノ手続ヲ適当ニ理解セラレン為メニハ素ト該園ヲ農黌ニ附セラレタル目的ヲ明瞭詳悉セサルヘカラズ故ニ無要ノ贅言ト思倣セラレンコトヲモ顧ミズ余ノ常ニ信シテ以テ其目的ト為ス所ノ件々ヲ述フヘキナリ

農業論理的教授ハ素ヨリ甚肝要ナル者ナリト雖トモ之ヲシテ其最大利益ヲ生セシメント欲セハ必ス毎日演説講習セル事柄ヲ実際ニ施スヘキ現術ヲ以テ之ヲ補ハスンバアルヘカラス故ニ校園管理ノ最大眼目ハ札幌農黌ヲシテ改良ノ事業ヲ巧ニ施行スルニ堪ユヘキ卒業生ヲ出シ得ヘキ為メノ現術場タラシムルニ在ルナリ将又タ該園ハ北海農家ノ模範トナリ百事成ル可丈ケ本使ノ利益ヲ進捗スヘキノ場所ナリトス然リ而シテ此等ノ事ヲ成就スルニハ該園ヲシテ自由ニ其目下ノ目的ヲ施行セシムルヲ以テ最上計ト為スナリ此事件ニ熱思ヲ賜ハヽ閣下ト雖モ亦余ト其思ヲ同クセラルヘキヲ信ン玆ニ余カ卑見ヲ陳スルナリ

第一校園ハ生徒ヲ教授スヘキ為メノ設ケナレハ宜シク之ヲ農校委員ノ全権管理ニ委スヘキナリ何トナレハ該校ノ目的及ヒ其需要ヲ知ル者ハ其委員ヨリ明ナルナク故ニ該園ヲシテ其目的ヲ成就セシムルニ堪ユル者モ亦タ其委員ニ勝ル者ナキヤ必矣ナレハナリ其目的ヲ大成

セント欲セハ其事業ハ必ス千性万質ニシテ此緯度ニ於テ簡易ニ致行シ得ヘキ農事ハ可及丈ケ許多之ヲ行ハサル可ラス家畜ノ豢養各種耕産ノ収獲（果物及ヒ果木共）現今改良ノ風ニ随ヒ土地ニ排水法ヲ設クル事牛酪及ヒ乾酪ノ製造種子ノ採収并ニ諸般ノ試験等ハ何タルニ論ナク都テ之ヲ為サヽル可ラス此等ノ事ヲナサンニハ窟ニ今明年ノミナラス永遠ノ事業ヲ計策シ遠大ノ見込ヲ立テ且ツ之ニ熱執センコトヲ要ス該園事業ノ大要ト之ニ要スル改良ハ夫レ此ノ如シ之ヲ成就シ改良スルノ大綱ハ既ニ其緒ニ就ントスルノ時ニ当リ今更ニ其力ヲ他課ニ移シ事務ノ概面ヲ変センセトセハ其見込ヲ破リ該園ノ一大眼目タル生徒教育ノ趣意ヲ失フヤ必矣

第二該園現在ノ家屋ハ巨費ヲ以テ建設セラレタル者ニテ其眼目タル事業ノ用ニ供スルニハ必適ノ者ナリト雖モ他ノ方法ヲ以テ産出スヘキカ如キ収獲物ノ貯蔵ニハ適セサルナリ却説斯ク事業ノ全計ヲ改革シ為メニ此等ノ家屋迄ヲモ無用ノ物トナサンコトハ会計上愚痴ノ幹タル者ナルヘシ斯ク許多ノ金員ヲ此家屋ニ支出セシ以上ハ其特ニ眼目ニセシ所ニ従テ永ク之ヲ用ヒンコト豈ニ智計ニ非スヤ

閣下ノ余輩ガ校園ニ於テ成就スヘシト陳言スル所ノ事ヲ了解セラレ其目的ヲ成就セシメン為之ヲ自由ニ任スルノ智ナルヤ否ヲ明判セラレンガ為メ余ハ玆ニ我目下ノ見込ノ二三ヲ約言セン平心以テ其功用ヲ熟思セラルレハ果シテ好断ヲ賜フニ至ランコト余ノ確信スル所ナリ

第一其常ニ注意スヘキ目的ハ校園ヲシテ産出ノ収獲物及ヒ耕植ノ方法并ニ其管理ノ経済等皆当道農家ノ則ルニ足ルヘキ模範タラシムルコト是ナリ然リ而シテ該園ノ農家ノ為メニ模範トナルハ惟ニ収獲物ヲ産シ家畜ヲ出シ特ニ此緯度ニ必適スルノ畜類ヲ豢養スルニ依ルノミ北海道内ノ農家ハ悉ク種子ヲ産出スヘキニ非ザルハ勿論実ニ種子ヲ収穫スヘキ者ハ僅々ニ過ザルナリ故ニ本使ノ予テ揚言セラルヽ如ク該園ヲシテ実ニ模範園タラシムルヲ以テ本使ノ素志ナリトセハ仰セノ如ク之ヲシテ其全力若シクハ其力ノ大半ヲ種子或ハ苗木等ノ収獲ニ用ヒムル〔ママ〕ハ豈其目的ヲ達スルニ於テ上計ト云ハざるヘケンヤ然レモ〔ママ〕該園ト雖モ決シテ種子ヲ収獲セズト云ニ非ス該園ノ自用及ヒ本使ノ用ニ供セン為メ可及丈許多ノ種物ヲ収ムヘク是レ該園元来ノ目的ニシテ閣下モ了知セラルヽ如ク余ハ既ニ農民ヲ用ヒ自ラ之ヲ監督シテ此迄ヨリハ許多ノ種子ヲモ収獲スルノ手続ニ取掛リシナリ此策ハ無限ニ之ヲ拡張シ得ヘク本使ト農家ト両ナカラ其便益ヲ得テ実ニ二重ノ目的ヲ成就スヘキナリ

第二該園ヲシテ各種改良ノ家畜ヲ購入スルノ方便タラシムルハ目下ノ計策ナリ殊ニ「アッシヤイル」牛ヲ然リトス是レ豢養スヘキ乳牛中ノ最モ有用ナル種類ナルヘシト信スレハナリ其質健強ニシテ良乳多量ヲ生スヘシ但シ其乳ノ食物トナシテ功アルハ余ノ贅辨ヲ要セスト信ス

第三牛酪幷ニ乾酪ヲ製スルコトハ未タ当地ニ行ワレザルノ一成業ナリ然レトモ此事ノ果シテ有益ナルハ必然ナリ北海道ノ廉ナル地価ト労力トヲ以テセハ当方面ノ市場ニ於テ欧米人民ト競争シ其功ヲ奏スルヤ疑ナシ此職業ヲ当地ニ行ハンコト余ノ熱望スル所ニシテ校園ヨリモ良ク之ヲ為スヘキ場所ハ決シテ有ル可ラサルナリ其目的ニ欠クヘカラサルノ家作ハ巨費ヲ以テ既ニ之ヲ建築シ要用ノ器械ハ之ヲ米国ニ注文セリ然レトモ尚余輩ハ此目的ヲ施行スルコトヲ禁セラルヘキヤ

第四農業上ノ試験ヲモ兼テ該園ニ於テ注意施行シ当地ノ人民ニ対シ利益トナルヘキノ質問ハ年々其根理ヲ研窮ノ上之ニ答ユヘシ既ニ第二級ノ生徒ハ余カ指揮ニ従テ本年其試験ニ従事シ各々予備、植付ケ、耕耘及ヒ収獲共皆自ラ之ヲ為スヘキ筈ニテ斯ル事業ハ彼等ノ為メニ大利益タルノ外ナシ其他余カ自ラ監督シテ執業スヘキノ試験モ数件アリテ余カ目的トスル所ハ其結果ノ北海道及ヒ其人民ニ利益アラシムルニ在ルナリ但シ試験ノ事業ニ関シテハ余素ヨリ本使官員ノ忠告ヲ受ズト云フニ非ス其忠告ヲ受ンコト余ノ甚タ得意トスル所ナリト雖モ其試験モ亦幾分カ生徒教育ノ為メニシテ彼等ヲシテ卒業ノ上如此ノ事業ヲ行フニ適セシムヘキノ目的ニ基クモノナレハ試験スヘキノ事柄ノ取捨ハ一ニ農黌委員ニ任セサルヘカラス是レ其委員ハ其事柄ノ性質ヲ至当ニ看別スルノ最良判事ナレハナリ

曾テ該園ノ一部ヲ勧業課ニ割与センコト或ハ最良計ナリトセラルコトモアラント仰セラレタリ然レモ[ママ]其議ノ良ナラサルノ理数条アリ該園ハ其目的トスル所ノ事業ヲ成就セント欲セハ現今ノ形ニ於テ決シテ過大ニ非サルナリ之ヲ縮少スルハ其有益ノ力ヲ大縮セシムルニ異ナラス今ヤ其形状良善ニシテ且ツ其家作ハ中央ニ位置スルナリ若シ其土地ノ一部ヲ分ツカ或ハ之ヲ交換スルコトアラハ全ク其釣合ヲ失ハシムルニ異ナラス目下ノ景況ハ耕地樹林及ヒ草畑等其釣合ヲ得テ其割合実ニ至当ナリ然モ何レカ其一部ヲ除去セバ忽チ其平均ヲ失フヘキナリ

依テ余ハ前条陳スル所ノ事ニ就テ閣下ノ平心以テ高判ヲ賜ワンコトヲ冀望ス閣下若シ尚余ト其説ヲ同フセズトセハ是レ前陳ノ事柄ニ功徳ノ欠ケタルニ非スシテ余カ事理ヲ辨明スルニ拙ナルノ致ス所ナリ余カ監督ノ光栄ヲ有スル所ノ該園ノ永ク興隆及ヒ有用ナランコトヲ切望シ併セテ此事件ノ之ニ関係スル人々ノ為メ最モ良好ノ結局ニ至ランコトヲ悃禱ス敬具

札幌農校[ママ]監督ウヰリヤム、ピブルークス

〔道〇二四五四(ブルックス三〇)〕

三一八　力芸施行の件届

警察課

札幌農学校

来ル廿五日頃本校生徒一統運動之為校前明地ニ於テ力芸施行致候間予テ此段御届ニ及置候也

十一年五月十六日

〔農〇六七〕

三一九　校園家畜房増築の図面及び仕様書提出の件

百号

千八百七十八年五月廿一日於札幌

開拓大書記官堀基閣下

余ハ爰ニ校園ノ家畜房ニ建出スヘキ家作ノ図面仕様並ニ建設図ヲ〔注〕進＊呈スルノ栄ヲ有ス此家作ハ動物豢養家猪飼料ノ調理並ニ収穫物貯蔵＊＊等ニ目下最モ緊急ノ者ニシテ該園家作建築ノ最初ヨリ予テ計画セシ所ナリ其入費ハ素ヨリ該園定額内ヨリ支出ノ積リニ御座候閣下幸ニ其建設ニ允容ヲ賜ハヽ希クハ其切組図調整ノ儀ヲ工業局ニ命セラレ別紙ノ仕様書及ヒ図面ハ一先ツ余ニ御返付アランコトヲ左スレハ余之ヲ該局ニ持参シ必要ノ説明ヲナスヘクト奉存候敬具

校園監督ウキリヤム、ピ、ブルークス

＊　図面ハ既ニ工業局ニ廻し置タリ　印（佐藤）

＊＊　本文ニ在来之バーン江水を引事ハパイフ共翻訳面ニ無之候故除之　印（小林）

〔別紙〕

校園家畜房建出仕様書

此家作ハ家畜房ノ北側ニ於テ其西端ニ接セシメ其家作ノ西側ハ家畜房ノ西端ト一直線ナラシムヘク長サ八十英尺幅三十英尺ニシテ柱ノ高サハ十五英尺トス其切組ハ玉蜀黍庫ノ如ク都テ外国風ナルヲ要ス其基礎ハ巨大ノ重力ニ堪ヘキ様最モ堅固ニスヘク殊ニ西南隅ヲ然リトス是レ其隅ノ二階ニハ大約十八噸ノ水ヲ入ルヘキ水溜ヲ装置スヘキ筈ナレハナリ

窖ハ二十五英尺ニ十五英尺ニシテ其深サハ八英尺ナリ家作ノ東北隅ニ之ヲ作リ其壁ハ家畜房ノ壁ト同様ニスヘシ且ツ此窖ニハ一英寸板ヲ以テ床ヲ作リ二英尺隔テニ十英寸ニ二英寸ノ根太ヲ置キ之ニ釘附ケスヘシ

西南隅ノ土台ハ一英尺角ニシテ其他ハ十英寸タルヘシ

西南隅ノ柱ハ都テ一英尺角ニシテ其他ハ十英寸角ノ事

柱ノ数ハ十八本ナリ

桁ハ十英寸角ノ事

床根太ハ十英寸ニ二英寸ニシテ中心ヨリ中心マテ二英尺隔テニ之ヲ置クヘシ

棰ハ十英寸ニ二英寸ニシテ其長サハ二十一英尺トス中心ヨリ中心マテ二英尺隔ニ之ヲ置キ桁ヨリ前キニ二英尺出ツル様ニスヘシ

屋根ハ一英寸板ヲ以テ之ヲ蔽ヒ其上ヲ柾葺ニスヘシ
両側両端トモ第一等ノ板ヲ以テ堅羽目ヲ張リ目板ヲ打ツコト都テ家畜房ト同様ナルヘシ
窓ハ六英尺ニ三英尺ノモノ十箇四英尺ニ二英尺半ノモノ四箇六英尺ニ二英尺ノモノ一箇ニシテ都テ錘ヲ附ケテ之ヲ上下スヘクシ鉄環ヲ附クヘシ且ツ其中五箇ニハ内外共ニ下半分丈ケ一英寸板ノ幅三英寸ナルモノ各五枚ヲ打付ケ窓ヲ保護スヘシ
其他三英尺角ノ窓五箇ハ曳戸ニスヘシ
戸ハ八英尺ニ三英尺半ノモノ五箇八英尺ニ五英尺ノモノ三箇八英尺ニ六英尺ノモノ一箇ニシテ都テ家畜房ノ如ク車ヲ以テ開閉スヘキモノトス
其他八英尺ニ三英尺ノ戸八箇八英尺ニ四英尺ノモノ三箇四英尺半ニ三英尺ノモノ一箇並ニ方三英尺半ノモノ三箇ハ都テ鉄製ノ強キ蝶番ト丈夫ナル貫抜ト簡便ナル撮ミトヲ附クヘシ二英尺ニ三英尺ノ窓五箇ニハ頂部ヨリ六英寸ノ所ニ「ガツクリ」一箇ヲ附ケテ開閉ニ便ニスヘシ
二階ノ床ハ二階下ノ床ヨリ上九英尺トス二階ノ床ノ根太ハ西南隅ヲ除クノ外十英寸ニ二英寸トス但シ中心ヨリ中心マテ二英尺置ノ事
西南隅ノ床根太ハ其相距ルコト矢張前条ト同様ニシテ其太サハ十英寸ニ三英寸タルヘシ
都テ床根太ハ家畜房ノ如ク根太間ニ叮嚀ニ筋加ヒスヘシ床ハ上下トモ二重張ニシテ二階ノ床ニハ一英寸板ヲ二重張ニシ二階下モ通路ニ於テハ同様タルヘシ
豚圏及ヒ牛馬圏ノ床ハ二重張ニシテ下板ニハ一英寸板ヲ用キ上板ニハ二英寸板ヲ用ウヘク羊圏ノ床ハ通路ト同様トス
都テ板及ヒ材木トモ表面ノ顕ハル、所ハ鉋懸ケノコト

豚圏

二英寸ノ楢板ヲ以テ四英尺半ノ高サニ隔羽目ヲ作リ堅ク之ヲ柱ニ釘打ニシ決テ動サルヲ要ス其羽目ノ上部ニハ二英寸ニ三英寸ノ楢ヲ以テ其笠木ヲ寄様ニ仕附クヘク且ツ其圏ニハ各々端ヨリ端ニ行亘ルヘキ様V形ノ槽ヲ仕附ケ二英寸ノ楢板ノ幅七英寸ノモノヲ以テ百度ノ角度ニ組合セテ之ヲ作リ動カサル様取附クヘク羽目板ノ内前面ノ一枚ハ其幅一英尺ノモノヲ用キ内部ヘ開クヘク様鍥番ヲ附ケ又タ一ノ手軽ニシテ丈夫ナル桟ヲモ附ケ且ツ二英寸ニ三英寸ノ楢ノ間逼ヲ壁ヨリ八英寸床ヨリ七英寸ノ処ニ附ケ三方ニ逸ラスヘシ

牛圏

隔羽目ハ一英寸半ノ板ヲ五英寸角ノ間柱ノ両側ニ横ニ張詰メ堅固ニ之ヲ打附クヘシ其圏ニハ各々一個ノ匣ヲ動カサル様ニ据付ケテ牛ノ飼槽トス且ツ各圏ノ前面ノ羽目ニハ一ノ曳戸ヲ附ケ飼料ヲ飼槽ニ入ル、ニ便ニスヘシ其戸ノ長ハ二英尺ニシテ其幅ハ二十英寸ノコト

馬　圏

隔羽目ハ牛圏ト同様ニシテ各圏ニ現在ノ家畜房ノ如ク飼料入ヲ附ケ其入物ノ前面ニハ食物ヲ入ル、為メニ二十英寸角ノ曳戸ヲ附クヘシ且ツ内法一英尺角ノ秣落匣ヲ一英寸板ヲ以テ作リ二階ノ床ヨリ各圏内ノ秣槽ニ達セシメ其匣ノ上口ハ一英寸板ノ蓋戸ヲ以テ之ヲ閉ツル様ニスヘシ

羊　圏

床ヨリ一英尺ノ高サニ幅六英尺ノ台ヲ作リ圏ノ三方ヲ繞ラシメ一英寸板ヲ核ハギシテ之ヲ作ルヘク秣槽ハ深サ三英寸幅十英寸ノ一続ノ匣ニシテ一英寸ノ板ヲ用キ且ツ其匣ノ前面ノ縁ヨリ上二英尺半ノ処ニ横木一本ヲ架シ其横木ト匣トノ間ニハ六英寸置キニ竪木ヲ打チテ之ヲ接続シ両側ニ亘ラシムヘシ但シ通路ニ接スル所ハ唯ニ通路ヨリ入口ノ戸ノ向フノミヲ除キ其他ハ都テ張詰メ且ツ其続キノ一端ヲモ都テ張詰メベキ事」前面ノ隔羽目ハ高サ四英尺半ニ一英寸板ヲ以テ四英寸角ノ間柱ニ横ニ釘打ニシテ作リ丈夫ニ仕附ケテ其上部ニハ二英寸ニ三英寸ノ笠木ヲ附クヘシ

屠　殺　室

床ハ二重張ニナシ下板ハ一英寸上板ハ一英寸半ニシテ核継キトナシ一様ノ勾配ヲ以テ家作ノ外面ニ斜下スル様ニ之ヲ作ルヘシ但シ其斜下ハ惣計二英寸トス

其室ノ高サハ桁ニ達スヘク乃チ十五英尺ノ高サトス

此室ニハ少クモ七斗五升ヲ容ルヘキ湯釜ヲ置キ耐熱煉瓦石ヲ以テ堅牢ニ作リタル火焼鑵ニ之ヲ据ヘ湯釜ノ下ニハ充分ノ火ヲ焼クニ足ル丈ケノ間隙ヲ置ヘシ但シ其火鑵ハ石ヲ以テ築キタル良好ノ煙筒ト通セシメ其煙筒ノ前ニ湯釜ヲ置クヘク其湯釜ニハ木蓋ヲ添フヘシ

穀　物　倉

隔羽目ハ一英寸板ニシテ天井マテ張詰ル者トス

二階ノ水溜所

此室ノ壁ハ方十二英尺ニシテ核継シタル一英寸板ヲ五英寸角ノ間柱ノ両側ニ釘附ケシテ作リ板ト板トノ間隙ニハ鋸屑ヲ詰メ天井ノ高サハ床ヨリ六英尺ニシテ核継シタル一英寸板ヲ張リ戸及ヒ窓等モ最モ緊密ナルヲ要ス水溜ハ外法十英尺深サ五英尺ニシテ楢若クハ榀（ナラノモ）ヲ以テ水ノ漏ラサル様堅牢ニ作ルヘシ

階

二階ヘノ段階ハ幅四英尺ニシテ十英寸ノ踏板ヲ八英寸毎ニ置クヘシ

窖ノ段階モ同上トス

外側ノ蓋戸ハ四英尺ニ三英尺ニシテ二英寸角ノ楢材ヲ一英寸半隔ニ置キテ四十五度ノ角度ヲ以テ窖ニ入ルヘキ様ニ作リタルスベリノ上ニ之ヲ設ケ其スベリノ両側ノ土ハ板ヲ以テ壁ヲ作リ之ヲ支ユヘシ且ツ其蓋戸ノ家畜房ニ接シタル所ハ他端ヨリ高キコト六英寸ニ至ルヘ

キ様之ヲ傾斜スヘク且ツ之ヲ柾葺ニシテ水ノ滲透セサランヲ要ス但シ其戸ニハ鍬番ヲ附クヘシ

二階ヨリ二階下ニ通スル蓋戸及ヒ窖ニ通スル分トモ簡便ナル鉄環ヲ付ケテ之ヲ揚クルニ弁ニスヘク且ツ曳戸ニモ亦タ開閉便利ノタメ鉄環ヲ付クヘシ都テ材木其他作事向トモ最良ナルヲ要ス

〔注〕建設図を欠く。

〔道〇二四五四(ブルックス三一)〕

三一〇　第二期末の試験日程表及び演芸式について

千八百七十八年六月廿七日札幌

校長開拓権大書記官調所広丈台下

余ハ謹テ来ル月曜火曜両日ニ於テスル試業之順序及水曜日即チ七月三日第十時半ニ於テスル第二年節演芸式之目録ヲ呈ス且ツ公衆ヲ招待アランコト余ノ希フ処ナリ

札幌農校教頭代理デビ ペンハロー

〔別紙一〕

札幌農学校千八百七拾八年七月三日ニ到ル半年期試業

第二年級

月曜日	自八時半至十時半	農学	ブルツクス氏
同	自十時半至十二時半	和漢学	長尾氏
火曜日	自八時半至十時半	有機化学	ペンハロー氏

第一年級

月曜日	自八時半至十時半	無機化学	ヘンハロー氏
同	自十時半至十一時半	作文及発音	ブルツクス氏
同	自十一時半至十二時半	実験化学	ヘンハロー氏
火曜日	自八時半至十時半	農学	ブルツクス氏

○予習科

第一級

月曜日	自八時半至十時半	和漢学	長尾氏
同	自十一時半至十二時半	作文及発音	ブルツクス氏

第二級

土曜日	自八時半至十時半	和漢学	長尾氏
同	自十時半至十二時半	英学	井川氏
月曜日	自八時半至十時半	算術	井川氏
火曜日	自八時半至十時半	地理	井川氏

第三級

土曜日	自八時半至十時半	英学	井川氏
同	自十時半至十二時半	和漢学	長尾氏
月曜日	自十時半至十二時半		井川氏
		教頭代理ペンハロー	

〔別紙二〕

札幌農学校第二年節演芸〔注〕

第二年級

祝　辞　佐藤　昌介

邦語公説　題　農業及其発開　同

公　説　同　学術ハ宗教ノ侍婢　大島　正健

辨論誦　同　プレートルフタルヽスヲ非難ス　内田　瀞

公　説　同　自立　渡瀬寅二郎

第一年級

邦語公説　題　魯西亜悪ムヘカラス　内村　鑑三

公　説　同　農業ノ農家ノ品行上ニ於ケル勢力　太田　稲造

辨論誦　同　国怨ノ残暴　伊藤鏗太郎

公　説　同　名利ニ優サル　岩崎　行親

○

班　賞

○

校長演説

教頭代理ペンハロー

〔注〕祝辞、邦語公説以外は英語

〔農〇六七〕

三二一　武芸演習用制服の仕様について

千八百七十八年七月八日於札幌

学務局長開拓権大書記官調所広丈貴下

農校生徒ノ用ニ供セン為メ武芸演習ノ目途ニ好ク適スヘキ如キ同服ノ定様書ヲ貴下検考ノ為メニ余ハ玆ニ呈ス

同服ハ同色ノ表衣（ウワキ）并長袴（ヅボン）ヨリ成立ス斯ル目途ニ供セン為メ最モ好マシキ色ハ兵学生徒鼠色（カアヂツトグレー）ヲシテ通知セラル、処ノ浅藍鼠色ヲ可トス若シ此ノ色ノ品ヲ得カタキトキハ之レニ次ク最モ好マシキ色ハ良藍靛（インヂゴ）藍（リウ）トス

端物ハ滑ノ平面ノ品ヲ用ユベシ

表衣ハ燕尾（スワローテイル）通常例服ノ形ニ倣ヒ之レヲ截ルベシ而シテ武芸風ノ許多ノ黄銅扣鈕（ボタン）ヲ用ユベキコト其数即チ左ノ如シ

左右袖ノ縫口ヘ二箇後ロ褶ニ四箇ツヽ稍肩ヨリ斜メニ腰ニ至ル迄胸部両脇ヘ一列ツヽ且其中央一列ノ扣鈕ヲ以テ之レヲ固着スヘキコト

体格ニ好キ形容ヲ付与セン為メ表衣ノ胸部ヲ厚ク造リ且之レニ固ト塡（ママ）メヘキコト

此ノ意趣ニ合セ且破裂ヲ防カン為メニ革帯ヲ用ユベシ且之レニ帯扣ヲ備ヘ以テ腰内部ニテ固着スヘキコト

就中表衣ハ密々体格ニ適センコトヲ欲スルガ故ニ先其他ニ着手スル

前見本ノ為メ一組ヲ造リ之レヲ精密ノ点検ニ供セラレンコトヲ余ハ勧告ス

札幌農校教頭代理デ、ピ、ペンハロー

〔農〇五六〕

三二二　生徒藤田九三郎外四名無願出張に付処罰の件

学務局長㊞（調所）　農鑒㊞（森）（花押）㊞（下出）㊞（加藤）㊞（長尾）

生徒　藤田九三郎
同　岩崎　行親
同　諏訪　鹿三
同　鶴崎　粂一
同　内村　鑑三

右者去ル十五日無願ニシテ常山谿へ出張二泊之上へ帰校候段不念之至リニ付来ル二十一日日曜日門外散歩ヲ禁候事

明治十一年七月

〔別紙〕

一　去十五日ペンハロー氏生徒九名ト共ニ常山渓へ遊行被致候ニ付私共モ以私費随行致度乃チ同氏ニ相謀リ無異儀承諾被致候処校員ヘハ無願ニテ出張二泊之上帰校仕候段相違無御座候也

七月　　内村鑑三㊞　岩崎行親㊞　藤田九三郎㊞

鶴崎久米一㊞　諏訪鹿三㊞

〔農〇六八〕

三二三　カッター条約書

明治十一年七月廿三日即チ一千八百七十八年七月廿三日第一方ハ亜米利加合衆国駐劄日本皇帝陛下ノ特命全権公使従四位吉田清成日本帝国政府ニ代リ（以下日本政府或ハ第一方ト称ス）第二方ハ亜米利加合衆国マツサチユセツツ州ワーレン府住ドクトル、エドワルド、カラレンス、コツタル氏（以下第二方ト称ス）ト結約スル条款左ノ如シ

第一条

右第一方ハ此約定ニ因テ右第二方ヲ雇入レ同氏ハ此約書調印次第成ル可ク速カニ日本東京ニ向テ出発シ開拓長官ニ着到届ヲ為シタル日ヨリ二ケ年間生理学比較的解剖学英文学教授兼開拓使医術顧問トシテ長官ヨリ命セラレタル地方ニ到リ日本政府ニ奉職ス可キヲ約ス

第二条

第二方ハ亜米利加合衆国ボストン府より日本東京迄ノ旅費幷ニ旅中用意金トシテ日本金貨五百円或ハ其同価ノモノヲ受クベシ

第三条

第二方ハ日本到着次第直チニ開拓長官ヘ到着届ヲ為シ雇期限中右長

官又ハ其代理者ノ命令ヲ遵奉シ同使ノ規則法令ニ一切違背ス可カラス

第四条

第二方ハ信実勉励其職務ヲ奉シ謹慎ナルヘシ且長官或ハ代理者ノ許可ナクシテ其職務中欠席或ハ他行スヘカラス而シテ其全力ヲ日本政府ニ尽シ直接間接ノ別ナク商業其他職外ノ事業ニ関係ス可カラス

第五条

約定期限中給料トシテ毎月日本金貨弐百五拾円若シクハ開拓使ノ都合ニ依リ同相場ノ日本貿易銀或ハ紙幣ヲ同氏ヘ払フ可シ尤此給料ハ同氏若シ不幸ニシテ死去シ或ハ放免又ハ約定満期ノ日ニ廃スルモノニシテ此給料ハ奉職セシ毎月ノ末ニ払フモノナリ即チ第一ノ渡方ハ上文載スル所ノ如ク同氏日本到着届出ノ後一ケ月ニ於テスルモノトス

双方トモ不得止都合ニ因リテ雇ヲ止メ又ハ免職セントスルトキハ三ケ月前ノ報知ニテ廃約スルヲ得ヘシ第一方ヨリ此約定ヲ廃スルトキハ解約ノ日ヨリ向フ二ケ月ニ相当スル給料ノミ第二方ニ渡スベシ若シ第二方ヨリ請求スルトキハ現ニ奉職スル迄ノ給料ノミヲ相払ヒ直チニ廃約スベシ

第六条

約定期限中ハ日本政府より第二方ヘ家具ヲ備ヘサル適宜ノ家屋ヲ給スベシ或ハ又右政府ノ都合ニ依リ開拓使ノ例規ニ拠リ宿料ヲ給スヘシ

第七条

第二方職務上旅行ノ節ハ開拓使施行ノ例規ニ照シ要用ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八条

期限中第二方ニ於テ若シ病ヲ発シ或ハ怪我シ連二ケ月間就業シ能ワサルカ或ハ（二ケ月ニ及ハサルモ）期限中病気ニ罹リ或ハ怪我シ夫レカ為メ（医員二名公然長官ニ呈スル診断書ニ依ルニ）残期中奉職シ能ワサルカ又ハ就業ニ甚タ差支ユルニ於テハ開拓長官ハ直チニ解約スルノ権アルヘシ而シテ第二方ハ其残期限ニ対シ此約束ニ載セタル給料或ハ其他ノ利益ヲ得ル能ワサルモノトス尤日本政府ハ第二方日本東京ヨリ合衆国ボストン府迄上等旅用切手及旅中用意金トシテ日本金貨百円或ハ開拓使ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣或ハ銀貨ヲ支給スベシ

第九条

第二方ハ此約定ヲ遵奉シ二ケ年間満期迄日本政府ニ奉職シ満期後三ケ月中ニ亜米利加合衆国マツサチユセツツ州ボストン府迄帰航スルトキハ此際ニ限リ右政府ハ同府迄ノ上等ノ旅用切手ヲ支給スト雖モ第二方ハ此帰程旅費ヲ貨幣ニテ請求スルヲ得ス

第十条

若シ第二方不行跡或ハ上文ニ載スル所ノ約定中ノ件ヲ犯シ或ハ怠廃スルトキハ開拓長官ハ直チニ此約定ヲ廃止スヘシ然ルトキハ此約定上ノ給料及其他ノ便益ヲ第二方ニ於テ請求スルノ権理ハ此時ニ於テ廃棄スルモノトス

右約定ヲ証スル為メ本書二通ニ記シ上文記載ノ年日各其名ヲ手記調印スルモノナリ

証拠人

天野瑚二郎　吉田清成

R. H. Ball　John Clarence Cutter

［カッター一］

三二四　校園にて牛の無料交接実施の儀伺

上局㊞（調所）　農鑿㊞（森）㊞（千田）㊞（加藤）

今般当校園へ米国より良種ノ牡牛購入御備付相成候ニ付人民望ノ者ヘハ無代価ニ而交接差遣シ度旨教師ブルックス氏申出候ニ付別紙之通活板摺ニテ当管内へ広告仕候様致度此段相伺候也

十一年八月八日

追テ活板御入費ハ同園定額より御支出相成候様仕度候也

［別紙］

広告案　［朱書］「森一等属調」

此般札幌農学校々園ニ於テ米国より良善ノ亜爾亜種（是ハ多量ノ乳汁ヲ出スシヨルトホン種（是ハ多量ノ脆肉ヲ得ベシ）等ノ牡牛購入候処右種類蕃殖之為無代価ニテ交接為致候間望之者ハ牝牛ヲ該園へ可差出此段広告候也

一　来ル八月十日より壱種ニ付一日壱頭ツヽノ割ニテ交接イタサセ候コト

一　懸隔ノ場所ヨリ牽来該園へ預ケ置候ニハ飼料一日金拾五銭宛相払フベキコト

明治十一年八月　開拓使本庁理事課

［農〇五六］

三二五　赤羽工作局にて演武場鐘並に化学講堂暖房設備注文交渉の件

Tokio, Aug. 14th 1878

Mr. Komaki,

Sir;

I visited the Akabane Works this morning and consulted with Mr. G. S. Brindley in charge, in reference to making a suitable bell, and heater for the Chemical laboratory, and as they do not wish to take an order directly from me, I desire to specify how

the articles should be made, that they may be ordered from the office.

The bell should be of bell metal, of size and shape similar to that in use at the Akabane Works, but mounted on iron supports, and provided with an iron cross trees and wooden wheel.
[?]

The heater should be made according to plans shown me by Mr. Brindley, the heat being supplied to the various rooms by means of hot water pipes.

There should be about one hundred and forty feet of iron water pipe, with twelve right angle joint pieces.

It is quite desirable that these be made and forwarded to Sapporo at the earliest convenience.

I remain, Sir;
Your obedient Servant,
D.P. Penhallow.
[ペンハロー五八]

三二六　化学及び数学英語教師等の件

札第四百七拾八号

札幌書記官　東京書記官 印(小牧)印(金井)

宮崎道正採用之儀過ル五月中札第弐百九拾八号ヲ以申進置兼テ募集ノ生徒モ漸ク整頓候ニ付一同ヲ率ヒテ即今赴任可致候元来同人儀ハ学果[ママ]履歴別紙写[注]之通リニ付化学ノ教授ヲ為受持而シテ英語ヲ兼摂セシメ候見込ニ有之候処教師ペンハロー氏ヨリ教授ノ都合有之化学ヨリ英語ヲ兼摂候儀ハ実際不行届趣申立有之付テハ不得止次第ニ付道正儀ハ化学ヲ専務トシ別ニ数学英語ヲ兼ル教師一人採用之手続即今文部省ヘ照会中ニ有之候

尚又兵学教師之儀ハ陸軍省ヘ依頼致置候付夫々適当之人物有之候はゝ速ニ採用之図ニ有之候条此段申進置候也

十一年八月廿二日

[注]　履歴書を略す。

[農〇六五]

三二七　予科生四名専門科へ進学の儀伺（八月カ）

上局印(調所)　農学校印(森)花押印(下山)印(長尾)
印(内海)検査課印(大久保)印(福沢)印(本郷)

専門初年生徒本年拾八名御増員可相成之処既ニ拾四名者東京ニ於て招集之御都合ニ付四人之儀ハ本校予備生第一級小島喜作中根明堀宗一調所恒徳等専門就学相応之学力ニ有之趣予テ教師よりモ申出候条三名者官費生徒被命度調所恒徳儀ハ私費ヲ以通学願出候条夫々御採

用相成候様仕度仍テ病院体格検査表〔注〕幷ニ御示令案相添へ此段相伺候也

〔別紙〕

御辞令案

官費生徒申付候事

年　月　日　　札幌農学校

〔注〕体格検査表を略す。

〔農〇五六〕

三二八　宮崎道正並に生徒着札の届

局長㊞（調所）　　札幌農学校㊞（加藤）

唯今教員宮崎道正幷生徒十四名共着札候ニ付此段上申仕候也

十一年九月四日

生徒　小林秀太郎　栂野四男吉　斎藤祥三郎　高岡　直吉
武藤亥三郎　大津和多理　高木　資弧　佐藤　一治
尾泉良太郎　伊吹　鎗造　赤壁　二郎　久嶋　重義
原田　成貞　杉山　清利
〆拾四人

〔農〇六八〕

三二九　第一期時間割提出の件

千八百七十八年九月十二日於札幌

札幌農学校長開拓権大書記官調所広丈貴下

茲ニ当学年度第一期間ノ日課表ヲ呈シ御検考ニ供スルノ栄ヲ有ス敬具

教頭ウヰルリヤム、ホヰーラー

〔別紙一〕

千八百七十八年ヨリ九年ニ渉ル第一期札幌農学校日課表

第三級

一　天文　午前八時三十分ヨリ　教頭　ホヰーレル
同　九時三十分ニ至ル
月及ヒ木曜日

一　果物耕種法　同　九時三十分ヨリ　教師　ブルークス
同　十時三十分ニ至ル
水木及ヒ土曜日

一　動物学　同　九時三十分ヨリ　医学師カツター
同　十時三十分ニ至ル
月火及ヒ金曜日

一　地誌学及測量術　同　十時三十分ヨリ　教頭　ホイーレル
午後〇時三十分ニ至ル
月及ヒ木曜日

一　英語　午前十一時三十分ヨリ　医学師カツター
午後〇時三十分ニ至ル
火金及ヒ土曜日

一	数学的図学	午後二時ヨリ同三時三十分ニ至ル	教頭　ホイーレル
		月及ヒ木曜日	
一	武芸	同三時ヨリ同四時ニ至ル	
		火及ヒ金曜日	
一	手業	適宜	

第二級

一	農学	午前八時三十分ヨリ同九時三十分ニ至ル	教師　ブルークス
		月火及ヒ金曜日〔ママ〕	
一	英語	午前八時三十分ヨリ同九時三十分ニ至ル	教師　ブルークス
		水及ヒ土曜日	
一	本草学	午前九時三十分ヨリ同十時三十分ニ至ル	教師　ペンハロー
		月火及ヒ金曜日	
一	生理学	午前九時三十分ヨリ同十時三十分ニ至ル	医学師カツター
		水木及ヒ土曜日	
一	幾何学	午前十時三十分ヨリ同十一時三十分ニ至ル	教頭　ホイーレー
		水及ヒ土曜日	
一	分析化学	午前十時三十分ヨリ午後〇三十分ニ至ル	教師　ペンハロー
		月火木及ヒ金曜日	
一	武芸	午後二時ヨリ同三時ニ至ル	
		火金曜日	

〔第一級〕

一	手業	午後二時ヨリ同五時ニ至ル	教師　ブルークス
		月及ヒ木曜日	
一	化学	午前八時三十分ヨリ同九時三十分ニ至ル	教師　ペンハロー
		毎日	
一	代数学	午前九時三十分ヨリ同十時三十分ニ至ル	教頭　ホイーレー
		毎日	
一	英語	午前十時三十分ヨリ同十一時三十分ニ至ル	医学師カツター
		毎日	
一	農学	午前十一時三十分ヨリ午後〇三十分ニ至ル	教師　ブルークス
		月木曜日	
一	武芸	午後二時ヨリ同三時ニ至ル	
		月木曜日	
一	手業	午後二時ヨリ同五時ニ至ル	教師　ブルークス
		火金曜日	

教頭ウヰルリヤム、ホイーレー

〔別紙二〕

千八百七十八年ヨリ同九年ニ渉ル第一期札幌農学校予習科目課表

札幌農鬱教頭ウキルリヤム、ホキーラー

〔注〕　英文書簡には月火木金曜日とある。

〔農〇五六（ホイーラー六三）〕

三三〇　教頭代理解任の件

第百四十号

明治十一年九月十八日於札幌

デ、ピ、ペンハロー貴下

教頭ウイルリヤム、ホキラー帰任ニ付貴下教頭代理為被免候条此段申達候敬具

調所権大書記官

〔道〇二四五四〕

三三一　黒田開拓長官の農学校視察順序

九月十九日長官殿農鬱尊覧順序

一　午前九時講堂江御臨席

一　予科生ノ科業二ケ所ニ於テ演習　教員宮崎道正　井川洌

一　専門生数学　教頭ホキラル

一　農学　但シ果木耕種法　博士ブルックス

一　図学器械　但シ器械ノミ備尊覧

第二級

一　英語　午前八時三十分ヨリ同九時三十分ニ至ル　宮崎氏

一　地理学　同　九時三十分ヨリ同　十時三十分ニ至ル　井川氏

一　読書及ヒ綴字　同　十時三十分ヨリ同　十一時三十分ニ至ル　宮崎氏

一　習字　同　十一時三十分ヨリ午後〇三十分ニ至ル　宮崎氏

一　和漢学　同　十一時三十分ヨリ同〇三十分ニ至ル　長尾氏

第三級

一　算術　午前八時三十分ヨリ同九時三十分ニ至ル　井川氏

一　英語　同　九時三十分ヨリ同　十時三十分ニ至ル　宮崎氏

一　読書及ヒ綴字　同　十時三十分ヨリ同　十一時三十分ニ至ル　井川氏

一　習字　午前十時三十分ヨリ同十一時三十分ニ至ル　井川氏

一　和漢学　同　十一時三十分ヨリ午後〇三十分ニ至ル　長尾氏

一　十時三十分舎密　但シ実地化学　博士ペンハロー

右相済同所ニテ器械博物ヲ入尊覧

一　演武堂営繕ケ条ヲ開申ス　但シ都合ニ仍リ舎密講堂前ニ御覧ニ入候コトモアルヘシ

一　生徒舎御覧

右終テ事務所ニテ御茶差上ル

一　御帰リ之節生徒一同送礼ス

〔農〇七二〕

三三二　御雇教師三名に賞与の件

百四十九

明治十一年九月廿日於札幌本庁

農学教頭ウイルリアム、ホイーレル貴下

〔朱書〕「各通」　農学教師ウイルリアム、ピ、ブルークス貴下

本草兼化学教師デ、ピ、ペンハルロー貴下

今般親シク札幌農黌ヲ巡視シ生徒ノ学術品行駸々進歩セルヲ目撃シ誠ニ欣然ノ至ニ候彼等ノ教ヲ貴下ニ受クル日尚浅シト雖ドモ其ノ能ク此域ニ進ミシモノ豈ニ貴下及ビ其他ノ教師勉励ノ致ス所ニ非サルヲ得ンヤ依テ聊カ満足ノ意ヲ表セン為メ別紙目録〔注〕ノ通リ黒縮緬一巻―ハホヘンハロー賞与候条御落手可有之此段申入候敬具

海気一巻―フルクル

開拓長官黒田清隆

〔注〕別紙目録を欠く。

〔道〇二四五四〕

三三三　農業博覧会事務取扱委員任命の件

千八百七拾八年十月四日於札幌

民事兼学務局長開拓権大書記官調所広丈閣下

這回農業博覧会開設ニ就テハ右ニ関スル事務ノ取扱ヲ簡易ナラシメンガ為メ若干ノ委員ヲ命シ各科ニ分任シ細川及広田ノ両氏ト余トハ之ヲ惣轄候様仕度依テ余ハ左ノ補任状ヲ呈シ閣下ノ承認ヲ請フノ自由ヲ有ス

建築委員

教頭ウヰルヤム、ホイレル　安達氏　森氏　原田氏　伊藤一隆氏

右之安達ハ工業局ノ安達ナリ此委員中ニハ是非一名ノ造営家ナカル可ラス而シテ同氏ハ其実験ト天賦ノ能力ニ因リ極メテ此委員ニ適スベキト奉存候

受付委員

永根、仁木、及ヒ南川ノ三氏

出品受付及陳列委員

教師ペンハロー、吉田、永根、中村、佐藤昌助ノ四氏

筆記、広告、及編号掲示

森定道、仁木、及岡ノ三氏

耕鋤牛馬牽、穿渠及草刈競争場整調委員

ドン、吉田、安部、石川、及ヒ荒川重秀ノ五氏

会計検査委員

細川氏

余ノ農校高等生ヲ三委員中ニ加ヘシハ彼等ノ之ガ為メニ実験ノ益ヲ得ル事大ナルベキト各科何レモ外国人ノ在ルアルヲ以テ其訳官タルノ用モ亦タ多カルベキガ為メナリ希クハ此等ノ補任閣下ノ承認ヲ得ル有ランコトヲ

各委員ノ役所ハ左ノ如ク相定メ申度候建築委員、受付委員、筆記広告及編号掲示委員幷ニ会計検査委員ノ詰所ハ勧業課官園役所ニシテ出品受付ノ詰所ハ会場トシ耕鋤等ノ為メニ供スル場所ノ整調委員ノ詰所ハ校園役所トス敬具

ウヰルリヤム、ピ、ブルークス、

〔農〇六四（ブルックス三四）〕

三三四　数学語学教師雇入に付回答

札幌調所　　安田

教師ノ義猶文部省へ照会セシニ本年卒業生十六人法学化学土木学三科ニテ五人ハ既ニ売レタリ数学ハ専門ナシ語学ハ何科ニ拘ラス出来ルナレトモ折角専門卒業セシナレバ語学ノミノ教授ハ其人承諾ノ否ヤハ其人ニ当ラザレハ分ラス月俸ハ宮崎道正位ノ事ニナルヘシ数学教師ハ右卒業生ノ外ニテ八十円位ニテ見込ノ者アリ日本国人二人雇入ノ事ニ決セバ猶談示スベシ然シ過日申入シ米国人ノ方ナレハ勿論両科兼帯故都合宜シクト存ズ米国人へ掛合ノ都合モアレバ何分明日中ニ至急御返事可有之又前ノ数学教師ニ見込ノ者語学ハ充分ニハナケレドモ可也兼帯出来ル由先右ノ者ニ兼サセル積リニテ採用シテモ可然哉御参考ニ供ス

十一年十月七日午後二時三十五分中央局

〔農〇六五〕

三三五　演武場落成式の順序

農学校演武場開莚式順序

来ル十六日正午十二時礼服着用各員上校扣所ニ就ク

但演武場内ニ諸員ノ扣所ヲ設ク

同十二時三十分各員式場ニ列ス

但其刻校員より局長江着坐ヲ案内ス

上局着坐アルヤ長官殿及ヒ局長ノ祝文アリ後チ生徒ヲシテ祝詞ヲ演説セシム

生徒総代トシテ祝文ヲ読ミ継テ倭語ヲ以テ演説ス

三年生　佐藤昌介
同　大嶋正健
同　荒川重秀

演説英語
同　倭語

右終テ上局ハ一端元ノ扣所ニ就キ後チ局長ヨリ当日開筵ニ付祝酒ヲ賜ル旨諸員江演舌アリ各員食卓ニ就ク終テ退散ス

明治十一年十月十三日　学務局

〔農〇六八〕

三三六　土木学器械注文書

百七十号

於日本国札幌千八百七十八年十月十九日

紐約ソローイ街数学用器具製造師

ダブリユ、ヲー、エル、イ、、ガルレー氏商社御中

余ハ日本帝国政府ノ開拓使ヨリ委托ヲ受ケ同使ニ代リ爰ニ左ノ土木学器械ノ注文書ヲ貴社ニ送致ス此書ハ在華盛頓府ノ日本公使館（全権公使吉田清成閣下）ヲ経テ貴社ニ達スルモノナレハ札幌ヘ送遣ノ手続及ヒ払金等ノ義ハ該館ニ就テ之ヲ詳カニセラレ候様イタシ度候

他商社於テハ是迄札幌農学校ノ需用品トナレハ其物品定価ヨリ一割乃至二割ヲ減スルコトアリ貴社モ亦之ニ倣ヒ千八百七十三年出板ノ貴社物価表ニ載スル処ノ代価ヨリ成ル可ク之ヲ減価シ最モ低価ヲ以テ差送ラレ度企望イタシ候敬具

器具注文書

千八百七十三年ノ代価目録ニ拠ル

弐百九弗　是ハ機械司用ノ「ツランシット」但シ四英寸半ニシテ三英寸半ノ縦環アル二重ノ亳釐尺及ヒ望遠鏡ト「レベル」トノ附キタル接線幷ニ鉄鈕アルモノ　壱個

百三十五弗　是ハ十八英寸ノ望遠鏡アル「インジニーリングレブエル」　壱個

弐十三弗　是ハ軽便ナル三脚アル「ベニヲル」懐中羅針　壱個

弐十弗　是ハ真鍮製ノ「ローケス、ハンドレブエル」　弐個

以上

札幌農学校教頭兼土木学教師ウキリアム、ホキラー

〔道〇二四五四〕

三三七　数学教師市郷弘義採用の儀通知

札第六百拾壱号

札幌書記官　東京書記官㊞（安田）㊞（小牧）

曾テ御伺出ニ相成候農学校教員ノ内数学教師採用之義数回往復ノ末本月九日付電信ヲ以テ御申越之趣ニ依リ市郷弘義左ノ辞令写ノ通申付候条赴任候上ハ可然御取計有之度回答旁此段申進候也

十一年十月廿二日

御用係申付候事　准判任官月俸金八拾円

札幌在勤申付候事

明治十一年十月十六日

市郷弘義

御用係右同人

〔道〇二四〇四〕

三三八　生徒演習用小銃等の購入伺

上局㊞（調所）㊞（鈴木）　札幌農学校㊞（森）㊞（下山）

㊞（内海）検査課㊞（大久保）㊞（福沢）

本校演武場建築落成武術教師茂不日東京ニ於テ御採用可相成候ニ付テハ生徒演習用小銃六拾挺幷ニ付属品共教頭ヘ取調候処左記之通入用ノ趣申聞候ニ付東京表ニ於て御購求相成度尤モ稽古銃之儀ニ候ヘハ相当ノ古銃ニテ可然存候御入費之儀ハ予算中より御出方相成度別紙東京ヘ御照会案副ヘ此段相伺候也

十一年十月二十四日

〔朱書〕「別紙御照会書ハ東京文移録ニアリ」

品目

一　ミニー銃　二ツバンド　六拾挺

但シ鉛弾鋳形五挺

一　胴乱（タマ）　五拾

但革帯剣付（ヤーフル）

一　背嚢　五拾

一　士官用佩剣革帯付　拾弐

一　喇叭　弐挺

一　万力　拾

一　累抜（捻）　五拾

一　洗矢　五拾

一　玉取　拾

一　合薬　五百斤

一　雷管　三万

右之通

〔農〇五六〕

三三九　校園使用の蔬菜牧草種子及び化学肥料購入の件

百六十五号写シ

於札幌千八百七十八年十月二十五日昼

民事兼学務局長開拓権大書記官調所広丈貴下

明年校園必要之蔬菜及ヒ牧草種子幷ニ化学肥料等ヲ別紙ニ表掲シ進

呈仕候客歳米国より購求セシ草種多クハ二ケ年ニ一回実ヲ結ブモノナルヲ以テ該草ヨリ未タ何等ノ種子ヲ収ムルヲ得ス故ニ本年亦タ斯ク許多ノ種子ヲ要用スルニ至レリ化学肥料ハ全ク試験ノタメニ入用有之候義ニ御座候此代価惣額者殆ト四百弗程ニシテ校園ノ定額金ヲ以テ支払度存候前頭ノ諸品購求之義貴下ニ於テ御許諾被下候ニ於テハ余自ラ之ヲ教頭クラーク氏ニ通シ買入ル可キ様致シ度左スレハ極メテ迅速ニシテ且善良ノ物品ヲ得ベク到底貴下ノ御所望ニ可適義ニ有之候依テ在華盛頓其筋ノ官員ヘ教頭クラークノ認メアル仕出書ヲ差出スモノヘ其金額ヲ支払候様御報知被下度此段得貴意候也

札幌校園監督ホヰリアム、ピー、ブルークス拝具

〔別紙〕

蔬菜ノ種子

「イジイプテアンビート」種　弐英斤
「ハツチストルニツプブロードビート」種　同上
「ロングブロードビート」　同上
「ノルビトンジアイアントマンゴールドウヲルツル」六英斤
黄球形「マンゴールドウヲルツル」　拾英斤
紅球形「マンゴールドウヲルツル」　弐英斤
白色インペリアル糖菜　六英斤
「ビルモリンス、インプルーブト」糖菜　六英斤
白色シレシアン糖菜　弐英斤
「エレクトラル」糖菜　同上
「ボレコール」　四分ノ一英斤

キヤベージ

「ジエルセーウェークフハイルト」　四分ノ一英斤
「インプルーブドアメリケンサボーイ」　同上
「フホトラスダンヘット」　半英斤
「マアブルヘツド、マンモース」　四分ノ一英斤
「ストーン、アリン、ダンヘツド」　同上
「レツド、ダツチ」　同上

キヤロツト

「ショルトホーン」　壱英斤
「ロングヲレンジ」　四英斤
「ダンベルス」　六英斤
「ラージホワイトベルジヤン」　三英斤
「エヤレエ、シヨルト、スカアレツト、ホーン　壱英斤

パースニツプ

「ホロークラヲンド」　壱英斤
「ロング、シユガー」　同上
ハーフ、エアリー、パリス、アンリフラーワ　四分ノ一英斤

「ブルンセンス、スプラウツス」	同上
ヲニヨンス	
「エアリーエロー、ダンベルス」	三英斤
「エアリーレツド」	同上
「ウエザルス、フヒールド、ラージ、レツド」	壱英斤
「エアリー、クラツカル」	同上
「ホワイト、ポルトガル」	同上
ピース	
「カータス、フホルスト、クロツプ」	拾五英斤
「エデブル、ポツド、シユガー」	八英斤
「ブリー、インペリアル」	同上
「ロング、キヤヱーネペパ」	八分ノ一英斤
「スウヒス、チアド」	四分ノ一英斤
「マンムススロス、スクナシ」	半英斤
「ボストン、マアレツト、トマト」	四分ノ一英斤
「ゼネラル、グランド、トマト」	八分ノ一英斤
「エロー、フヒツグ、トマト」	壱ヲンス
「スツローベリイ、トマト」	同上
蘿蔔（トルニップス）	四英斤
「レツドトツプ」	

「ホワイト、トツプ」	同上
「カアタス、インペリアル、スウエツド」	六英斤
「キング、ヲフ、スウエデス」	同上
ブラツキ、スパニシ西瓜	壱英斤
紫マールラツビ	四分ノ一英斤
青カルレツド、エンダイブ	壱ヲンス
「ボストン、マアーケツトセルレー」	同上
林檎核	三英斤
梨核	同上
桃核	千
楹桲核	壱英斤
桜核	弐英斤
草種	
「テモセー」	弐百英斤
「ヲルチヤード」草	同上
「ケントケー藍草	百英斤
「レツドトツプ」	同上
「紅クロバ」	百五十英斤
「白クロバ」	百英斤
「アルサイククロバ」	弐十五英斤

「フハヲルミドウ」　百英斤
「イタリアン、ライ、グラツス」　弐十五英斤
「ペルニアル、ライ、グラツス」　七十五英斤
「スウキートベルナ」　五十英斤
「トールフヘスキウ」　三十英斤
「シイプスフヘスキウ」　同上
「ラツフ、ストークミドー」　同上
「シドーフホクス」　同上
「シドーフヘスキウ」　弐十英斤
ウートシドウ　弐十英斤
黄燕麦草　同上
ハードフヘスキウ　四十英斤
トール、ミドー燕麦草（ヲーツグラス）　六十英斤

化学肥料

ノベリフホスフヘート　弐百英斤
ナイトレート、ヲフ、ポッターシ」　百英斤
ソルフヘート、ヲフ、ポッターシ　同上
ソイトレート、ヲフ、ソーダ」　同上
「ケーナイツ」　同上
ソルフヘート、ヲフ、マグネシヤ　同上

以上

〔農〇八四（ブルックス三八）〕

三四〇　数学兼土木学教師雇入に関する電信案

在米国華盛頓府吉田全権公使　在日本札幌黒田開拓長官

マサチユセツ、州サレム、府ゼームス、ヘンリー、モヲスヲ一ケ年日本貿易銀三千円ノ割ヲ以テ二ケ年間札幌農学校数学兼土木学教師トシテ雇入ベシ若シ「モウス」肯セサレハ（曾テイリノイス州シカゴ府中学校博物学教師タリシ「セリユム、エイチ、ヒーボデー」ヲ経テ）セイシル、ホバートヒーボデーヲ雇入レンコトヲ貴下ニ委托ス

但シホヒラー条約ハ土木師ニ兼任スベキ様改マリタル旨「モース」ニ報スベシ

十一年十月

〔道〇二四五五〕

三四一　武芸教員として陸軍少尉加藤重任譲受の件回答

第二千五十二号

陸軍少尉加藤重任開拓五等属兼任ニ付陸軍省ヘ御廻答案

当使札幌農学校武芸教員トシテ陸軍士官御譲請之義及御依頼置候処陸軍少尉加藤重任御差出相成候ニ付本日左之通相達候就テハ彼是手

数相懸ケ候段深謝候右御回答旁此段申進候也

十一年十一月一日　開拓権大書記官安田定則

陸軍大佐小沢武雄殿

兼任開拓五等属　陸軍少尉加藤重任

札幌在勤申付候事　開拓五等属加藤重任

明治十一年十一月一日　開拓使

〔道〇五八六〇〕

三四二　農学校報告書刊行の伺

上局㊞（調所）　農学校㊞（森）㊞（下山）

㊞（内海）検査課㊞（大久保）㊞（福沢）　＊

公文課㊞（佐藤）㊞（高洲）

教師ペンハロー氏より別紙之通リ農校生徒ヲシテ毎月一廻新聞紙発行農家ノ裨益ヲ得セシメ度旨申出候処右ハ其体載ト永続スルト否等予メ確認シ難キ事情茂有之候得共折角ノ申出農家ニ多少ノ裨補ナキニモ無之存候ニ付先ツ五六ケ月間試ミノ為農校報告書ト題シ発行被差許追而体載相立候上更ニ適当ノ名目ヲ附シ発兌致度就而ハ月々凡十葉ヲ目度トシ一紙半面三十字十二行活版所ニ於テ弐百部ツヽ製本為致可然哉概費毎廻八円内外ノ見積ヲ以同校予算中より御出方相成度此段相伺候也

十一年十一月

＊　官吏一名委員御決定之事　㊞（内海）

〔別紙〕

千八百七十八年七月八日於札幌

学務局長開拓権大書記官調所広丈貴下

余ハ聊カ玆ニ意見ヲ陳シ貴下ノ検考ニ供センコトヲ欲スルコト左ノ如シ

北海道ノ農家并ニ一般人民ヲシテ札幌農校ノ目下施行スル所ノ事業ニ因リテ多少ノ裨益ヲ得セシメ且ツ彼等ヲシテ農校ハ実ニ彼等ヲ直接ニ裨益セン為メノ設立ナルヲ覚認セシメン為メニ之レヲ執着視セシムベキノ方法ヲ考査シ遂ニ一策ヲ得タリ思フニ此策ニシテ一タビ行レバ啻ニ農家社会中ノ較々知識ヲ具スル者ニ依テ該社会ヲ益スルノミナラズ本嚢生徒ニ益スルコトモ亦タ大ナリトス但シ其事業ハ余ハ専ラ之ヲ本校生徒ヲシテ担当セシメントス其理由ハ蓋シ数種ニシテ且ツ明瞭ナルモノナリ

簡短ニ余ノ心算ヲ述ベンニ其策トハ他ニ非ズ札幌ニ一ノ新聞紙ヲ発行シ生徒ヲ撰ンデ其編輯者トナサンコト是ナリ但シ生徒ハ上級生中

ヨリ毎年之ヲ撰ビ其人員ハ六名ナルベシ
思フニ如斯新聞紙ヲ編製スルニ必適スルノ生徒ハ農校中其人ニ乏シカラザルベシ
農業及ビ製造社会ヲ直接ニ裨益スベキカ如キノ条款ヲ外国新聞ヨリ抄訳シ或ハ自己ノ心思ヨリ之レヲ作リ又ハ僉員ノ寄書ヲ登録セハ其種ノ許多ナルベキハ勿論ニシテ且毎月一次之レカ発兌ヲナセバ其編輯ハ生徒ノ為メニ劇業ト云フニ非ス却テ気ヲ日課ヨリ転スルノ娯楽トナルベキナリ
生徒ハ如斯事業ヲ企テンコト素ヨリ好ム所ナリ而シテ発兌前農校官吏一名ヲシテ必ス之レヲ点検セシメ行政及ビ宗教上ニ関スルノ事ハ全ク之レガ発行ヲ止ムルコトニ注意セバ該紙ノ裨益アルベキハ余ノ確信スル所ナリ
該紙ノ大サハ小ニシテ大約八葉面（ページ）ニ止マルモ可ナリ而シテ其価直ハ出版入費ヲ償還スルニ足ルノミニテ充分ナリトス
其利益ノ尚明瞭ナル者ヲ挙クレバ左ノ如シ
該新聞紙ハ農校ト人民トノ間ヲ聯結スルノ赤縄トナリ為メニ直接ニ双方ヲ益スベシ
現在ノ生徒ニ因テ後来農校ノ世上ニ生スベキ裨益ハ該新聞紙ノ為メニ幾分カ速成スベシ」一タビ之ヲ人民ニ示セバ該紙ハ殊ニ人民ノ幸福ヲ忖度スル者ナレバ実ニ彼等ヲ鼓舞スルノ一良益ナルベシ
此ノ事業ニ関スルノ生徒ハ其意見ヲ世上普通ノ事物ニ拡メテ其説ヲ立為メニ直接ノ利益ヲ得ルコト大ナルハ勿論各種ノ事物ニ触レテ其経験ヲ拡充スルノ価直モ実ニ貴シトス請フ熟慮ヲ賜ヘ敬具

札幌農校教頭代理デ、ビ、ベンハロー

〔農〇五六〕

三四三　農学校報告書教員校閲の件伺

局長㊞（調所）　　農学校㊞（森）

兼而教師ベンハロー氏ヨリ申出候本校農業月報発行許可相成候ニ就テハ右生徒ノ編輯ニ付該編中誤字或ハ広告ノ主意ニ叶フヤ否等毎廻教員ニテ一応閲シ不都合無之様可取計旨御口達ヲ以左人ノ所ヘ訂正係リ御達シ相成度此段相伺候也

追而訂正之上製本等ノ御入用ハ取調相伺度候也

十一年十一月五日

訂正係リ
宮崎　道正
井川　洌
長尾　布山
市郷　弘義

〔農〇六八〕

三四四　武芸科設置の儀上申

乙第九拾九号

農学校武芸科設置ノ義上申

当使札幌農学校於テ米国農学校ノ学則ニ拠リ武芸科ヲ置キ生徒ヲシテ修業為致候条此段上申候也

明治十一年十一月七日　　開拓長官黒田清隆

太政大臣三条実美殿

〔公文録二三七七〕

三四五　ピーボディ条約書

明治十一年十一月八日即チ一千八百七十八年十一月八日第一方ハ亜米利加合衆国駐劄日本皇帝陛下ノ特命全権公使従四位吉田清成日本帝国政府ニ代リ（以下日本政府或ハ第一方ト称ス）第二方ハ亜米利加合衆国イリノイ州チカゴ府住シシル、ホパアルト、ピーボデー氏（以下第二方ト称ス）ト結約スル条款左ノ如シ

第一条

右第一方ハ此約定ニ因テ右第二方ヲ雇入レ同氏ハ此約書調印次第成ル可ク速カニ日本東京ニ向ケ出発シ開拓長官ニ着到届ヲ為シタル日ヨリ二ケ年間日本北海道札幌農学校数学幷ニ土木教師トシテ長官ヨリ命セラレタル地方ニ到リ日本政府ニ奉職ス可キヲ約ス

第二条

第二方ハ亜米利加合衆国イリノイ州チカゴ府ヨリ日本東京迄ノ旅費幷ニ旅中用意金トシテ合衆国金貨五百弗ヲ受クベシ

第三条

第二方ハ日本到着次第直チニ開拓長官ヘ到着届ヲ為シ雇期限中右長官又ハ其代理者ノ命令ヲ遵奉シ同使ノ規則法令ニ一切違背ス可カラズ

第四条

第二方ハ信実勉励其職務ヲ奉シ謹慎ナルベシ且ツ長官或ハ代理者ノ許可ナクシテ其職務中欠席或ハ他行スベカラズ而シテ其全力ヲ日本政府ニ尽シ直接間接ノ別ナク商業其他職外ノ事業ニ関係ス可カラズ又政府ノ為メニ諸品ヲ購求シ或ハ代金払渡等ノ為メニ其手数料ヲ受ク可カラズ

第五条

約定期限中給料トシテ毎月日本貨易銀弐百五拾円若シクハ開拓使ノ都合ニ依リ同相場ノ日本紙幣ヲ同氏ヘ払フ可シ尤モ此給料ハ同氏若不幸ニシテ死去シ或ハ放免又ハ約定満期ノ日ニ廃スルモノニシテ此

給料ハ奉職セシ毎月ノ末ニ払フモノナリ即チ第一ノ渡方ハ上文ニ載スル所ノ如ク同氏日本到着届出後一ケ月ニ於テスルモノトス

双方トモ不得止都合ニ因リテ雇ヲ止メ又ハ免職セントスルトキハ三ケ月前ノ報知ニテ廃約スルヲ得ベシ第一方ヨリ此約定ヲ廃スルトキハ解約ノ日ヨリ向フ二ケ月ニ相当スル給料ノミ第二方ニ渡スベシ若シ第二方ヨリ請求スルトキハ現ニ奉職スル迄ノ給料ノミ相払ヒ直チニ廃約スベシ

第六条

約定期限中ハ日本政府ヨリ第二方ヘ家具ヲ備ヘサル適宜ノ家屋ヲ給スベシ或ハ又右政府ノ都合ニ依リ開拓使ノ例規ニ拠リ宿料ヲ給スベシ

第七条

第二方職務上旅行ノ節ハ開拓使施行ノ例規ニ照シ要用ノ旅費ヲ支給スベシ

第八条

期限中第二方ニ於テ若シ病ヲ発シ或ハ怪我シ連二ケ月間就業シ能ワザルカ或ハ（二ケ月ニ及バザルモ）期限中病気ニ罹リ或ハ怪我シ夫レカ為メ（医員二名公然長官ニ呈スル診断書ニ依ルニ）残期限中奉職シ能ワザルカ又ハ就業ニ甚タ差支ユルニ於テハ開拓長官ハ直チニ解約スルノ権アルベシ而シテ第二方ハ其残期限ニ対シ此約束ニ載セタル給料或ハ其他ノ利益ヲ得ル能ワザルモノトス尤日本政府ハ第二方日本東京ヨリ亜米利加合衆国イリノヰ州チカゴ府迄上等旅用切手及旅中用意金トシテ日本貿易銀百円ー或ハ開拓使ノ都合ニ依リ同相場ノ紙幣ヲ支給スベシ

第九条

第二方ハ此約定ヲ遵奉シ二ケ年間満期迄日本政府ニ奉職シ満期後三ケ月中ニ亜米利加合衆国イリノヰ州チカゴ府迄帰航スルトキハ此際ニ限リ右政府ハ同府迄ノ上等ノ旅行切手ヲ支給スト雖モ第二方ハ此帰程旅費ヲ貨幣ニテ請求スルヲ得ズ

第十条

若シ第二方不行跡或ハ上文ニ載スル所ノ約定中ノ件ヲ犯シ或ハ怠廃スルトキハ開拓長官ハ直チニ此約定ヲ廃止スベシ然ルトキハ此約定上ノ給料及其他ノ便益ヲ第二方ニ於テ請求スルノ権利ハ此時ニ於テ廃棄スルモノトス

右約定ヲ証スル為メ本書二通ニ記シ上文記載ノ年日各名ヲ手記シ調印スルモノナリ

証人

浅田徳則　吉田清成

Charles Lanman　Cecil Hobart Peabody

［ピーボディ］

三四六　ペンハローに砂糖大根分析依頼の件

農鬻　　勧業課印（勧業課／空知通／派出所）

一　魯国種砂糖大根　七顆
一　独逸種　同　同
一　仏国白種同　同

右各種貴校ペンハロー氏ニ分析方ヲ托シ糖分ノ厚薄ト品位等ヲ試験いたし度候間同氏ヘ可然御申聞分析済之上ハ可否詳細御申越相成度此段及御依頼候也

十一年十一月十一日

〔農〇六四〕

三四七　演武場自鳴鐘及び獣医薬解剖書等購入の依頼

十一ノ五十号

東京書記官　　札幌書記官

札幌農鬻演武場備品自鳴鐘壱個幷ニ獣医薬解剖書籍等米国より購求致度就テハ教頭ホヰラル氏ヘ別紙之通直チニ米商ヘ宛注文書為差出候条物品調査代価六百円内外下ヶ渡等之儀如例在米日本公使ヘ可然御照会至急送付候様御取計有之度此段及御掛合候也

十一年十一月十一日

〔別紙一〕

百三拾六号

千八百七拾八年十月二十五日於日本札幌

在新克府大通五百五拾弐番

ホーワード袂時計及自鳴鐘社中

日本帝国政府ノ開拓使ニ代リ余ハ札幌農学校ノ用ニ供セン為天守用自鳴鐘ヲ貴社ヨリ購求可致様余ハ此注文書ヲ製スベキ委任ト及ヒ依頼ヲ受ケタリ但之ヲ現ニ大約方六尺ニシテ高サ七尺ノ火楼（ほくろ）ヲ有スル処ノ許大造営家屋（演武堂）ニ設置セントス尤其自鳴鐘ハ三面ノ文字板ト及ヒ打鳴器全備セル必ス良時計ノモノナルベキコト何トナレバ当府ノ時基ニ之レヲ供スベケレバナリ且半鐘ハ当地ニ於テ購求可致ナリ若シ我輩ノ要スル如キ自鳴鐘ヲシテ半鐘ト及ヒ火楼（ほくろ）外四面ノ三方ニ顕示ナス処ノ文字板ヲ具ヘ以テ現今火楼（ほくろ）内ノ空所ニ之ヲ設置ナシ難キトキハ設置ノ為メニ些少ノ模様換ヲ天守楼ニ要スベキモノヲ得且其所要場ノ図ト之ヲ設置シ且管理法ヲ詳細ニ示ス指揮書ヲ添ヘ以テ御送付有之度候若シ今要スル様ナ時計ノ無キトキハ今存スル鐘楼ニ格別ノ模様換ヒヲ為サヾル物ヲ要ス

此注文書ハ華盛頓日本公使館ニアル公使吉田清成閣下ヲ経交付可致候故ニ貴社ハ品物ヲ日本ニ送付ナスコトノ指揮ヲ該館ヨリ受ケ且勘定モ該館ヨリ支給可相成儀ニ有之候荷作リハ粗々ノ取扱或ハ運搬中

ニ湿気ヲ得ルコトノ損害ヲ避クベキ様精々厳重包装被成下度候敬具

札幌農学校教頭ウヰルリヤム、ホヰラー

〔別紙二〕

百三拾五号

千八百七拾八年十月二十四日於日本札幌

マサチユセツ州ボストン府華盛頓街二百八十三番ニテ

ユウヰルリヤムス、両君社中

札幌農学校ノ為メニ余ハ左ノ書籍ヲ貴社ニ注文可致様委任ヲ受ケタリ即チ第一ハ該獣医学教師及ヒ生徒ノ使用ニ供セン為メ価格六拾四弗ニ超ヘザル丈ケ普通獣医薬及ヒ現実ニ関スル参考ノ書籍トス第二ハロヲス氏陳述農家獣医顧問ト題セル書拾六巻トス但シ通常定価二十五朱減価ノ割ヲ以テ余ノ注文高即チ購求スベク委任ヲ得タル額ナル百弗トナルベキナリ

参考書籍ノ儀ハ「コーニル」大学校教師ロヲス氏ニ御問合有之度左スレハ同氏ハ好テ且巧ニ我輩ノ需要ニ最モ適セル如キモノヲ撰抜致シ呉候ハ余ノ疑ヒヲ容レザル処ナリ此注文書ハ華盛頓ニアル日本公使館ヲ経テ貴社ヘ交付シ且勘定モ該館ヨリ支出可相成候敬具

札幌農鬻教頭ウヰルリヤム、ホヰラー

〔農〇六六〕

三四八　校園用器械等米国より購入の件

於札幌千八百七十八年十二月十四日呈

開拓大書記官調所広丈貴下

校園於テ左ノ農具及ビ器械等要用ニ付閣下ノ御許諾ヲ得米国ヨリ購求仕度右ハ都テ校園定額金ノ内ヲ以テ仕払可致筈ニ有之候

概算ノ価格

一	弐拾弗	藪鎌（ブーシフークス）	拾弐
一	拾五弗	藪大鎌（ブーシスィゼス）	同　弐
一	四弗	乾草庖丁（ヘーナイブス）	
一	拾六弗	肥料叉　但d形ノ柄	拾弐
一	拾弗	スヘーデング、フホルク（但d形ノ柄）	六
一	九弗	鍬（ホーイス）　同上	六
一	拾弐弗	小斧（クリーバス）	六
一	三弗	鑿錐（ボンスス）　但シ各種	十弐
一	四弗	羊鉄（シープシェアクス）	三
一	拾五弗	鉄螺旋器（バイス）　七十五磅ノモノ	
一	弐弗	屠殺鋸	
一	弐百五拾弗	スアーバンクス大天秤（ラージスケール）　但シ五千磅	
一	百拾弗	バツケー種蒔道具（シードドリル）　但シ歯九ツノモノ	

一　六弗　フラン、チアード牛酪製造器（チヤード）
一　五拾弗　ミチガン鋤　但シ第二番形
一　七拾五弗　ギルビン二輪馬車（リヨルヒン）
一　弐拾五弗　園丁使用馬鍬（ガードナ）（ホースフホルク）
一　拾五弗　ソブソイル鋤　但シ鉱山用ノモノ
一　三拾八弗　コンルトル、ハロー
一　拾弐弗　シエアルス馬鍬（ホースフホルク）
一　百弗　フヒリツツプス特種ノ玉蜀黍去穀器（スペシアル）（コーン）（ハスカル）
一　七拾五弗　パテンテツド玉蜀黍剝穀器（コーンシエラー）　但シ二番形
一　九拾弗　バルドウキンス、アメリケン、フホドルバタ　但シ七番形
一　百弐拾弗　ストムプ、ルーラ
一　拾弐弗　バツケー草刈庖丁（フハヘナイフ）セクシヨン　拾弐
一　三弗　バツケー草刈指防（フハヘリングガアーズ）　三
一　拾五弗　バツケー草刈全備大鎌（フハヘリングレートスサイス）　弐
一　弐拾弗　乾草テヅ（ドル）又　弐拾四
一　百弐拾六弗　アメリケン、乾草テヅドル
一　拾弗　プロー、ポインツ　四

概算惣計価格　千弐百六拾弐弗

右之諸品在桑港マーキユス、シー、ホーレー商社ヨリ購求仕度該社ハ是迄屢々開拓使ノ御注文ヲ受ケタル事ナレバ大平洋海岸於テ其最モ良商家ナルハ疑念無之儀ニ御座候就テハ右注文可致特権ヲ余ニ被賜度左スレバ送品上ノ過誤モ自然少カルベクト被存候依テハ桑港駐劄柳谷領事方宛該注文品目録ヲ逓送シ余ガ注文書通リニ非ザル〔ママ〕ヨリハ決シテ代価ヲ不払様依頼仕度定メテ貴使ニ於テモ其物品注文ノ節ハ桑港領事館ヘ該目録御差送リ相成候儀ニ可有之左スレバ其物品ニ間違ノ生スル儀ハ無之事ト奉存候前陳ノ次第閣下ニ於テ御承諾相成候得ハ何分ノ御下命被仰渡度候敬具

札幌農学校園監督ウキリアム、ピー、ブルークス

〔農〇五六（ブルックス四一―三）〕

三四九　第一期末試験日程表提出の件

千八百七十八年十二月十七日於札幌

札幌農学校々長開拓大書記官調所広丈貴下

謹テ玆ニ余ハ本年十二月廿五日迄学期間農校生徒半ケ年試験順序ノ告単ヲ御心得迄貴下ニ呈スル栄ヲ有ス敬具

札幌農学教頭ウキルリアム、ホキラー

〔別紙一〕

札幌農学校

千八百七十八年十二月廿五日迄学期間即チ半ケ年試験順序ノ告単

第三年生

測量術	十二月廿一日土曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	教頭ホキラー
天文学	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	同
果物耕種法	十二月廿三日月曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	教師ブルークス
動物学	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	医師カツター
図学	同 午後二時ヨリ四時マテ	教頭ホキラー
天文学	十二月廿四日火曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	同
測量術	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	同
武芸	同 午後二時ヨリ三時マテ	少尉加藤

第二年生

本草学	十二月廿一日土曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	教師ペンハロー
農学	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	同 ブルークス
幾何学	十二月廿三日月曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	教頭ホキラー

〔別紙二〕

予習科

化学	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	教師ペンハロー
英語	十二月廿四日火曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	同 ブルークス
生理学	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	医師カツター
武芸	同 午後三時ヨリ四時マテ	少尉加藤

初年生

英語	十二月廿一日土曜日 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	医師カツター
化学	十二月廿三日月曜日 午前八時三十分ヨリ十時三十分マテ	教師ペンハロー
農学	同 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	同 ブルークス
武芸	同 午後二時ヨリ三時マテ	少尉加藤
代数学	十二月廿四日火曜日 午前十時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	教員市郷

教頭ウヰルリアム、ホキラー

千八百七十八年十二月廿五日迄学期間即チ半ケ年試験順序ノ告単

二級生

地理学	十二月廿三日月曜日午前八時三十分ヨリ九時三十分マテ	教員市郷	
読書綴字及ヒ習字	同午前九時三十分ヨリ十時三十分マテ	同	井川
英語	十二月廿四日火曜日午前十時三十分ヨリ十一時三十分マテ	同	宮崎
和漢学	同午前十一時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	同	長尾

三級生

読書綴字及ヒ習字	十二月廿三日月曜日午前八時三十分ヨリ九時三十分マテ	同	井川
算術	同午前十時〔ママ〕三十分ヨリ九時〔ママ〕三十分マテ	同	市郷
和漢学	十二月廿四日火曜日午前十時三十分ヨリ十一時三十分マテ	同	長尾
英語	同午前十一時三十分ヨリ午後零時三十分マテ	同	宮崎

札幌農学校教頭ウイルリアム、ホヰラー

〔農〇六四〕

三五〇　米国より舎利別醸造用器械購入の件

於札幌千八百七十八年十二月十七日呈

開拓大書記官調所広丈貴下

甘蔗ヲ以テ舎利別醸造ノ為メ校園於テ米国ヨリ一具ノ器械ヲ購求仕リ度且ツ其節同所ヨリ早熟ノ「アンヘル甘蔗」ノ種子二ブッシル（四斗程ニ当ル）ヲモ輸入仕リ度存シ候尤モ該器械概算ノ価格ハ陳述難仕候得共右器械及ビ種子共都合五百弗ヨリ遙カニ以下ニシテ購求可相整儀ト信憑仕候閣下ノ御承諾ヲ得ルニ於テハ右種子及ヒ器械トモ購求方教頭ダブリユ、エス、クラーク氏ヘ委托仕度都テ校園定額金ヲ以テ仕払可仕筈ニ候条右購求ノ儀閣下ニ於テ御承諾被下候ハヽ該器械及ビ種子トモ五百弗以内ノ金員ニシテ教頭クラーク氏ノ奥書ヲ付シ差出候節ハ仕払相成候様在華盛頓府貴国公使ヘ其旨御通達希度此段書面ヲ以テ閣下ノ御認諾ヲ奉仰候拝具

札幌農学校園監督ウヰリアム、ピー、ブルークス

〔農〇五六（ブルックス四一―四〕

三五一　クリスマスを祝し麦酒贈進の件

弐百弐号

千八百七十八年十二月二十四日於札幌

各通　親しきウイルリアム、ホイーレル　貴下
親しきデ、ピ、ペンハルロー
貴下及ヒ令閨ニ救世主誕辰ノ爽快ヲ祝シ物産局ノ微意ト共ニ麦酒壱樽令閨へ贈進いたし候条御領収有之度候不宣

佐藤秀顕

〔道〇二四五四〕

三五二　校園用農具等購入に付回答

百九十一号

千八百七十八年十二月廿五日

農学校園監督ウヰリアム、ピー、ブルークス貴下

農学校園用農具及舎利別醸造用器械等米国ヨリ購求ノ儀ニ付本月十四日及ヒ十七日附ヲ以テ御申出ノ趣承諾致候条此段及廻答候也

農学校々長開拓大書記官調所広丈

〔道〇二四五四〕

三五三　兵学科目制定の儀伺

長官(花押)(黒田)

書記官㊞(金井)㊞(鈴木)　㊞(調所)農鑿㊞(加藤)㊞(下山)㊞(森)

公文課

本校武芸科目別紙之通相定歩兵部生兵ヨリ大隊運動幷ニ野堡造法ニ至ル迄演習致追而大砲使用モ兼教授致可然哉此段相伺候也

明治十一年十二月

〔別紙〕

生兵学	自十一年十二月	至十二年四月下旬
小隊学	自五月上旬	至同　中旬
中隊学	自五月中旬	至六月中旬
生兵撤兵	自六月中旬	至七月上旬
小隊撤兵	自七月中旬	至八月上旬
大隊運動	自八月上旬	至九月

追加

射的

臨時築城造法大略

射的学大略

歩兵編制法

行軍哨兵及宿営法

以上或ハ之レヲ室内ニ講シ或ハ之レヲ実地ニ施行ス

〔道〇二四一一〕

三五四　明治一一年英籍目録〔注二〕

英書目録

				部数
第†壱号	ウエーラント氏	経済書	一部一冊	十
第†弐号	ウエーラント氏	脩身学	同一冊	十九
第†三号	ダナ氏	地質書	同一冊	六
第†四号	ピンノツク氏	仏国史	同一冊	八
第†五号	ドラツペル氏	窮理書	同一冊	十七
第†六号	ウエルス氏	窮理書	一部一冊	五十
第†七号	グードリツチ氏	万国史	同一冊	十九
第†八号	キゾー氏	開化史	同一冊	十七
第†九号		ロヤル中字書	同一冊	十五
第†拾号	グードリツチ氏	羅馬国史	同一冊	廿三部
第†拾一号	グードリツチ氏	希臘国史	同一冊	九
第†拾二号	マークハム氏	英国史	同一冊	廿
第†拾三号	ガノー氏	窮理書	同一冊	拾五
第†拾四号	クエツケンボス氏	大合衆国史	同一冊	十六
第†拾五号	ライエル氏	地質書	同一冊	九
第†拾六号	コーレンソ	点竄書	同一冊	七
第†拾七号	チヤンブル氏	数学表	同一冊	廿三
第†拾八号	フアオンス氏	化学書	一部一冊	卅七
第†拾九号	ヘボン氏	倭英小辞書	同一冊	十六
第†廿号	ウエーランド氏	脩身学	同一冊	十
第†廿一号	ロブシチヤルド	英華字典	同四冊 同二冊	七
第†廿二号	エブストル	大英辞書	同一冊	廿四
第†廿三号	「スマアト氏	ホレース」		一
第†廿四号	グードリツチ氏	合衆国史	同一冊	六
第†廿五号	ヘルキンス氏	幾何及ヒ三角術書	同一冊	七
第†廿六号	クードリツチ氏	英国史	同一冊	廿六
第†廿七号	タビース氏	数学辞書	同一冊	七
第†廿八号	ダナ氏	礦山学手簿	同一冊	九
第†廿九号	ウエブストル氏	小カヲンチング英辞書	同一冊	十三
第†三拾号	チヤンブル氏	平面幾何学		十

「十三年一月米国ヨリノ書加十」

「十五年一部ヲ加ヘ」

「十三?カッタ焼ク」

第五号外事ニテ焼ク第四巻一冊在

「五ベン焼ク」

「十ベン焼ク」

「壱ブルクス焼ク十七年一月」

第十三一号	ユークリット氏	平面幾何学		十七	
第十三二号	ユーメン氏	化学書	一冊	九	
第十三三号	「カイタクシノ誤カ」	英和対訳辞書	同	一冊	百二
第十三四号	クエツケンボス氏	大文典	同	一冊	卅五
第十三五号	クエツケンボス氏	小作文書	同	一冊	廿
第十三六号	クエツケンボス氏	窮理書	同	一冊	四十六
第十三七号	クエツケンボス氏	大作文書	同	一冊	廿
第十三九号	ミツチエル氏	地理図	同	一冊	八十八
第十三八号	ミツチエル氏	地理書	同	一冊	八十八
第十四一号	「八五カッタ焼ク」	中英辞書	同	一冊	三部
第四十	クードリッチ氏	「鉄道報告六十七年ヨリ六十九年マデ」			三
第十四二号	ウエブストル	会話	同	二冊	二
第十四三号	ウエブストル	小英辞書一部	同	一冊	四
第十四四号	テーヤー氏	パイオニールボイ	同	一冊	
第十四五号	ゴルドスミス	著述全集	同	一冊	
第十四六号	ホーレム氏	欧州中世史	同	一冊	
第十四七号	ブラヲン氏	トルキイス、ハレムス、エンド、シイルカシエン		一冊	
	ノルセント	ホームス	同		
		米国学則	同	一冊	

第十四八号	コンネテカツト	天文書	同	一冊	
第四十九号	パストルネル氏	窮理書	同	一冊	
第五十号	ラードネル氏	窮理書	同	一冊	
第五十一号	ジョイス氏	古代英傑伝	同	一冊	
第五十二号	パアレー氏	人名辞書	同	一冊	
第五十三号	ウイルキンス氏	地理辞書	同	一冊	
第五十四号	ウイルリエムホシース	本草辞書	同	二冊	一
第五十五号	ダーマスムール	歴史辞書	同	一冊	
第五十六号	サミユールマア	知識辞書	同	一冊	
第五十七号	サミユールマヲ	諸学辞書	同	一冊	
第五十八号	サミユールマオ	地理辞書	同	一冊	三
第五十九号	リヒンコツト氏	諸学辞書	同	一冊	
第六十号	ビートン氏	化学辞書	同	一冊	四
第六十一号	ブース氏	農学辞書	同	一冊	二
第六十二号	エメルソン氏	経済原論	同	二冊	二
第六十三号	ミル氏	人民教育書	同	二冊	一
第六十四号	チヤンブル氏	解剖及生理書	同	一冊	廿一
第六十五号	ヒチツコツク	各国金銀手簿	同	一冊	
第六十六号	スノーデン	亜米利加及ヒ亜西亜紀行	一部	一冊	
第六十六号	パンベリー				

第†六拾七号　ハートンヨルン氏　万法新書同　一冊
第†六拾八号　ジョンス氏　石脳油説同　一冊
第†六拾九号　ダツソース　製酢書同　一冊
第　七拾　号　フエールベーレン氏　製鉄書同　一冊
第†七拾一号　ダソース　石硷造製書同　一冊
第†七拾二号　ボーデツチ　石炭瓦斯同　一冊
第†七拾三号　グレー氏　本草書同　一冊　廿二
「ニベン焼ク」
第†七拾四号　ボンコツタ　礦滓取扱方法書同　一冊　二
第†七拾五号　ダナ氏　地質手簿大本同　一冊　三
内第二号生徒賞賜ベンハローヘ払下ゲニナリシモノヽミヽミヽミ

第†百三号 ドーニング 建築書 一部一冊
第†百四号 ペルシー 鉛金属学 鉛ノ部同 一冊 四
第†百五号 レーモアンド 礦山諸誌 ロッキー山ノ西 同 一冊
第†百六号 プロトー 製紙書 同 一冊 二
第†百七号 ゼームス 天文書 同 一冊
第百八号 クレツグ 石炭瓦斯説 同 一冊
第†百九号 ヒユース氏 瓦斯説 同 一冊
第†百拾号 ドフソン 練化石製造書 同 一冊
第百拾一号 ムーレー 画学書 同 一冊 六
第†百拾二号 カステル氏 コンセントレーション化学書 同 一冊 四
第†百拾三号 バーケル 化学書 十
第†百拾四号 ブランヲン 器機動力書 一部一冊
第†百拾五号 インメンス氏 測量書幷表 同 一冊 二
第百拾六号 ホルトル 対数表 同 一冊 五
第†百拾七号 ヒユース氏 水利術書 同 一冊 二
第†百拾八号 アルモール氏 鉄及熱ノ説 同 一冊
第†百拾九号 グリーン氏 重荷ヲ上下スル器械書 揚 同 一冊 二

第†百二十号 アンドリユー氏 農業諸器ノ書 同 一冊
第百廿一号 ステベンソン 燈明台建築書 同 一冊 二
第†百廿二号 キツギンスマアレツト 土塁建築書 同 一冊 二
第†百廿三号 パーレー氏 万国史 同 一冊 六十三
第†百廿四号 バーローウ氏 政体進階 同 一冊
第†百廿五号 ヒコツク氏 ピアペールス 脩身学 同 一冊
第†百廿六号 幾何学 一部一冊
第‡百廿七号 スローン 街衢建築書 同 一冊
第‡百廿八号 ビツクネル氏 農家建造書 同 一冊
第‡百廿九号 ウードフルト氏 普通建築術書 同 一冊 二
第†百三拾号 チヤンブル氏 代数学〔加筆〕「キイ」 四
第†百三拾一号 ダビス 実用数学 同 一冊
第†百三拾二号 ボストン 府市文庫 同 二冊
第†百三拾三号 ダヒース 代数学書 同 一冊 十一
第†百三拾四号 タヒース 代数学キー 同 一冊 二
第†百三拾五号 デトツケベル ミスシスツビイヨリ大平海ノ間鉄道線路 十三冊 十三
第百三拾六号 スミツス ホーエンスミツス 米国政体記 同 二冊
スミツス 旧約記 史 同 一冊
第†百三拾七号 スミツス 新約 志 史 同 一冊

第百三拾八号	スチユーテンド	英国史一部	一冊	十
第百三拾九号	スチユーデント	仏国史同	一冊	
第百四拾号	スミツス	希臘史同	一冊	
第百四拾一号	ハラム	中世史同	三冊	
第百四拾二号	ホーレム ミミミハラム	英国史同	三冊	
第百四拾三号	ホーレム ミミミミ	ヲールコツト氏ム	一冊	
第百四拾四号	マルクバイ氏	法律原論同	一冊	
第百四拾五号	マコーレー氏	英国史同	四冊	
第百四拾六号	ランダル氏	水晶工書全	一冊	
第百四拾七号	バツケル氏	英国開化史同	三冊	
第百四拾八号	バルン氏	農学書同	二冊	
第百四拾九号	ブラドレー氏	解剖及ヒ生理比較手簿同	一冊	
第百五拾号	カンプベルス氏	農学舎密書同	一冊	
第百五拾一号	カアテル氏	解剖書同	一冊	
第百五拾二号	エリース氏	解剖指南同	一冊	
第百五拾三号	米国	農局年報同 自千八百四十七年 外ニ六十六年弐部 至千八百七十七年 六十七年一 六十八年一 六九年一 七十年一 七十二年二	一冊	卅九
第百五拾四号	米国	農局月報同 自六七年 外ニ六七、六八各一部 至七弐年	一冊	八

第百五拾五号	森有礼	日本教育		
第百五拾六号	レグナート	化学書同	二冊	二
第百五拾七号	クーレー氏	得業辞書同	一冊	
第百五拾八号	ヲーネル氏	染物辞書同	一冊	
第百五拾九号	エンソン氏 クルークスケ ミミル氏	人名并地理辞書同	一冊	
第百六拾号	十五年一部ヲ加ヘ	金属精練書同	三冊	三
第百六拾一号	アブレツトン	器械辞書同	二冊	
第百六拾二号	「十四年」一部ヲ加ヘ クランド氏	赤葛萓根ニテ造同 糖書	一冊	
第百六拾三号	グードヤール氏	金銀鉛及諸礦分同 析書	一冊	
第百六拾四号	クーパー氏	トラヱルス、オフ、パイヲニールオフコンマルス同	一冊	
第百六拾五号		支那日本開港紀同 事	一冊	
第百六拾六号	ノツキス	亜西亜紀行同	一冊	
第百六拾七号	カルロツチ	商法并商用航海同 辞書	一冊	二
第百六拾八号		アワール、ジストル、レパブリツク同	一冊	
第百六拾九号	ミルマン氏	ギボンス羅馬史同	六冊	
第百七拾号	アリソン氏	欧洲史附録共同	十三冊	

第百七拾一号　メールエルスキーン氏ミル氏　英国史　同　三冊
第百七拾二号　「加筆」「代」議院談　同　一冊
第百七拾三号　ハーレム氏　文教史　同　四冊
第百七拾四号　ゴールデン、ジード　同　一冊
第百七拾五号　パーケル　礼拝書　同　一冊
第百七拾六号　スミス氏　スチューデンツ羅馬史　同　一冊
第百七拾七号　ボージツチ氏　航海書　同　一冊
第百七拾八号　ヲリバアー氏　植物学　同　一冊
第百七拾九号　ニツコルソン氏　動物学　同　一冊　拾八
此十号生徒賞賜ペンハローへ払下
第百八拾号　トンリンソン氏　諸術辞書　同　三冊　六
但百八十号ノ六号付録欠本也「一ノ中、二ノ上ペンハロー焼ク」
第百八拾一号　ポルトル氏　人類知識　同　一冊
第百八拾二号　ミル氏　論理術　同　一冊
第百八拾三号　ボワルス氏　アワー、ニュー、ウエスト　同　一冊
ハイ、タルタリー、キエルカア　同　一冊
ーントケエンエール紀行
第百八拾四号
第百八拾五号　ハムレー氏　新海古陸　同　一冊
第百八拾六号　パーケル　エキスヘリエンス、アス、エ、ミニストル　同　一冊
第百八拾七号　ホーレム氏　英政史　同　一冊

第百八拾八号　メーヒユー氏　サキソニー風俗記　同　一冊
第百八拾九号　スミツス氏　人民致富　同　一冊　二
第百九拾号　アングロサキソン歴史　同　一冊
第百九拾一号　ジホン氏　経済原論　同　一冊
第百九拾二号　バウエン氏　米国経済学　同　一冊
第百九拾三号　ペーリー氏　経済学　同　一冊　十六
十八号「十二年十一月ホエラ献書加ヘ」
第百九拾四号　カルロツク氏　経済学　同　一冊　十二
第百九拾五号　ヒウムス　修身及ヒ経済書抜萃　同　一冊
第百九拾六号　バステート氏　経済学　同　一冊
第百九拾七号　ギボン氏　自伝及手簡　同　一冊
第百九拾八号　ノエース　新約全書　同　一冊
第百九拾九号　ニエンドルス　ヒストリイ、ヲフ、ドツクマス　同　二冊
第二百号　ウースレー　離縁　同　一冊　二
第二百壱号　マルチン　千八百七十一年及七十二年　各国記　同　二冊
第二百二号　シイチイ氏　条約書　同　一冊
第二百三号　ステフエン氏　英政訳解　同　四冊
第二百四号　フイリイモール氏　万国公法　同　四冊
第二百五号　ケント氏　米国法律　同　四冊
第二百六号　バルストー氏　硫化物　同　一冊

第二百七号　スミツス氏　羅馬小史　同　一冊
第二百八号　ダビトソン　ウエールギル　同　一冊
第二百九号　バツケレー　ヲデスセイヲフ　同　一冊
第二百拾号　チエンニングス　ホーメル　同　一冊
第二百拾一号　チヤンニグース　ウオルク　同　六冊
第二百拾二号　バクストル版　メモイル　同　三冊
第二百拾三号　ブンヤシテイジル氏　希臘英吉利対訳新約全書　同　一冊
第二百拾四号　モアレーイ氏　天路歴程　同　一冊　二
第二百拾五号　ヲーカル　順礼記　同　一冊
第二百拾六号　バーンス氏　ウラグエヰ旅行記　同　一冊
第二百拾七号　マーチンエン　耶蘇拝礼式　同　一冊
第二百拾八号　デツケン　ノート　同　十二冊
第二百拾九号　ハウラム氏　エンデウオール、アフトル、クリシチエン、ライフ　同　一冊
第二百二拾号　スクミエツ氏　耶蘇祭日小説　同　一冊
第二百二拾一号　スタンフオード版　欧州中世史　同　一冊
第二百廿二号　シーレイ氏　古史手簿　同　一冊
第二百廿三号　ゼノホンシラス氏　政体一覧　同　一冊
第二百廿四号　ボーウエン氏　羅馬国権史　同　一冊
　　遠征史　同　一冊
　　デトツケバル米国雑記　同　一冊

第二百廿五号　マーチンニユー　西教学　同　一冊
第二百廿六号　ウイルソン氏　独一神身論　同　一冊
第二百廿七号　ブートエル氏　スピキチエスヲフレベリヲン　同　一冊
第二百廿八号　ノストランド版　平面測器　同　一冊
　　二号十一年十二月ノ書加ヘ
第二百廿九号　ミル氏　利用益々学　同　一冊
第二百三拾号　ホイト　ゴスペルヲフシヨン　同　一冊　二
第二百三拾一号　ジヤクソン氏　クリスチヤンモラリーチヤンニングス　同　一冊
第二百三拾二号　ミル氏　ソウーツレーソニング　同　一冊
第二百三拾三号　パーカル版　考定理論　同　一冊
第二百三拾四号　カツシンクー氏　手簿　同　一冊　二
第二百三拾五号　フオールブス氏　普仏戦記　同　二冊
第二百三拾六号　ビンガム　欧州紀行　同　一冊
第二百三拾七号　　ツウ、キーエルス、ウイス、ジ　同　一冊
第二百三拾八号　フレーウート　耶蘇一代記　同　一冊
第二百三拾九号　ムール　ウイメン、ヲフ文集　同　一冊
第二百四拾号　アダムスミス氏　諸学抜萃　同　一冊
第二百四拾一号　オスバルン氏　鉄及鋼鉄書　同　一冊　二
第二百四拾二号　カーナーボン氏　エセンス、エントモリヤ　同　一冊

†第二百四拾三号	ローランド氏	英政〔加筆〕体手簿	同	一冊
†第二百四拾四号	ロゼットシールス氏	英語節用	同	一冊 二
†第二百四拾五号	モルリール氏	婦女性理	同	一冊
†第二百四拾六号	ホムプレイ氏	写真手簿	同	一冊
†第二百四拾七号	ヘーリングヒーリー	英国学士記	同	一冊
†第二百四拾八号	ヘルチエル氏	海軍手簿	同	一冊 二
†第二百四拾九号	ホル氏	ウエストリー、チヤイムス	同	一冊
第二百五拾号	ラルデシ	那波烈翁一代記	同	一冊
第二百五拾一号	ミルトン氏	詩学	同	一冊
†第二百五拾二号		クーペルズウイルキルソサイテー	同	一冊
第二百五拾三号	クロウエス	英国龍動繁昌記	同	一冊
†第二百五拾四号	ハミルトン氏	理学試験	同	一冊
†第二百五拾五号		サクスピエル氏、コンプリート、ヲールクマニウエルヲフブシイスム	同	一冊
†第二百五拾六号	ハーデー			一冊
†第二百五拾七号	ウール氏	諸術辞書	同	二冊
†第二百五拾八号	「第一、二冊ペンハロー焼キ、十四年一部ヲ加ヘ」	ブレツキストン	同	二冊
†第二百五拾九号	クーレイ氏	法律辞書	同	二冊
†第二百六拾号	ボーウイル氏	ゼウヨークス、ヲフ、フレーヴアス、ジヨセフ	同	一冊

†第二百六拾一号	ダーキン	ゼヲリジン、ヲフ、スペシイス	同	一冊
†第二百六拾二号	モールレツト氏	米国中部紀行	同	一冊
†第二百六拾三号	ホプキンス氏	愛法親論	同	一冊
†第二百六拾四号	ホウアトレイ氏	論理術	同	一冊
†第二百六拾五号	ギルバルト氏	銀坐学	同	一冊
†第二百六拾六号	ブース氏	大理石細工書シセロ。ヲン。ゼ。ネチエール。ヲフ。ゼン。ゴソト	同	一冊
†第二百六拾七号			同	一冊
†第二百六拾八号	シセロ氏	説話書抜萃	同	一冊
†第二百六拾九号	シセロ氏	修身学オッフィセヲ	同	一冊
†第二百七拾号	マールチン氏	ルウスアル時代記	同	一冊
†第二百七拾一号	エルデルホルスト氏	吹管書	同	一冊
†第二百七拾二号	マスプラツト氏	化学書	同	二冊 三
†第二百七拾三号	ワツツ「四ペン焼ク」	化学字書	同	五冊 四
†第二百七拾四号	ホウエートン氏	万国公法	同	一冊 三
†第二百七拾五号	テンネーリンコルン氏	〔加筆〕「南北」海陸軍記録	同	一冊
†第二百七拾六号	バルン氏	海陸軍辞書	同	一冊
†第二百七拾七号	キング	支那水先案内	同	一冊
†第二百七拾八号		イラストレエテツト、バイロン〔加筆〕「詩集」	同	一冊

第†二百七拾九号	クエツケンボス	小　文　典	同	一冊	八十一
第†二百八拾号	ウイルソン	第一リードル	同	一冊	百卒一
第†二百八拾一号	ウイルソン	第二リードル	同	一冊	八十
第†二百八拾二号	ウイルソン氏	第三リードル	同	一冊	四十九
第†二百八拾三号	松本マゼウス〃〃〃	英和通信	同	一冊	七十五
	「冊一ブル脱ク」				
第†二百八拾四号		スヘルリング	同	一冊	百九
第†二百八拾五号	ハスコル氏	実地トンネル	同	一冊	十三
		薩摩板英和辞書〃〃〃〃〃〃	同	一冊	
第†二百八拾六号	ヘホン氏	大和英辞書	同	一冊	六
第†二百八拾七号	サアーセント氏	第一リードル	同	一冊	九
	「九ブル脱ク」				
第†二百八拾八号	サアセンド氏	第二リードル	同	一冊	七
第†二百八拾九号	レンーニイ	小　文　典	同	一冊	廿九
第†二百九拾号	ガヨツト氏	小地理書	同	一冊	八十六
第†二百九拾一号	パーケル	ナシヨナル第三リードル	同	一冊	廿六
	「廿六ブル脱ク」				
第†二百九拾二号	ガヨツト氏	大地理書	同	一冊	三
第†二百九拾三号	ロング氏	沿革地図	同	一冊	

第†二百九拾四号	ヱルド	英国地図	同	一冊	
第†二百九拾五号	ヒリツプ氏	〔加筆〕「沿革」地図	同	一冊	
第†二百九拾六号	シヨンソン氏	〔マヽ〕袖珍辞書	同	一冊	
第†二百九拾七号	タヒース氏	陸地測量書	同	一冊	二
第†二百九拾八号	チヤンブル氏	近世史	同	一冊	
第†二百九拾九号	フランクリン氏	天球地球教導書	同	一冊	
第†三百号	シヤコツプ氏	スペル読本	同	一冊	廿六
第†三百一号	ロビンス	童学教導書	同	一冊	
第†三百二号	ヘンドルソン氏	綴字幷地名集	同	一冊	
第†三百三号	ペルキン氏	三角術書	同	一冊	四
第†三百四号	ロヒンソン氏	〔加筆〕「大学」代数学	同	一冊	廿八
第†三百五号	ロヒンソン氏	代数学キー	同	一冊	七
第†三百六号	ロヒンソン氏	幾何学書	同	一冊	卅三
	「九部ヲ加ヘ」				
第†三百七号	ロヒンソン氏	幾何学書キー	同	一冊	十三
第†三百八号	ゴルドスミツス氏	地理書	同	一冊	二
第†三百九号	ダビース	算術書	同	一冊	廿九
	「四部ヲ加ヘ」				
第†三百拾号	ダビース	算術書キー	同	一冊	
第†三百拾一号	プレーブエール氏	幾何学	同	一冊	

第†三百拾二号	タムソン氏	高等平算書同	一冊
第†三百拾三号	「ドツド	鉄道及蒸汽車 一冊」	
第†三百拾四号	フエルトル氏〔注二〕	算術書同	一冊
	ミヽヽヽヽヽ	ヽヽヽ	
	フエルトル氏	筆算解法同	一冊 五
第†三百拾五号	クエツケンホ氏	算術書同	一冊 十一
第†三百拾六号	コルンウエル氏	地理書同	一冊 廿三
第†三百拾七号	ロヒンソン氏	高等幾何同	一冊 廿六
第†三百拾八号	ロヒンソン氏	小算術書同	一冊
第†三百拾九号	ホール氏	地形図解同	一冊
第†三百二拾号	フヲーレル氏	文典同	一冊 二
第†三百廿一号	パーネル	道路修繕書同	一冊
第†三百廿二号	ハルリストル氏	各人律法同	一冊
第†三百廿三号	エトキン氏	薬剤学及実用書同	二冊
		ヒジヲロジー、ヒジヲフ、マーレー同	
第†三百廿四号	ライパル	鉄及鋼鉄書同	一冊 二
第†三百廿五号	コン氏	尺牘小本同	一冊
第三百廿六号	コツトラール	道路建築同	一冊
第†三百廿七号	マカタム	化学書図同	一冊
第†三百廿八号	ユーメン氏	道路書同	一冊
第三百廿九号	ペートルソン氏	合衆国図同	一冊
第†三百三拾号	コルトン		

第†三百三拾一号	エチヲルス	道路取扱方法同	一冊
第三百三拾二号	ミル氏	自由之説同	一冊
第†三百三拾三号	ハクスレー氏	レーセルモン、アトレース、エンドレビーウス	一冊 二
第†三百三拾四号	ヘードン	世紀及人民年月同記	一冊 二
第†三百三拾五号	バツクレー	フリエアントイリヤード、ヲフ、ホウメル	同 一冊
第†三百三拾六号	デキソト	セオドルスケブ、チクス、コンヘウルシヨン	同 一冊
第†三百三拾七号	ホールレム氏	英国政体同	一冊
第三百三拾八号	ペルロース氏	食物理学同	一冊
第†三百三拾九号	柴田	英和字彙同	一冊
第三百四拾号	ドーリツトル	英華萃林韻府同	二冊
第†三百四拾一号	トードホントル氏	大代数学同	一冊
第†三百四拾二号	タビス氏	高等幾何同	一冊
第†三百四拾三号	タビス氏	レゼンドル幾何同	一冊
第†三百四拾四号	ゼンス氏	海上天文及航海書同	一冊
第†三百四拾五号	ボルネル氏	石灰書同	一冊 二
第†三百四拾六号	ラードネル	蒸気機関書全	一巻
第†三百四拾七号	ベーカル	同	一

第三百四拾八号	ムーレー	汽船機械書　一
第三百四拾九号	デンプセー	汽車機械書幷図　二
第三百五十号	アームストロング	汽　鑵　一
第三百五拾一号	アベル氏	器械書幷図　二巻
第三百五拾二号	キントン	近世工術　一巻
第三百五拾三号	アーモール	運動力　一
第三百五拾四号	ベーカル	機械功用　二
第三百五拾五号	同	秤量及物動論
第三百五拾六号	トムリンサン	機械学全一巻
第三百五拾七号	バルゴエン	爆発及鑿石術
第三百五拾八号	ブランド	弓形及石柱
第三百五拾九号	バルチウキールス板ミミミミ	鉄道建築学
第三百六拾号	ヒウス	道路建築書
第三百六拾一号	バルネル	水力機械
第三百六拾二号	ヘーザル	測量及星学器
第三百六拾三号	ベーカル及フエンキツク	地中測量
第三百六拾四号	ベーカル	陸地測量
第三百六拾五号	ウールハウス	微分算法
第三百六拾六号	ハツドン	微分算法全一巻
第三百六拾七号	ハン	積分算法

第三百六拾八号	カンピン	鉄橋及根太屋脊等
第三百六拾九号	デムプセー	地方疏水方
第三百七拾号	同	市街及家屋疏水法
第三百七拾一号	テート	地質書性理部
第三百七拾二号	同	同　年代部全一巻
第三百七拾三号	ヘーザル	視学用器
第三百七拾四号	モンクホフン	写真術
第三百七拾五号	トムリンサン	大気学
第三百七拾六号	フリシ	治河論
第三百七拾七号	キールス板	土木学
第三百七拾八号	ステツフエンソン	北亜米利加土木
第三百七拾九号	ドブソン	基礎及結合術
第三百八拾号	ビートン	度量書
第三百八拾一号	トムリンサン	寒煖説
第三百八拾二号	アルレン	家屋建造書
第三百八拾三号	ダビドソン	建築書
第三百八拾四号	同	模形図法
第三百八拾五号	同	写景法
第三百八拾六号	ダビトソン	凸出論

第†三百八拾七号	同	機械師図法		
第†三百八拾八号	同	石工図法		
第†三百八拾九号	同	匠人図法		
第†三百九拾号	同	木匠図法全	一巻	
第†三百九拾一号	ダビツドソン	金属延板師図法		
第†三百九拾二号	同	画線法		
第†三百九拾三号	同	ゴシツク石築		
第†三百九拾四号	マゼンダイ	軍器及用品		
第†三百九拾五号	チヤムブル	学術辞書全	十巻	二
第†三百九拾六号	ランキン	土木学		拾三
第‡三百九拾七号	同	機械及磨機書		
第‡三百九拾八号	同	蒸気機関書		
第三百九拾九号	同	機械学実用		八
第†四百号	ダナ氏	礦物学法則		
第†四百一号	テナルド	化学詳解		
第†四百二号	モルカン	掘礦器械書幷図全	二巻	三
第四百三号	エリオツト	無機化学全	一巻	
第四百四号	ステウデンガイド汽車機関	キルヤム版		
第†四百五号	ロビンサン	筆算基礎		
第†四百六号	フイリツプス	地図		十五
第†四百七号	コルネル	英国史		四十一
第†四百八号	ロルド	今世欧洲史		四十二
第†四百九号	モレル	文法書		廿二
第†四百拾号	コーレンソ	算術書		廿二
第四百拾一号	クレー	動物大図		三
第†四百拾二号	スウイフト	理学初歩上		四十二
第†四百拾三号		同下		冊
第†四百拾四号	クラツフ	類語辞書		四
第†四百拾五号	慶応塾版	小文典		十九
第†四百拾六号	「ロスコー	化学書	一冊	廿一」
第四百拾七号	小幡〃〃	英文熟語集		冊九〃〃
第†四百拾八号	ヲーカル	小辞書		十五
第†四百拾九号	ペルキン	幼童書		九
第†四百二拾号	ケツケンボス	代数詳解		十六
第†四百廿一号	グードリツチ	小米国史		十九
第†四百廿二号	ビイトン	仏国史		十九
		地名辞書		

†第四百廿三号	同	人名辞書	二
†第四百廿四号	キルソン	米国史	二
†第四百廿五号	同	第四リートル	十
†第四百廿六号	キルソン	第五リートル	五
第四百廿七号	エブストル	小辞書	廿六
†第四百廿八号	ロビンソン	実用算術	九
	「十四年十四部ヲ加ヘ」		
†第四百廿九号	同	同　ケー	九
†第四百三拾号	同	高等算術	二
†第四百三拾一号	同	同　ケー	二
†第四百三拾二号	同	測量及航海	廿一
第四百三拾三号	同	微分幷積分	
†第四百三拾四号	チヤムブル	実用算術	
†第四百三拾五号	同	同　ケー	
†第四百三拾六号	チヤムブル	代数学	三
†第四百三拾七号	同	実用数学	
†第四百三拾八号	ゼーン	三角術	
†第四百三拾九号	ポツツ	エウクリツト幾何	
†第四百四拾号	ポータル	化学初歩	
†第四百四拾一号	エーランド	小経済書	

†第四百四拾二号	ウード	動物書	
†第四百四拾三号	ムール	植物書	
†第四百四拾四号	エブストル	ハイスクール辞書	三
†第四百四拾五号	ロビンソン	代数初歩	廿四
†第四百四拾六号	同	同　ケー	四
第四百四拾七号	「ワキスバック	機械学	一」
	渡辺		
†第四百四拾八号	デトツクベル	「米国民政	五十
		西洋蒙求	二」
†第四百四拾九号	ボージツチ	智環啓蒙	十九
第四百五拾号	レキス	米国航海書	
†第四百五拾一号	エルス	畜鶏法	十九
†第四百五拾二号	ハート	化学書	
†第四百五拾三号	グレー	小文典	廿
†第四百五拾四号	ペントルトン	本草書	廿
†第四百五拾五号	ミツチエル	農学書	廿二
†第四百五拾六号	ハート	フイジカル地理	廿
†第四百五拾七号	ボールン	文法書	廿一
†第四百五拾八号	ネウビツキン	汽関問答	
†第四百五拾九号	スマイルス	瓦斯取扱入手簿	
		自助編	二

第†四百六拾号	ロビンサン	暗算書		十五
第†四百六拾一号	ナイト	英国史全八		
第†四百六拾二号	ミラル	化学書 二部ハ全三ヘ全二余	二	
	「十三年一月米国ヨリ書ヲ加ヘ」		廿二	
第四百六拾三号	ブランド及コツクズ	学術辞書全三		
第†四百六拾四号	ケプロン	開拓使、報文 一	三	
第†四百六拾五号	ペルセー	金属学		
第†四百六拾六号	ギゾー	文明史全四		
第†四百六拾七号	ルストー	普仏戦記全三		
第†四百六拾八号	ブライトレー	パルトン、ダイゼスト全二		
第†四百六拾九号	パツテント	米国政令録全四		
第†四百七拾号	リビンコツト	人名辞書、	二	
第†四百七拾一号	フキーリツプ	金銀鉱	三	
第†四百七拾二号	ボフマン	紙製書		
第†四百七拾三号	ドツブレー	焼酒製書		
第四百七拾四号	ダツトー	石炭鉄及油		
第†四百七拾五号	スコツヘルン	有用金属		
第†四百七拾六号	シルバルスミス	礦家手簿		
第†四百七拾七号	フキーリツプ	礦物学		
第†四百七拾八号	同	礦家必携		

第‡四百七拾九号	レーモンド	礦山書		
第†四百八拾号	同	西部礦山書		
第四百八拾一号	ギルモア	石灰類	二	
	二号「十二年十一月ホエラケンノ書ヲ加ヘ」			
第†四百八拾二号	ウーラル	礦物分析		
第†四百八拾三号	スキート	石炭特報		
第四百八拾四号	ボツクス	熱論		
第†四百八拾五号	マクラレン	体操書	二	
第四百八拾六号	ホツグ	顕微鏡		
第†四百八拾七号	ムール版	瓦斯用法		
第†四百八拾八号	ダツソー	マツチ製法		
第†四百八拾九号	スケレン	スペクトラム		
	「二ベン焼ク」		二	
第四百九拾号	リチヤードソン	建築法図		
第†四百九拾一号	ケル	英人家屋		
第†四百九拾二号	フラルトン版	千八百六十七年土木情形		
第†四百九拾三号	ベツクキス	テール石灰		
第†四百九拾四号	アベリン	匠工法		
第†四百九拾五号	ブレーク	金銀産物		
第†四百九拾六号	バルン	通気法		

第†四百九拾七号	ブロキサム	化学〔欠字〕用書	
四†九†八	〃	化学	二
第†四百九拾九号	ブレセニアス	定量分析	
第†五百号	同	定質分析	二
第†五百一号	ワグネル	化学書	
第†五百二号	キルソン	無機化学	
第†五百三号	ストークハルト	化学ノ理	二
第†五百四号	同	経験化学	
第五百五号	ビンチョン	化学用物理学	
第†五百六号	シリマン	化学之理	三
第†五百七号	ノーマンデー	分析手簿	
第†五百八号	ボーマン	実用化学	
	一部ヲ加ヘ		
第†五百九号	ビル	化学肥料	
第†五百拾号	サツトン	定量分析	
第†五百拾一号	ベル	煉鉄術	
第†五百拾二号	ペツパル	金属書	
第†五百拾三号	オバルマン	鉄煉法	
第†五百拾四号	ガラネル	同	
第†五百拾五号	ロセルー	ガルバノプラステツク	

第†五百拾六号	ドブソン	堀工及石切法	
第‡五百拾七号	シユフエルト	堀割報告書	
第†五百拾八号	ホツピン	アツフスエンドタウンス	
第†五百拾九号	イルビンク	華盛頓伝	
第†五百二拾号	森有礼	米国生涯	
第†五百廿一号	ジョン	石脳油	
第†五百廿二号	マトウ	国外一覧	二
第†五百廿三号	テーロル	日本紀行	
第五百廿四号	ウーストル	小辞書	
第†五百廿五号	キング	坑法図	
第†五百廿六号	スマイス	石炭及抗法	
	クルークス〃〃〃	菜糖製法〃	
	キルコツクス	漁人〃	
第†五百廿七号	スポン	工作法	
第†五百廿八号	グリフイス	四季化学	
第五百廿九号	リチヤードソンワツツ等	化学書全五	
第†五百卅号	アベルト〃〃〃	航河論〃	
第五百卅一号〃〃〃	アツプレベー	器械及鉄器	
第†五百卅二号	アツプレトン	人名字林	
第五百卅三号	同	ブラオン等米洲旅行	
第†五百卅四号			

一八六七年巴利博覧会

†第五百卅五号	ブレーク	米国委員報文全	六	六
	外ニ端本三			
第五百卅六号	ボンマル	肥料製法		
†第五百卅七号	ブラウン	所有地		
第五百卅八号	同	日本会話及附録		
†第五百卅九号	バイルン	蒸溜術		
第五百四拾号	カニウト	カンザス府橋		
†第五百四拾一号	コードリ	パンフキック法		
‡第五百四拾二号	クレセー	律字林		
†第五百四拾三号	デツク	土木字林		
†第五百四拾四号	ドツド	米国童子書		
†第五百四拾五号	ドェル	勉強奇事全	六	
†第五百四拾六号	イエシー	移民建築書	三	二
†第五百四拾七号	イベレツト	健康家屋		
‡第五百四拾八号	フエアベールン	デスカネル物理学	二	
†第五百四拾九号	フオーラル	磨舎及磨器全	二	
第五百五拾号	グキルト	石炭堀法		
第五百五拾一号	ハーラント	建築字林		
〃	〃	家事ノ理		
〃	〃	「ブルクス焼ク十七年一月」		
‡第五百五拾二号	ハスコル	土木野業		二

†第五百五拾三号	ヘウソン	堤防		
†第五百五拾四号	ヒントン	米国誌全	二	
†第五百五拾五号	ホーレー	村家図説		
第五百五拾六号	ホード	煖屋法		
†第五百五拾七号	ハルスト	建築測量家手簿		
†第五百五拾八号	ケーン	化学	二	
‡第五百五拾九号	キルクウード	河水漉清		
†第五百六拾号	ラントン	仏普戦記		
第五百六拾一号	レービツト	泥炭		
第五百六拾二号	ロツケヤル	大陽理学		
†第五百六拾三号	マクフアレン	米国石炭地方		
‡第五百六拾四号	メーハン	土木		
	「十二年十一月ホエラ献ノ書加ヘ」			
†第五百六拾五号	ミツチエル	実験手簿		
	十五年一部ヲ加ヘ			
第五百六拾六号	モレスヲルス	器械師手簿		
†第五百六拾七号	モーレル	米国牧羊		
‡第五百六拾八号	ノルスコツト	旋盤回転書		
†第五百六拾九号	オバーマン	像師及鋳工		
†第五百七拾号	同	鍛金術		二

†第五百七拾一号	ペルセー	奇談全二
†第五百七拾二号	ポール	パンプ用法
†第五百七拾三号	プロクトル	別世界
†第五百七拾四号	同	太陽
†第五百七拾五号	キンバイ	蜜蜂養法 二
‡第五百七拾六号	ランカイン	諸規則及表
†第五百七拾七号	リツドル	器械師幾何 二
†第五百七拾八号	ロセルス	礦山及金石律
†第五百七拾九号	ロートレツジ	各童子書
‡第五百八拾号	スクランク	紐約クロトン水道
†第五百八拾一号	スコツト	村家地所
第五百八拾二号	スクリブネル	土木師懐中表 二
†第五百八拾三号	セパード	米政課書
†第五百八拾四号	ベーンブリツジ	礦山法
†第五百八拾五号	シモンヅ	学術及貿易
†第五百八拾六号	スミス	紐約日光表裡
第五百八拾七号	スポンス	土木師小表 十二
†第五百八拾八号	タウンセンド	米政詳解
†第五百八拾九号	ボツゼス	建築家手簿 二
†第五百九拾号	ヲーリン	疏水法

第五百九拾一号	エブストル	袖珍〔ママ〕辞書 二
†第五百九拾二号	アルコック	日本全二
†第五百九拾三号	バイルン	醸造法
	ロゼツト ゝゝゝゝ	英語ノセソラス ゝゝゝゝゝゝ
†第五百九拾四号	ゴローニン	日本幽因録全三
†第五百九拾五号	オスボルン	日本切片
†第五百九拾六号	ソール	類語字書
	第二八十三年一月加	
†第五百九拾七号	「アダム	博物書」
第五百九拾八号	アツプレトン ゝゝゝゝゝゝ	亜米利加画図 ゝゝゝゝゝゝ
†第五百九拾九号	エーヤレー	天文書
第六百号	ドヅド	製物字書
‡第六百一号	ハスコル	橋梁及水道
†第六百二号	ハウス	合衆国測量手簿
	二十一年十二月加	
†第六百三号	バーレー	菓木園 十七
†第六百四号	ジョンソン	ハウ、クロップス、グローハウ、クロップス、ブイート
†第六百五号	同	
第六百六号	モルトン	農学韻府全二
†第六百七号	トーマス	米利堅菓木家 拾八

第†六百八号	クラーク	スケラル吹管手簿
第†六百九号	デッケルマン	農民書
第†六百拾号	ヲーリンク	農工手簿
	「十二年十一月ホエラ献書ヲ加ヘ」	
第†六百拾一号	同	農業手簿
第†六百拾二号	トツド	田舎家屋
第†六百拾三号	ドレーパル	米利堅家屋
第†六百拾四号	ルーミス	顕象学
	四部地理課ヘ	
第†六百拾五号	ヒチコツク	農学教育報告
第六百拾六号	ハイド	農業書
第†六百拾七号	スターテバント	乳牛
第†六百拾八号	シリマン	物理学
第†六百拾九号	ヲーカル	富有ノ学
第†六百二拾号	ウード及ベーチ	合衆国薬方
第†六百廿一号	キツケンハム	学校経済
第†六百廿二号	グロスベツク	商用算術
	「十二年十一月ホエラケンノーノ書加ヘ」	

第六百廿三号	アーレン社	農具価付
第†六百廿四号	ワシバルン	耕家指針
第†六百廿五号	マーチ	英語解剖
第†六百廿六号	クラーク	マサチセツツ農校報文
第†六百廿七号	ビンネー	神学説略
第†六百廿八号	ヘブルン	論理術
第六百廿九号	リンスレー	モルガン牧馬
第†六百三拾号	ワード	化石形状
第†六百卅一号	ギルマン	文学初歩
第†六百卅二号	スケラル	論理術初歩
第†六百卅三号	ペツクス	カノーノ物理学
第†六百卅四号	パトレー	基督教
第†六百卅五号	ノルドツフ	米政小学
第六百卅六号	キーラード	万国史
	「十二年十一月ホエラ献書ヲ加ヘ」	
第†六百卅七号	ハーリス	害植虫
第†六百卅八号	ヒチコツク	地質初歩
	「十二年十一月ホエラケンノーノ書加ヘ」	
第†六百卅九号	コーク	化学問題
第†六百四拾号	ヲーカル	千八百七十年米国農業表

第†六百四拾一号	イメルソン	政課書
第六百四拾二号	フラツセ社	器械価書
第†六百四拾三号	ゴルド	千八百六十八年コンネテカツト農業局報文
第†六百四拾四号	サトウ	会話篇第一巻
第六百四拾五号	フリント	マサチユセツツ農業局報文 自五十三年至七十七年 廿五巻外ニ七十一年一冊
第六百四拾六号	バーナート	千八百七十年諸術教育報文
第六百四拾七号〔注三〕	ストークス	千八百六十六年米国農業局報文
第†六百四拾八号	グリツヒン	化学反動ケミカレレクレーシヨンス
第†六百四拾九号	米国聖経会社版	両約全書
第†六百五拾号	グリーン	英民史 二号「十三年一月米国ヨリノ書ヲ加」「一号カツタ焼ク」
第†六百五拾一号	ジヤービス	人身究理
第六百五拾二号	ケスイ	定質分析手簿
第六百五拾三号	ハート	作文初歩
第†六百五拾四号	同	大作文書
第†六百五拾五号	ハート	米国文学 コムパニオン、ソー、バイブル
第†六百五拾六号	バーロース	

三

第†六百五拾七号	同	神聖地理書
第†六百五拾八号	ビソケルステス	礼拝論
第†六百五拾九号	ボガツキー	金宝
第†六百六拾号	フレゼル	仁恵法
第†六百六拾一号	ブル	信仰ノ助ケ
第†六百六拾二号	アメリケン、トラクト、ソサイテークリストリーブ	近世疑惑
第†六百六拾三号	カイラル	心命
第†六百六拾四号	イエジー	聖教要書
第†六百六拾五号	フレゼル	叩門基督
第†六百六拾六号	同	生命之源
第†六百六拾七号	フレーゼル	合光
第†六百六拾八号	ホール	カームトゼジユス
第†六百六拾九号	ハンナ	基督伝
第†六百七拾号	ハーシヤ	信仰ノ意想
第†六百七拾一号	ミルエーン	耶蘇教ノ証
第†六百七拾二号	ネルソン	不信者
第†六百七拾三号	パーレー	天然神学
第†六百七拾四号	プラマル	救護ノ岩

第†六百七拾五号	同	ウワイタルゴツドリネツス
第六百七拾六号	米国トラクトソサイテー版	聖書地図
第†六百七拾七号	同	読経ノ助
第†六百七拾八号	同	学経ノ友
第†六百七拾九号	同	聖経課書
第†六百八拾号	同	同字書
第†六百八拾一号	同	家族用聖書全三
第六百八拾二号	同	大信
第†六百八拾三号	同	ヒヤ、エ、リツトル、ライン、アツボン、ライン
第†六百八拾四号	同	聖経博物書
第†六百八拾五号	同	プレセプト、アツボン、プレセプト
第†六百八拾六号	同	切支丹週報 千八百七十一年より七十六年 同
第六百八拾七号	同	パレステン新図 〃〃〃〃
第†六百八拾八号	同	亜米利加韻府全 十六自一至十二端本八冊 外至三至十六
第†六百八拾九号	アツプレトン	工人必携
第‡六百九拾号	ニコルソン	化学詳解全二
第†六百九拾一号	ナツプ	米国鉄道記 千八百七十一年及二年
第‡六百九拾二号	プーア	

六

第‡六百九拾三号	ホート	軍橋
第†六百九拾四号	ペーリー	日本紀行全三
第六百九十五〃〃〃	アクトン	近世割烹〃〃
第†六百九十六号	アーノード	日耳曼学校 「ブルクス焼ク 十七年一月」
六†九七	アウドボン	自伝
六†九八	バーネス	耶蘇教之証
六†九九	ベーチエル	自伝全二
七†百	ベンネツト	恵蘇普物語
七†百一	ベバン	力工者全二
七†百二	同	英国製造者全三
七†百三	ブラツケツト	米英国女子教育〃〃
七†百四	ブレマル	新世界之家全二
七†百五	ブルーストル	紐敦伝
七†百六	同	学術之犠牲
七†百七	ブラウン	ソル之地
七†百八	バンカル	バンカル、ペーパル
七†百九	バルク	高尚及美麗
七百十	ブル	米国穀菜
七†一一	カードエル	化学書

二

七†一二　カーペントル　植物理学
七†一一　チヤツドボルン　自然神学
七†一一　チエールウ　亜弗利加冒険
七†一一　チヨーマース　ブリジヲータル論説
七†一一　チヤツブ　火盗予防
七†一一　チユルチ　化学場指針
七†一一　クレータル　牛医
七†一一　コーク　化学
七†一二　コルネリヤス　家事辨理法
七　一二　クレーズエー〔注四二〕　宇内大戦
七†二二　カルテス　ポテフアル、ペーパル
七†二三　イエストウード　クランベリー培養
七†二四　ダルキン　動植物全二
七†二五　ダウソン　地球及人類
七†二七　ダウビグネ　オリバルトキスト
七†二八　デツケンス　ピツクキツクペーパル
七　二九　同　庭園装飾
七†三十　ダウニンク　フランクリン伝記全二

十七

七†三一　ドレツセル　米国租税法
七†三三　イエセー　住家衛生
七†三三　イドワーズ　動物学
七†三三　イングレストン　サルケットライミミミ

七十四 六 フレンチ 園圃疏水
七十四 七 フーラー 小果培養
七十四 八 同 葡萄培養
七十四 九 同 森林培養
七十五 十 フルトン 桃培養
七十五 一 グラドストン ファラデイ
七十五 二 ギルミン 大陰之奇事
七十五 三 ホウル 北氷洋
七十五 四 ハルパルス版 世界周航
七十五 五 ハーリス 豚
七十五 六 ヘツドレー 山中冒険
七十五 七 同 那破崙及部将
七十五 八 同 華盛頓及部将
七十六 九 ヘンタルソン 花園
七十六 十 同 菜園
七十六 一 同 花木培養
七十六 二 ヒチコツク バイブル詳解
七十六 三 フーペス 常葉樹
七十六 四 ホツピン アドミラル、フーテ伝
七十六 五 ハツグ 支那紀行全二

七十六 六 フーラ 語音
七十六 七 ハウキスレー 史伝学
七十六 八 ゼンキン 魔鬼ノ鎖
七十六 九 ジョンソン 韻府全四
七十七 十 同 家族用地図
七十七 一 ムルフエー ジョンソン著書全二
七十七 二 ケルン 庭園装飾
七十七 三 ランクホルン プルターク伝
七十七 四 レセバイ 食餌
七十七 五 リビングストン サムベシ紀行
七十七 六 同 南亜弗利加紀行
七十七 七 同 最後日記
七十七 八 ローリンク ファームヤード、クラツブ
七十七 九 ルツバツク 英国野花
七十八 十 同 昆虫起原
七十八 一 マン 教育
七十八 二 マンテル 地質学奇事全二
七十八 三 マリオン 視学奇事
七十八 四 同 植物奇事
七十八 五 マーシ 英語起原

七†八六 同 地球人造変化
七†八七 マウレー 海中地理
七†八八 メーベウ 学術奇事
七†八九 メノート 動物之智
七†九十 マイルス 馬蹄
七†九一 ミツチエル イツジウード國
七†九二 ミバート 蠶
七†九三 ムーデー 好報
七†九四 同 大喜
七†九五 同 広告
七†九六 ムーア 体及心
七†九七 同 魂及体
七†八八 モツトレー 蘭史全三
七†九九 ムーレー 善馬
七†百 ネヤンドル 耶蘇伝 地球万国古史ミ
八†百一 ニコルソン カリフオルニヤ動物学一
八†百二 ノルドツフ アンデス山及アマゾン河 〔十三年一月米國ヨリノ書ヲ加〕
八†百三 オルトン 同

八†百四

八†百五 パツカード 昆虫 内四号九号ヲ以テ生徒賞賜ベンハローへ払下
八†百六 ポウタル 書籍及読誦
八†百七 ポツタル 学術之楽
八†百八 同 小学及教師
八†百九 ポウチエツト 宇内
八†百十 プライム 樹下
八†一一 プロクトル 新星図
八†一二 ベールドプツトナムミミミミ 飲食
八†一三 エツグレースト 独学
八†一四 同 活計
八†一五 ベールド 薬剤
八†一六 ボール氏 ラダウ聴学ノ奇
八†一七 ランタル 牧羊
八†一八 ラウ 欧洲古人
八†一九 レクラス 地球
八†二十 同 大洋
八†二一 ロビンソン 農家
八†二二 ロレストン 動物生涯

八†二三 サツクス 本草学
八†二四 スメー 自園
八†二五 スマイルス カラクタル
八†二六 同 節倹
八†二七 同 ハゲノツツ
八†二八〔注五〕
八†二九 サウゼイ エズレイ伝全二
八†三十 スプリンガル 森林生涯及樹木
八†三一 ステユワート 菜園及果園灌水
八†三二 同 ソルガム及生産
八†三三 スワン 華盛頓〔地方〕府住居
八†三四 タルフオート チヤーレスラム全二著書
八†三五 タルメージ 有害遊戯
八†三六 ブロヲン氏 タキシタルミスト手簿
八†三七 テイロル 博物用品蓄法
八†三八 同 デビツド
八†三九 同 エリジヤ
八†四十 同 ペイトル〔加筆〕「小説及講談」
八†四一 サツケレイ

八†四二 トーマス 田舎事業全七
八†四三 トムソン ラントエンドブック全二
「第二巻ペン焼ク」
八†四四 テツトコーム 手簡
八†四五 タイロル 人類古史
八†四六 同 初学全二
八†四七 アップハム マダムギヨン全二
八†四八 ボウ 別荘及小舎
八†四九 ベルン ミカイルストロゴツフ
八†五十 ワーレン 医師日記全三
八†五一 ワトソン 米国荘園
八†五二 ホキラー 民家
「十二年十一月ホエラ献書ヲ加ヘ」
八†五三 ホキツトネー 国語
八†五四 キラード 製乳
八†五五 キルモツト 千九百紀詩人
八†五六 キンチエル イボルーション
八†五七 同 創世
八†五八 ウースレー 今後之宗教
八†五九 ウースレー 政学全二

八十六	同	合衆国初百紀
八六一	ライト	畜・鶏
八六二	ヨアツト	牛
八六三	同	豚
八六四	同	羊
八六五	同	馬
八六六	ゾルカル	顕象
八六七	トラクト社版	バイブル大本
八六八	銭商ノ女	商業小学
八六九	バーカル	割烹小学
八七十	バルナル	健全小学
八七一	フーカル	シノプセスフイリカム
八七二	サミユルス	新英蘭之鳥類
八七三	グードリツチ	動物書全二
八七四	アルギン	政体ノ学術
	パルストン	本草辞書
	「ペンハロー」方ニテ焼失	
八七五	ウースタル	アルプス植物全二
八七六	アガシーズ	動物学

二

八七七	アルデン	クリシチヤンエシツクス
八七八	ベーリマン	民兵手簿
八七九	ブラウン	人心理学全二
八八十	チエバル	ヒリ、ジヒカルテー
八八一	コツフイン	争戦四年
八八二	コンベ	人体論
八八三	フーラー	ヲール街
八八四	グードスペイド	大火史
八八五	ガツツ	自伝
八八六	ホール	自伝
八八七	ハミルトン	田舎生計
八八八	ヒチコツク	地質宗教
八八九	同	アマースト大学校
八九十	ハント	学術之詩
八九一	ケンドリツク	ジヤトソン伝
八九二	クラマツカル	遭難救主
八九三	ローレンス	日記及書簡
八九四	レヤード	ニネバ之発明
八九五	ロイド	謀反戦史

八†九六 マルコーム 印度一瞥
八†九七 マーチン 華盛頓府裡面
八†九八 メルビル バイブルの思想
八†九九 ムール ベイカルの論説
九† ムーレー 万国韻府 全二
九†一 ピールス バイブル学者手簿
九†二 ロルフ 星辰手簿
九†三〜九† スカツフラー 耶蘇之晩年 「ブルクス焼ク十七年一月」
九†四 スコツト 兵学辞書
九†五 シドニー ヒル伝
九†六 ストンヘンジ 英国田舎遊戯
九†七 タムソン ストツダード記録
九†八 タイラー ロブテルの記録
九†九 テンデル 熱論
九†十 エルス メーン州水力
九†一一 マツセウス ゲツテンク、オンゼ、ヲールド
九†一二 「クルツクス 菜糖製法」
九†一三 米国衛生局年報 但千八百七十年ヨリ七十七年マテ 五巻

九†一四〜 チヤツドボン 動物之良和
九†一五 米国パーテント局年報 但一八五一、五二、五三、五四、五五
九†一六 一八七五年メツセージ及ドキユメンツ 全弐
九†一七 一八七五年メン、フー、アドバルタイセス
九†一八 一八六〇年米国下院日誌
九†一九 万国公法論
九†二十 七十六年貿易関係
九†二一 千八百七十年ミシカン農局報文
九†二二 七十三年教育報文
九†二三 教育局第卅年報
九†二四 七十六年政表局報
九†二五 七十五年租税報文
九†二六 七十一年紐約農社事務
九†二七 スミス外二十七号ホヰラーヨリ 風土記図画法
九†二八 ホヰラー 土木学
九†二九 シヤウ 英文学
九†三十 ヘブン 心性理学
九†三一 テンネー 地質学

五巻
十六
十六
十六
十六

九†三二	ピーボデー「十七号「十二年十一月ホエラ献書ヲ加」「八ブルクス焼ク十七年一月」	天文学	十六
九†三三	キル「十三ベン焼ク」	定質分析	十六
九†三三	カアレット版	スピーカルガー全 三	弐
九†三五	フイン	顕微鏡	十六
九†三六	アルゼン侯	レイン、オフ、ラウ	
九†三七	アームストロンク	ハムプトン師弟	
九†三八	バイコン	著述全 三	
九†三九	ブラウン	火酒之害	
九†四十	ケヤツトリン	米国土人	
九†四一	チヤツドボルン	動物之性	
九†四二	クラーク	顕微鏡用動物	
九†四三	ダーキン	食虫ノ植物	
九†四四	コツペー	グラント及戦役	
九†四五	カンミンク	ペーソン言行録	
九†四六	エンブレー	米国野花	
九†四七	イメルソン	代議員	
九四八	フレンチ	アイシヤー記第一巻第二巻	

九†四九	ギフオード	米国政府手簿	
九†五十	ギルソン	魯帝及土帝	
九†五一	グレー	組織本草	
九†五二	グレーン	アフターナイト	
九†五三	同	ハッピイデイ	
九†五四	ヒコツク	宇宙学	
九†五五	ヒチコツク	宇内地質	
九†五六	シヤツケス	体質健全	
九†五七	ジエー	礼拝	
九†五八	ジョンス	動物論	
九†五九	ラウドン	荘園	
九†六十	マウレツト	地震	
九†六一	マツカベ	クロッス及クラウン	
九†六二	ネーソン	ヘンリーキルソン伝	
九†六三	ネウマン	草木之美	
九†六四	ポータル	化学之理	
九†六五	ランドルフ	トーマスセフエルソン伝	
九†六六	ポータル	米国学校	

九†六七 ランドロフ版 ポピュラルオブゼクシヨン
九†六八 ラルストン 魯国史
九†六九 セルマン 自伝 全二
九†七十 スタンレー リビングストン探索 キリストン論説
九†七一 タイラー 内部生涯
九†七二 アプハム 野営史
九†七三 ビンセント 本草家
九†七四 ウード ステブンス伝
九†七五 下院 毎歳韻府 自一八六一至一八七六 十六巻
九†七六 アップレトン ワーネル 一八六五馬州工業
九†七七 ワーネル 一八六五馬州工業
九†七八 一八七六ボストン督学年報
九†七九 一八七〇米国第九戸籍表
九†八十 一八七五メイン農業
九†八一 同 ニウハンプシヤ 第五巻 一
九†八二 一八七七ベルモント農業

合四千百六拾五冊
四千百十一

ホヰラー講堂ヨリ受取書目

九†八三 ブロツセツト 米国風土学
九†八四 フロム 測量書
九†八五 キーレーピイ 量地書
六†百二ノ二 ハウス 米国測量
九†八七〔注六〕 ナイト 米国器械字書 全三
九†八八 ミニフイイ 図学書
二†二八ノ二 ノストラント 平面測器
九†八九 ワーレン 画線法
九†九十 同 石切
九†九一 同 画学器
九†九二 同 平面論題
九†九三 ヲルゼン 画学影府
九†九四 ワーレン プロゼクション
九†九五 アメンゴー 画学書
九†九六 メハン 画学

十二年七月米国ヨリ

九†九七 アルマテージ 馬医
九†九八 シヤウボウ 比較解剖

九十九　コール　馬　足
九十九　ダッド　米国獣送
壱ダン　獣送薬剤
二ヂユラント　騎馬
三フレシンク　獣畜産科
四一ノ二　同　獣送健全学及警察　全二
四ゲンジエー　家畜　全二
五同　鉄蹄及跛足
六ヘルム　米国ロードステル
七ロー　農家獣送
八モルトン　調馬
九セラル等　農園生理
拾テーロル　家畜ノ病
拾一ヲールシ　馬主韻府
十二スマキル氏　自助論
フロリル（小冊）　馬勒

明治十二年十一月教頭ホエラ献納書左ニキシ

十三　バルソロメウ　画線式
百十四ノ二　ブラウン　器械運転式

十六

十四　クラーク　万国度量衡
十五　コルフキールト　陰渠設置并利用法
十六　イメルソン　生涯行状
十七同　尺膸并交際目的　「ブルクス焼ク十七年一月」
十八　ギルレスピー　高等測量
十九同　道路并鉄道
二十同　街衢道路并敷石
廿一　クリインリーフ　代数学入門
廿二同　高等代数学
二二ノ二　クロスベツキ　通商数学
三八ノ二　ヒツチコツク　地質学入門
廿三　ホルトン　建築学
九ノ二　ハフス　瓦斯工書
百七ノ三　同　水利学書
廿四　ヂエルウヰス　鉄道論
廿五　ケムプ　園庭設置法
廿六　ルーミス　幾何及円錐学

八一ノ二　ギルモール　塗料并白亜製法

千†廿七	同	三角術及対数
五六四ノ二	マハン	土木学
九†三二ノ十七	ピイボディ	星学書
一九三ノ十八	ペルリー	経済学
三九六ノ十四	ランキイン	土木学
千†廿八	ロープル	蒸気機関袖珍書
千†廿九	スクレブネレ	土木師袖珍書
千†三十	スリマン	理学書
千†冊一	スマイル	土木師生計全五
九二七ノ十七	スミヅス	トポグラヒカルトロノキンイ
千†冊二	トーマス	農業諸器械
千†冊三	タラウトキン	土木師袖珍書
千‡冊四	ヴオース	鉄道機械師ノ作業〃〃 手簿
六百十ノ二	ウエーリンク	農工手簿
千†冊五	スミツス	工術教育
〔ママ〕端ノ	ウエイスバツク	土木器械学書
八†五二ノ三	ホウキーレル	人民家屋
千†冊六	同	平面三角測法
六三六ノ二	キルラルト	万国史

三

二

千†冊七	レツチ	孔〔加筆〕夫子一世記〃〃
千†冊八	ロング氏	幷教育法〃〃、エム、アウレリアス、アウトニアス帝ノ思想〔加筆〕「シーマン之」経典学妄説〃〃
千†冊九	バイアンテ氏	詩集
千†四十	ロングフエルロウ	同上
千†四十一	ウキツチール	同上
千四十二	テンニーソン	サマンサ、アトゼ、セテテニアル
千†四十三	アルレンス妻	マイ、オビニヲンス、エンド、ベトセイボツベツツ〃〃〃〃〃〃
千〃四十四	アーレス妻〃〃	人ト書籍
千†四十五	マシュース	大会議
千†四十六	マシュール	ジョトソンス、ダイス
千†四十七	イベレナー	ウエリナ〃〃
千†四十八	ホルニー〃〃 ホイリー	骨牌戯書
千四十九	チカゴ	七日記

〔ブルクス焼ク十七年一月〕

十三年一月米国より買入分

千七百五十年　アボット
千七百五十一年　マアガレツト伝
千七百五十二年　蘇格土女王マーレー伝
千七百五十三年　チヤーレス第二世伝
千七百五十四年　ロマルス伝
千七百五十五年　英王リチヤード三世伝
千七百五十五年　エリザベス女王伝
千七百五十六年　ジユリヤス、シイザル伝
千七百五十七年　ダリヤス、ゼ、グレート伝
千七百五十八年　歴山大王伝
千七百五十九年　リチヤード第一世伝
千七百六十年　ピラス伝
千七百六十一年　リチヤート第二世伝
千七百六十二年　キリヤムゼ、コンケロル伝
千七百六十三年　クレオパトラ伝
千七百六十四年　成吉思汗伝
千七百六十五年　マリヤ、アントワネツト

千七百六十六年　ヘンリー四世
千七百六十七年　ジョゼフボナパート
千七百六十八年　ルイ十四世
千七百六十九年　ルイ　ヒリツプ
千七百七十年　ヘルナンドコルテス
千七百七十一年　ホルテンス
千七百七十二年　マダム、ローランド
千七百七十三年　ジョゼヒン
千七百七十四年　ワンパノアグス王フイリツプ
千七百七十五年　サイラスゼ、グレート
千七百七十六年　ハンニバル、ゼ、カータジニヤン
千七百七十七年　ゼルキセス、ゼ、グレート
千七百七十八年　ネ　ロー
千八百十年　英王アルフレツト
千八百十一年　同チヤーレス一世
千八百十二年　レプロダクテーブオーガン

「ブルク焼ク十七年一月」

アクトン
アダムス

英文学字書

千八十三	アガシイ	博物学
千八十四	アプレトン	仏国家庭
千八十五	アプレトン	独国家庭
千八十六	バジオト	物理及政略
千八十七	ベールド	学術年報自千八百七十一年至千八百七十八年 八
	十五年千八百七十八年ノ二ヲ加ヘ	
千八十八	バートレツト	普通抜萃
千八十九	ベーツ	中部及南亜米利加
千九十	ベンヂヤミン	欧洲同世技術
千九十一	ブラオン	ヨセツフ メンタルフイジヨロジイ
千九十二	カアペントル	自由之話
千九十三	コツフイン	記簿法
千九十四	クリツテンデン	英文学及英語全 二
千九十五	クレーク	身人心究理第二巻 廿部
千九十六	カツター	装飾字画
千九十七	デラモツト	クレーターブリテーン
千九十八	デルク	キラネ湖ヨリ金
千九十九	フイールト	角マテ
千百		
千百一	ヒツキンソン	訓蒙合衆国史
千百二	ホベラツク	語学術
千百三	ハツクスレー	無臼骨動物性理
千百四	同	臼骨動物性理
千百一	フレスチヤル	埃及ヨリ日本マテ
千百二	フラワル	ボラメトリツク、アナライゼス
千百三	フオセルギル	胎生獣ノ骨学
千百四	ガアトン	健全
千百五	ゲゲンボア	英国学士
千百六	グレー	比較解剖
千百七	ヘール	支那全 弐
千百八	ヘヤ	ホワツト、ケヤーレル
千百九	同	倫頓逍遙
千百十		羅馬逍遙
千百十一		ダテールエブストルノ記憶
千百十二		ハーベー

「ブルクス焼ク十七年一月」

「ブルクス焼ク十七年一月」

「ブルクス焼ク十七年一月」

千†百十五	同	植物記
千†百十六	ホキスレー等	性理及健全
千†百十七	ゼイムス	欧州人
千†百十八	同	米州人〔ママ〕
千†百十九	ゼボン	貨幣及
千†百廿	ジョンソン	スタデヲアーツ
千†百廿一	同	単純高名ノ詩
千†百廿二	同	プレーテイノ詩
千†百廿三	同	小経典全十六〔一、五、七、九、十一、十三、ブル焼ク十七年一月〕
千†百廿四	テイン	英文学史全弐
千†百廿五	ケンドリツク	愛慕ノ詩人全弐
千†百廿六	ラム	セイキスペヤ中ノ話
千†百廿七	レフエブル	理学
千†百廿八	レノルマン	亜細亜古史全弐
千†百廿九	レトルノー	生活論史伝学
千†百冊	レキス	独逸史
千†百冊一	ロングフエロー	各所ノ詩全廿九
千†百冊二	マクガハン	オキサス野営及キバノ滅亡

千†百冊三	マーベル	鰥夫ノ思想
千†百冊四	マカリストル	動物学
千†百冊五	ミバート	解剖初歩
千†百冊六	マーテン	米文学精選
千†百冊七	同	英文学精選
千†百冊八	ニウコーム	天文学
千†百冊九	ヒウス	在ルツグバイノトムブラウン
千†百四〜十	同	在オキスフオルドノトムブラウン弐全三部
千†百四一	オプテツク（ヤングアメリカ／アブロードフワ／ーストセリース）レツドロツス	〔一、二、ブルクス焼ク十七年一月〕
千†百四二	同 〃	パラス、エント、コツテージ
千†百四三	同 〃	アウトワードバウンド
千†百四四	同 〃	ダイクス&デツチス
千†百四五	同 〃	シヤマロツクスイストル
千†百四六	同 〃	ダウンゼライン（セコンドセリース）
千†百四七	同 〃	アイルス、オブ、セイ

千†百四八	同	〃	バイン&オリーブ
千†百四九	同	〃	クロツス&クレセント
千†百五十	同	〃	ノーセルンランド
千†百五一	同	〃	アツプゼ、ボルテツク
千†百五二	同	〃	サンネイショールス
千†百五三	パートン		滑稽詩
千†百五四	パーキン		ベストリーデング
千†百五五	ピールス		チヤーレスサム全二ネルノ記録
千†百五六	プライム		世界一周
千ミ百ミ五七ミ	プロクトルミミミミミ	「ブルクス焼ク十七年一月」	閑時小学ミ
千†百五八	ケツケンボス		往古文学
千†百五九	ロルフ	セキスピアザル	ジユリヤスシイ
千†百六十	ロルフ	〃	ミツドソンマル、ナイト、ドリーム
千†百六一	同	〃	アズユーライキイツト
千†百六二	同	〃	コメデイ、オフ、ゼ、テンペスト

弐部

千†百六三	同	〃	顕理五世
千†百六四	同	〃	顕理五世
千†百六五	同	〃	リチヤート二世
千†百六六	同	〃	「ベニス」ノ商人
千†百六七	同	〃	マツチ、アド、エバウト、ナツシングロメオ&シユリエト
千†百六八	同	〃	トラゼデイ、オフ、オセロ
千†百六九	同	〃	トラゼデイ、オフ、マクベス
千†百七十	同	〃	トラゼデイ、オフ、ハムレツト
千†百七一	同	〃	オリバルゴルドスミス詩選
千†百七二	同	〃	トーマスグレイ詩選
千†百七三	同	〃	文学史
千†百七四	スシイゼル		エツヂウード雨天
千†百七五	スクリブネル		世界一周
千†百七六	セワード		邪蘇教史
千†百七七	スミス		南欧文学全弐
千†百七八	シモンヂ		世界一周
千†百七九	スマイル		

千†	百八十	スプリイ	チヤーランゼル ノ巡航
千†	百八一	スタンレイ	暗黒大陸全弐
千†	百八二	ストツタート	詩人ノ家
千†	百八三	スチユアート	米国土木師等
千†	百八四	ステワート	勢力ノ保護
千†	百八五	テイン	巴利
千†	百八六	テイン	英吉蘭
千†	百八七	テーロル	ビウスアフート
千†	百八八	同	欧洲小径
千†	百八九	トピナード	人道究理
千†	百九十	テンダル	アワールオフエキセルサイス
千†	百九十一	ベルン	地球より月界
千†	百九二	同	地心へ旅行
千†	百九三	同	海中二万レーグ
千†	百九四	ベロン	監定学
千†	百九五	ベルン	八十日世界一周
千‡	百九六	ヲーラス	動物ノ配分全弐
千‡	百九七	ワーレン	機械製造
千‡	百九八	同	機械図画

千†	百九九	ウード	博物学	胎生獣
千†	二百	ウード	〃	鳥
千†	二百一	同	〃	レプタイル
千†	二百二	同	〃	人類
千†	二百三	同	〃	人類亜弗利加
千†	二百四	ヨンジ	英文学	
千†	二百五	キルソン	健全学	
千†	二百六	アンダーウート	英文学	廿一
千	二百七	ヨーマン	ポピユラーサイ ンス月報	九マテ
		「十四年十一月一部ヲ加ヘ」		
千	二百八	ハーパー	月報自一 至五十七	
		「同月一部ヲ加ヘ」		
千	二百九	ビツドエル	エクレテツ自千八百六十三年 クマガゼン至〃七十九年	
			但六十三年三 六十四年三 六十五年第一ヨリ七十九年第廿 九巻マテ	
千	二百十	ナイト	十四年七十九年 八十年 二冊ヲ加フ	
			ミカニシヤンエ ンドコンストラ クトル	
千‡	二百十一	グローブ	鉄道橋コルボル ト停車場	
千‡	二百十二	ローブリング	長短鉄道橋	
千‡	二百十三	ホルレイ	亜欧鉄道実験	

千†二百十四	グリン	水力	
千二百十五	ハスエル	ポツケツトテーブル	
千†二百十六	ユーア	ジクショナリイ	
千‡二百十七	デンプシイ	鉄道土木師	
千†二百十八	ハスエル	鉄道建築	二二
千二百十九	ヤング	移民報告	
千†二百二十		セクレタリイオフヲール報告	
千†二百廿一	モレー英国文学史伝バンヤン		
千二百廿二	同上	バルクス	
千二百廿三	〃	バルンス	
千†二百廿四	〃	チヨーサル	
千†二百廿五	〃	カウバル	
千†二百廿六	〃	デボー	
千†二百廿七	〃	ギボン	
千†二百廿八	〃	ゴードスミス	
千†二百廿九	〃	ホーソルン	
千†二百卅〇	〃	ヒユーム	
千†二百卅一	〃	ヂヨンソン	
千†二百卅二	〃	ミルトン	

千†二百卅三	〃	ポープ	
千†二百卅四	〃	サツカレー	
千†二百卅五	〃	スコツト	
千†二百卅六	〃	シエレー	
千†二百卅七	〃	サウシイ	
千†二百卅八	〃	スペンサル	
千†二百卅九	ミルトン	詩集	
千†二百四十	バルンス	詩集	
千†二百四十一	スコツト	詩集	
千†二百四十二	ムーア	詩集	
千†二百四十三	コバート	古代ノ歌	
千二百四十四	ホームミヽミヽ	詩	
	「ブルクス焼ク十七年一月」		
千†二百四十五	ホキツテヤ	三百年間ノ歌	
千†二百四十六	リツピンコツト板	スキツスバミリーロビンソン	
千二百四十七	同	ドンキヲテ	
千†二百四十八	同	亜羅比亜ノ夜	
千二百四十九	同	ロビンソンクルーソー	
千†二百五十	トドハンタル	器械学	

†千二百五十一	ロツクヤル	日光分析	
†千二百五十二	ベンスタイン	人ノ五官	
†千二百五十三	マレイ	動物器械	
†千二百五十四	バンベネデン	アニマル、パラサイツ、エンド、メスメーツ	
千二百五十五	ハックスレー	クレイフヒツシユ	
†千二百五十六	シューゼレサルジア	腐化	
†千二百五十七	ペッテグルー	動物運動	
†千二百五十八	クックルバルケレイ	菌	
千二百五十九	クックス〃〃〃〃	英国菌手簿	「乾、坤、ブルク焼ク十七年一月」
千二百六十〃〃〃〃	同〃	顕微〃菌	「ブルクス焼ク十七年一月」
†千二百六十一	ビール	医学用顕微鏡	
†千二百六十二	ロバルト	医学ノ説及術	
†千二百六十三	キリアムス	獣医ノ理及術	
†千二百六十四	ウヲムレイ	毒ノ顕微化学	
†千二百六十五	ロツクヤル	日光窮理	
†千二百六十六	ビール	顕微鏡用法	

二巻

†千二百六十七	カツタル	フライ顕微鏡	
†千二百六十八	ニコルソン	動物学	
†千二百六十九	シモンド	海産	
†千二百七十	グリーン	英史抜粋	二巻
†千二百七十一	シエル	欧洲歴史	
†千二百七十二	ビール	プロトプラスム	
†千二百七十三	ニコルソン	バイヲロジー	十九
†千二百七十四	デビス	測量書	二十
†千二百七十五	〃	リゼンダル	二十一
†千二百七十六	パソカード	動物学	二十五
†千二百七十七	アンダーウード	英文学	二十五
†千二百七十八	マーシヤル	人身窮理	三巻
†千二百七十九	ロスコー及ショーレンマル〔注八〕	化学	
†千二百八十		馬州報告	
†千二百八十一	ブロキサム	化学	
†千二百八十二	パアカル	衛生学	
†千二百八十三	キリアム及テツグ版	ナポレヲン歴史	
†千二百八十四	テーラル	往古及近世史	
†千二百八十五	ブランド及ビコツクス	学術字書	一部三巻

六百四十一
旧四千八百六
新四千七百五十二
四二六九部

十五年フルツクス氏買入ノ分

†千二百八十六	アーノルド	米国製乳法	一冊	
†千二百八十七	ベッシイ	本草学	廿	
†千二百八十八	エッジオルス	南方生計書	一	
†千二百八十九	ハアラン	緑肥用法	一	
†千二百九十	ハアト	作文初歩	廿	
†千二百九十一	「マアテン」及ビ「モール」	動物解剖手簿	一	
千二百九十二	マキルス	家畜養法	一	
千二百九十三	メルトン	農学初歩	一	
†千二百九十四	ウェーヤ	糖菜	一	
千二百九十五	合衆国漁業係	食魚繁植法	二	
†千二百九十六	同	報告書 十七年四月五ノ巻来ル外三ノ二アリ	四	
†千二百九十七	バックストン	自由貿易ノイロハ	廿五	
†千二百九十八	ハアラル	自由貿易反保護貿易	七	
千二百九十九	モングレヂエン	自由貿易及ビ英国商業	十(一)	
†千三百同		自由貿易歴史	五	
†千三百一同		保護説ヲ正ス	十(一)	
千三百二	クロツス	輸入輸出及仏国条約	五	
†千三百三	ジョージ及メドレイ	自由貿易ノ英国	廿(二)	
†千三百四同		リシプローシークレーズ	廿五	
千三百五	ピヤス	貿易及外国品課税通常ノ誤説	十	

〔各書籍部数の変更は採録していない。各書籍番号の右肩に付した†印は、北海道大学附属図書館北方資料室に、‡印は、室蘭工業大学附属図書館に現存していることを示す。〕

〔注一〕目録中朱書は「　」により示した。

〔注二〕「第三百拾三号」と「第三百拾四号」との間の欄外に「合併スベシ」と記載あり。

〔注三〕欄外に「一五三トナス」と記載あり。

〔注四〕記載なし。

〔注五〕記載なし。

〔注六〕九八六号は欠番。

〔注七〕欄外に「十四年米国ヨリ来ル」と記載あり。

〔注八〕欄外に「十四年東京ニテ買」と記載あり。

〔農〇六九〕